

上の原第2遺跡
上の原第1遺跡

上の原第4遺跡 白ヶ野第3遺跡A地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
第1分冊

2000年

宮崎県埋蔵文化財センター

上の原第2遺跡
上の原第1遺跡

上の原第4遺跡 白ヶ野第3遺跡A地区

県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ
第1分冊

2000年

宮崎県埋蔵文化財センター

例　言

- 1 本書は、県営農地保全整備事業時屋地区に伴い宮崎県教育委員会が実施した、時屋地区遺跡群・上の原第2遺跡／上の原第1遺跡／上の原第4遺跡／白ヶ野第3遺跡A地区の発掘調査報告書である。
- 時屋地区遺跡群の調査報告書としては、既に第I集『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第13集』が刊行されている。調査に至る経緯や調査の組織、遺跡の位置等については、第I集を参照されたい。
- また本来、本書の第V章にあたる部分（「白ヶ野第3遺跡B地区の調査」）は、別冊の「第2分冊」として刊行している。
- 2 発掘調査は、宮崎県中部農林振興局の依頼を受けた宮崎県教育委員会が主体となり、平成6・7年度は県教育庁文化課が、平成8年度は宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 現地での実測等の記録は、吉本正典、東　憲章、鎌田次郎、井田　篤が行い、一部を業者に委託した。
- 4 本書に使用した写真は吉木、東が撮影した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面の作成、製図は調査員と整理作業員で分担した。
- 6 本書中の図面の方位は、磁北を基にしている。
- 7 本書の執筆は吉本が行った。ただし第I章第2節の（8）堅穴、及び（9）集磧（1号集磧）のみ東が行った。
- 8 遺構の略号は以下の通りである。
S A = 堅穴（住居） S C = 土坑 S D = 土壙墓 S E = 溝状遺構 S X = 不明土坑
S Z = 集磧（墓） S K = 不整形な凹部
- 9 出土遺物、その他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第Ⅰ章 上の原第2遺跡の調査	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 層序	7
第2節 調査の記録	9
1 Ⅲ層上面検出の遺構・遺物（近世）	9
2 Ⅲ層上面検出の遺構・遺物（縄文時代）	67
3 Ⅳ層以下の遺構・遺物	186
第3節 まとめ	200
図 版	201
第Ⅱ章 上の原第1遺跡の調査	231
第1節 調査の概要	231
第2節 調査の記録	237
1 Ⅲ層上面検出の遺構・遺物（中～近世）	237
2 Ⅲ層上面検出の遺構・遺物（古墳時代）	237
3 " (縄文時代)	250
4 Ⅳ層以下の遺構・遺物	279
第3節 まとめ	283
図 版	284
第Ⅲ章 上の原第4遺跡の調査	297
第1節 調査の概要	297
第2節 調査の記録	297
第3節 まとめ	298
図 版	299
第Ⅳ章 白ヶ野第3遺跡A地区の調査	300
図 版	300
第Ⅴ章 おわりに	301

第Ⅰ章 上の原第2遺跡の調査

第1節 調査の概要

1 調査の経過

上の原第2遺跡の調査においては、45,500m²に及ぶ広大な面積が対象となったが、必要な調査期間が確保できなかったため、遺憾ながら一部不十分な点があったことを記しておかねばならない。

具体的には、Ⅲ層（アカホヤ火山灰層：後述）上面での遺構の密度が高い場所については、Ⅳ層以下の縄文時代早期の文化層の調査を部分的にしか実施できなかった点や、遺構の掘り下げの際に、半蔵や柱痕跡の確認などは最小限にとどめざるを得なかった点などが挙げられる。

ともあれ、ここで調査の大まかな流れを記し、加えて遺構の在り方等について言及しておく。

まず、平成6年（1994）4月末の調査開始段階で、既に石塔、礫、遺物の集積箇所（後に1号集積所と名付けられる）が確認されており、その付近の遺構精査や実測から着手した。並行して重機による表土（耕作土）の除去を行い、基本的には北側から遺構検出作業、遺構掘りを行っていった。

調査地内を北～南東方向に貫く旧農作業道があるが、その北側は6月中旬にはほぼ調査が終わっている。この付近はⅢ層の残存状況が良く、その上面で遺構検出を行った。

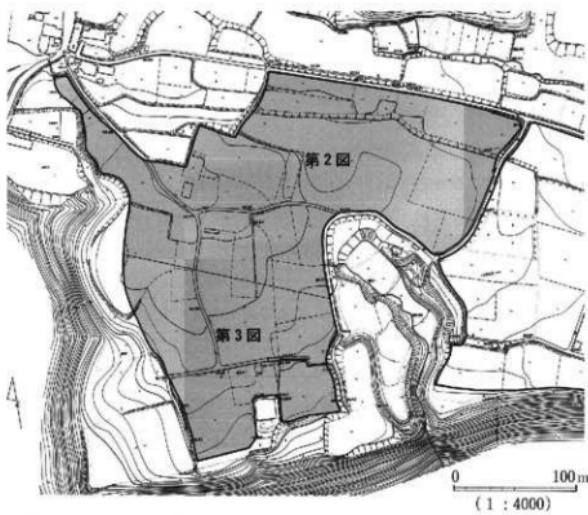
旧農作業道の南側は、削平が進み、表土を剥ぐとかたいⅣ・V層があらわれる。ここでは縄文時代、近世の遺構が密集中しており、相当な調査時間を要することが予想された。そのため東西方向に2分割し、まず36-21杭と42-21杭を結ぶ線（以下「中軸線」とする）より西側の調査に集中することとした。その辺りの遺構の分布状況は、添付した別図に示している。特に縄文時代中期末～後期の竪穴・土坑、近世の柱穴群・土壤墓・溝、「集積」とした石塔・礫集積箇所（墓かいわゆる「詰り墓」か）など、当地の生活の痕跡の断片を垣間見ることのできる好資料を多量得ることができた。ただし、協議の結果、9月までには中軸線以西を開発主体に明け渡し、その部分については先行して工事に着手することとなった。そのため、最も遺構の密度の高いところが分断され、平面図等の図面は繋ぎ合わせができるものの、全体写真については東・西別個に撮影せざるを得なかった点が惜しまれる。

調査地の南部は、Ⅲ層の残存状況が良くなり、遺構検出も容易に行うことができたが、概して南へ向かうほど遺構の密度が低くなり、小穴や土坑の番号を付した中にも、不整形で遺構かどうか疑わしいものがある。南側および南東側は谷地形となり、シラス台地特有の急崖を成している。

9月からは、地元の協力も得て作業員数を増員し、中軸線の東側での遺構検出、掘り下げを行っていった。36-40-23・24区辺りは遺構密度がますます高くなり、作業は多忙を極めた。また谷部に下りる「道」と目される溝や、埋没谷なども検出された。加えてⅣ・V層があらわれているところでは、縄文時代早期の集石遺構も確認され、特に調査地北東～東側での検出状況から、いくつかのまとまりを形成して分布している様子が看取できた。

このように、多くの成果と課題をもたらした本遺跡の調査は、11月1日にはその全てが終了した。

さて、第2節では、「Ⅲ層上面検出の遺構・遺物」と「Ⅳ層以下の遺構・遺物」に大別して記述を進めている。ただし、Ⅲ層の欠落しているところもあり、縄文時代中期末以降の遺構・遺物と、縄文時代早期のそれという括り方が正しい。



第1図 上の原第2遺跡周辺地形図（1／4000）

記述の際の章立ては、調査の流れに従い、新しい時代から古い時代へという方向とした。同一時代の遺構は、検出順に付した遺構番号順に記述を進めた。

また遺物の掲載に関して、徹底的な出土地重視の原則をとっている。すなわち、近世の遺構の覆土中より出土した遺物は、たとえ縄文時代の遺物であっても当該遺構のところで取り扱った。実際にそのようなケースが多く、例えば縄文時代の遺物を検索する際には便利とは言えないが、整理の都合上のことである。ご容赦願いたい。



第2図 造構分布図(1) (1/500)



第3図 造構分布図(2) (1/500)

2 層序

基本層序は以下の通りである。なお、第4図は48-22~24区付近の層位である。

I 層

- a層 耕作土。やわらかい。ところによっては、各時代の遺物を多量含む。
- b層 黒褐色土。やや褐色味が強い。やはり遺物を多量含む。
- c層 オリーブ褐色土。縄文時代後期の遺物包含層。本来、近世以降の層であるI b層と区別し、II層とすべきであろうが、調査の初期の段階でII層を決定したため、このようになった。これはd・e層も同様である。
- d層 黒褐色土。II層に似る黒色土ブロックを多く含み、全体としても黒味の強い印象を与える。
- e層 黒褐色土。黄色土ブロックを含む。
- b層、c層は、主に調査地北西側に堆積している。d層、e層は南西側で確認されており、b・c層とd・e層の関係については明確にできなかった。従って、b及びc層が、d・e層よりも上位にあるという確かな証拠は得られていない。

II 層

黒色土。III層ブロックやバミスを多く含む。ややかたい。基本的にIII層のあるところのみ確認される。

III 層

いわゆる「アカホヤ」層。アカホヤ火山灰と下部の火砕流（幸屋火砕流）、降下軽石（径1～5mm）を母胎とするが、ところどころ腐植化し、断列化する。
この層の上下（IIおよびIVとの層界）は不整合となり、第4図に見るよりも、層界の線は入り組む。

IV 層

褐色土。やや黒味強い。白色の小バミスを含む。かたい。

V 層

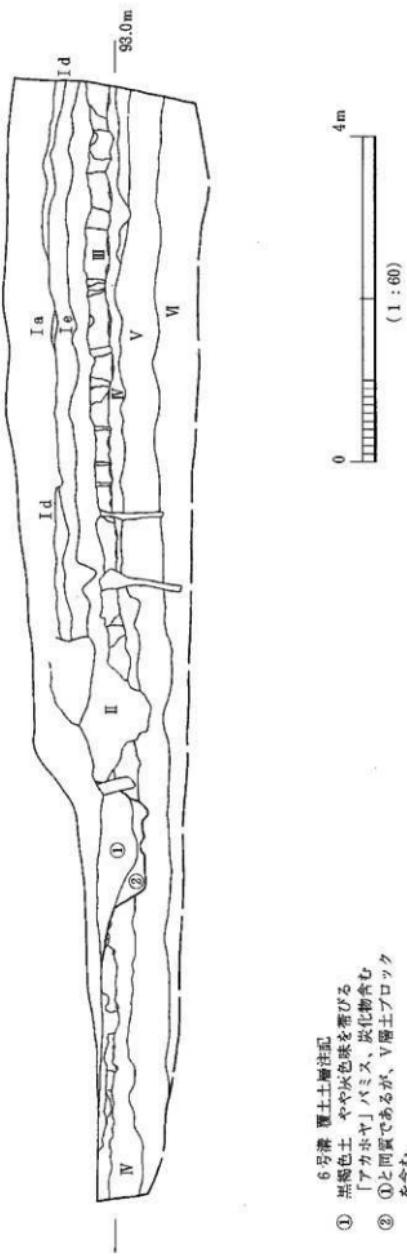
オリーブ褐色土。色調はややまだらとなる。

VI 層

黄褐色土。砂質。橙色バミス（径3～8mm）を多く含む。AT層か。下部は白味が増し、基盤のシラス（入戸火砕流）に続く。

IV～VI層については、層界は不明瞭であり、漸移的である。

第4図 滲位断面図



第2節 調査の記録

1 III層上面検出の遺構・遺物（近世）

前節でも述べたとおり、旧農作業道の南側辺りで遺構が密集している様子が確認できた。以下、建物跡、塀・構列、土壙墓、小穴、溝、竪穴、集躑（墓）の順に遺構と出土遺物を掲載していく。

（1）建物跡

確認できた建物跡は合計8棟である。柱穴の埋土は1b層類似の褐色土系のものである。ただし、それらの付近には他にも同種の柱穴が多数あり、当然のことながら総数はさらに増えると見られる。また確認できた建物についても、間仕切り壁や突出部など、平面形を複雑にさせる要素が加わる可能性がある。

構築時期は、小穴出土遺物（第11～13図）や包含層出土遺物より推定される存続幅の中に収まるのであろうが、細かな変遷は示し得ない。

1号掘立柱建物（別図1左）

中軸線の西側にある桁行3間・梁間2間の南北棟建物跡。遺構主軸は約22°東に振れており、奇しくもグリッド線にほぼ並行となる。桁行総長は6.5m、梁間総長は4.0m。柱間寸法は桁行が1.8m（南西側1間分は2.8m）、梁間が2.0mとなる。間切り柱のある構造とも推測されるが定かでない。また、さらに南西側に1間分のびる可能性もある。

2号掘立柱建物（別図2左）

39-20-21区で検出された桁行3間・梁間3間の建物跡。平面形は方形に近い。遺構主軸は約15°東偏する。桁行総長は6.0m、梁間総長は5.5mを測る。柱間寸法は1.5～2.0mでややばらつきがある。

この建物跡の中央やや西寄りに、白色粘土製の石皿状の構築物がある（網掛け部）。用途などは不明で、この建物に伴うものという確証もないが、位置から見て関連する施設である可能性が高い。

3号掘立柱建物（別図2左）

2号掘立柱建物の東隣にある。桁行3間・梁間2間の建物跡か。ただし桁行の柱間寸法は不揃いとなっており、認定に若干の疑問も残る。梁方向の柱間はほぼ1.4mとなる。遺構主軸は約22°程東偏すると見られ、1号掘立柱建物などと同一の構築方向となる。桁行総長は3.9m、梁間総長は2.8mを測る。

4号掘立柱建物（別図2左）

40・41-21区にある。桁行7間・梁間3間の大形の建物と見られ、さらに西側に庇が付く。遺構主軸は約15°東偏する。桁行総長は11.8m、梁間総長は6.0m。庇の出は1.3m。柱間寸法はやや不揃いとなる。

5号掘立柱建物（別図2左）

4号掘立柱建物の北西隣にある。桁行3間・梁間2間の南北棟建物跡。柱間寸法はやや不揃いで、南隣の柱穴はやや位置がずれている。遺構主軸は約22°東偏する。桁行総長は6.0m、梁間総長は3.0mを測る。

6号掘立柱建物（別図2左）

5号建物跡の南西側にある平面正方形の建物跡。一辺長は約3.9m。5号掘立柱建物などと遺構主軸が揃っている。

7号掘立柱建物（別図2右）

中軸線の東側、39-22・23区にある。桁行4間・梁間2間の東西棟建物で、造構主軸は約22° 東偏する。桁行総長は8.8m、梁間総長は4.0m。柱間寸法は約2~2.5m。

8号掘立柱建物（別図2右）

7号掘立柱建物の南西側にある。桁行4間・梁間2間の南北棟建物で、規模は7号掘立柱建物とはほぼ同一となる。造構主軸もやはり揃えており、同時期に存在した建物と考えられる。

以上の他、43-44-21区でも、柱穴の並びが確認できるが、確定には至らなかった。その南側に、2号掘立柱建物の内部に見られたものと同種の白色粘土製の石皿状構築物が確認された（網掛け部）。

（2）塚・横列

2基確認している。いずれも北西-南東方向に柱穴が並ぶものである。

1号塚（別図2左）

5基の柱穴が直線に並ぶ。総長は約10m。

2号塚（別図3左）

7基の柱穴が並ぶ。総長は約12m。

（3）土壙墓

長方形、ないしは円型の土坑が計144基余検出された。中には人骨の出土しているものもあり、また石塔も散見されたため、当地に墓地が営まれていたことが判明した。ただし、掘立柱建物との時間的関係並びに併存した場合の空間的関係は、現段階では明確ではなく、詳細については今後に期したい。

埋土は概ねI b層類似の褐色土・黒褐色土で、やわらかく、炭化物粒や黄色バミスを含む場合が多い。

1号土壙墓（第5図左）

43-19区で検出された長方形の墓壙。上部の検出面近くに自然石塔婆が据えられていた。埋土は黒褐色を呈し、上層はやや砂質となる。下層はⅢ層土ブロックを多く含む。平面規模は1.5m×1.2m、検出面からの深さは70cmを測る。

2号土壙墓

32-20区で検出した長方形の土坑で、埋土はやや淡い黒褐色を呈し、土中にⅢ層バミスが混じる。出土遺物は皆無であったが、その形状から墓壙と見られる。平面規模は1.3m×0.9m。検出面からの深さは約90cm。

3号土壙墓

長方形の土坑で、2号土壙墓同様、墓壙と見られる。埋土の土質も2号土壙墓に似る。平面規模は1.2m×1.0m。検出面からの深さは約50cm。

4号土壙墓

やはり長方形の墓壙。平面規模は1.3m×0.8m、検出面からの深さは約40cmを測る。

5号土壙墓

32-18区で検出された。南東隣にある別の土坑を切る。平面規模は1.0m×0.9m、検出面からの深さは約35cm。

6号土壙墓

やや小振りで、0.9m×0.7mの方形を呈する。検出面からの深さは約40cm。

7号土壙墓

33-20区で検出された方形の墓壙。平面規模は1.0m×0.8m、検出面からの深さは約40cmを測る。

8号土壙墓

7号土壙墓の東側にある同様の形態の墓壙である。平面規模は1.2m×0.9m、検出面からの深さは約40cm。

9号～15号土壙墓

7号土壙墓の南西側に7基の墓壙が密集している。隅丸長方形を呈するものが多い。前後関係等の詳細は不明で、時期比定の鍵となる遺物も皆無であった。

16号～22号土壙墓

34-20区で検出された墓壙群。9号～15号土壙墓同様、隅丸長方形を呈するものがほとんどである。やはり目立った遺物は出土していない。

23号土壙墓（第7図）

32-20区で検出された長方形の墓壙。平面規模は1.6m×1.1m。検出面からの深さは約40cm。埋土中より、陶器碗の小破片が出土している（1）。

24号土壙墓

23号土壙墓の南東側にある長方形の墓壙。この24号土壙までが、農作業道の北側で検出されたものである。

平面規模は1.2m×0.7m、検出面からの深さは約40cmを測る。

25号土壙墓（第7図）

36-37-19区で検出された円形の墓壙。径は1.2m、検出面からの深さは約100cmを測る。2号溝を切っている。埋土中より、染付碗や擂鉢などの遺物が出土している。

26号土壙墓

26号土壙墓の西側にある。やはり円形の土坑。径は1.2m、検出面からの深さは約120cm。

27号土壙墓

37-19区にある不整形の土坑で、これについては墓壙とする証拠に乏しい。埋土は黒褐色を呈する。長径3.5m、幅1.4m、検出面からの深さは約20cm。

28号土壙墓（別図1左）

38-19区で検出された梢円形の土坑。平面規模は1.5m×1.0m。検出面からの深さは約25cm。

29号土壙墓（別図1左）

隅丸長方形の土坑。21号土坑を切る。平面規模は1.5m×0.9m。検出面からの深さは約30cmを測る。

30号土壙墓（別図1左）

30号土壙墓～39号土壙墓は、36-37-20-21区付近に集中する一群で、遺構番号を付していないものも含めるとその総数は相当数に上る。それらの南西側には1号溝が走る。

30号土壙墓は梢円形を呈する。平面規模は1.9m×1.4m、検出面からの深さは約20cm。

31号土壙墓（別図1左）

円形を呈する。径は0.8～0.9m、検出面からの深さは約30cmを測る。

3 2号土壙墓（別図1左・第7図）

長方形の墓壙であろうが、他の土坑との切り合いにより平面形が判断し難くなっている。中央部分の深さは約15cm。埋土中より染付碗の小破片（8）が出土している。

3 3号土壙墓（別図1左）

円形の墓壙。径は1.3~1.5m、検出面からの深さは約20cmを測る。埋土中より在地陶器の甕が出土している。

3 4号土壙墓（別図1左・第7図）

長方形の墓壙。平面規模は1.7m×1.0m、検出面からの深さは約35cm。埋土中より染付瓶の小破片が出土している。

3 5号土壙墓（別図1左）

やや隅丸の長方形の墓壙。36号土壙墓を切る。平面規模は1.6m×1.0m。検出面からの深さは約50cmを測る。

3 6号土壙墓（別図1左・第7図）

隅丸長方形の墓壙。33号土壙墓と35号土壙墓に切られる。検出面からの深さは約40cm。埋土中より染付瓶などの遺物が出土している。

3 7号土壙墓（別図1左）

長方形を呈する。平面規模は1.9m×1.4m、検出面からの深さは約35cmを測る。

3 8号土壙墓（別図1左・第8図）

34号土壙墓の南に位置する。長方形を呈する墓壙。平面規模は2.3m×1.1m、検出面からの深さは約40cmを測る。

この墓壙からは、染付碗、肥前系陶器の鉢、在地陶器の茶家など比較的多くの遺物が出土している（12~18）。うち、15と16は同一個体。

3 9号土壙墓（別図1左）

やや不整な楕円形を呈する。墓壙と認定するには若干疑問が残る。径は1.2~1.4m、検出面からの深さは約25cm。

4 0号土壙墓（別図1左・第8図）

38-20区で検出された隅丸の方形を呈する墓壙。南西側は別の土坑に切られる。また耕作の影響を受けているため、検出面からの深さは15cm程度となっている。

埋土中より比較的多量の遺物が出土している。染付碗、猪口などが認められる（19~27）。27は肥前系磁器の蓋で、鉄軸掛け分けを施す。

4 1号土壙墓（第6・9図）

38-18区で検出された隅丸の方形を呈する墓壙。平面規模は1.7m×1.5m、検出面からの深さは約30cmを測る。

遺物が質・量とも豊富で、特に肥前系磁器の割合が高い。41は土師器の杯で、底部にはハラ切り痕が残る。第9図に示した以外にも、鉄刀や銭貨（寛永通宝1枚）などが出土している。また長径40cm程の礫や炭化物、骨片の可能性のある小個体も認められた。

それらの遺物は、江戸時代（18世紀後半頃）の一括資料として重要である。

4 2号土壙墓（第10図）

41号土壙墓の南西側に位置する。円形の土坑で、径は1.1m。埋土中より染付碗が2点出土している（42・43）。

4 3号土壙墓（第55図）

4号竪穴を切る隅丸長方形の墓壙。平面規模は1.7m×1.2m、検出面からの深さは約70cmを測る。

4 4号土壙墓（第10図）

38-18-19区で検出された梢円形を呈する土坑。この44号土壙墓の南東側に円形の土坑が列を成して続いているが、それらについては近～現代の所産と判断した。

埋土中より染付碗の小破片が出土している（44）。

4 5号土壙墓（別図2左）

39-20区にある円形の土坑。近世の所産であるが、墓壙かどうかは判然としない。径は1.2m、検出面からの深さは、約60cm。ただし床面よりさらに30cm程深い箇所がある。

4 6号土壙墓（別図2左・第10図）

45号土壙墓の南西隣に位置する。隅丸長方形の墓壙と見られるが、南側を47号土壙墓に切られ、全形は不明となっている。検出面からの深さは約35cm。埋土中より染付碗の小破片が出土している（45）。

4 7号土壙墓（別図2左）

46号土壙墓を切るやや不整な梢円形の土坑。埋土中より錢貨（寛永通宝1枚）が出土しており、墓壙と推測している。平面規模は2.0m×1.4m、検出面からの深さは約45cmを測る。

4 8号土壙墓（別図2左）

47号土壙墓の南西に接する梢円形の墓壙。平面規模は1.9m×1.3m、検出面からの深さは約55cm。

4 9号土壙墓（別図2左）

49号土壙墓の西に接する。やはり梢円形の墓壙である。平面規模は1.5m×0.9m、検出面からの深さは約30cm。

5 0号土壙墓（別図2左）

48号土壙墓の南西隣で検出された隅丸長方形の墓壙。平面規模は1.2m×0.7mと、付近の墓壙の中ではやや小振りである。検出面からの深さは約25cm。

5 1号土壙墓（別図2左）

48号土壙墓の南側にある。遺構主軸も48号土壙とはほぼ一致する。長方形を呈し、平面規模は2.1m×1.2m、検出面からの深さは約50cmを測る。

5 2号土壙墓（別図2左）

隅丸長方形を呈する墓壙。平面規模は1.8m×1.0m、検出面からの深さは約25cm。

5 3号土壙墓（別図1左）

29号土壙墓の東隣にあるやや不整な長方形を呈する土坑。29号土壙同様、21号土坑を切る。平面規模は1.7m×1.0m、検出面からの深さは約40cmを測る。

5 4号土壙墓（別図1左）

37-38-21区で検出された長方形の墓壙。明瞭ではなかったが、東側は他の土坑に切られており、そのため全体形、規模は知り得ない。検出面からの深さは約30cm。埋土中より焼鉢が出土している（47）。

5 5号土壙墓（別図2左・第10図）

39-20・21区で検出された長方形の墓壙。平面規模は1.8m×0.9m、検出面からの深さは約30cm。埋土中に縄文時代の土器片錐が混入している（48）。

5 6号土壙墓（別図1左）

54号土壙墓の南西にある隅丸長方形の墓壙。北西側は別の土坑（無番であるがこれも墓壙か）に切られる。検出面からの深さは約35cm。

5 7号土壙墓（別図1左）

56号土壙墓の南西隣に位置する。やや不整な長方形を呈するもので、平面規模は1.6m×1.3m、検出面からの深さは約50cmを測る。埋土中に遺物の小破片と疊が認められた。

5 8号土壙墓（別図1左・第10図）

37号土壙墓付近から南に続く長方形墓壙群の最南端に位置する。長方形を呈する墓壙で、東側は別の土坑（無番であるがこれも土壙墓）に切られる。埋土中より青磁碗の底部片（49）や在地陶器の茶家等が出土している。

5 9号土壙墓（別図1左）

38-21区の北端近くに位置する橢円形の墓壙。平面規模は1.8m×1.0m、検出面からの深さは約10cm強である。

6 0号土壙墓（別図1左）

円形を呈する。ここから南西側に数基の円形土坑が続く。径は1.0m～1.2m、検出面からの深さは約80cmを測る。

6 1号土壙墓（別図1左・第10図）

60号土壙の南にある。これも円形を呈するもので、径は0.8m～0.9m、検出面からの深さは約35cmを測る。埋土中より青磁皿が出土している（50）。

6 2号土壙墓（別図2左）

円形の土坑。径は1.0m、検出面からの深さは約30cm。

6 3号土壙墓（別図2左）

62号土壙墓の南にある円形の土坑。他の橢円形土坑を切る。径は1.0m、検出面からの深さは約40cm。

6 4号土壙墓（別図2左）

台形を呈する土坑。近世の所産ではあるが、墓壙であるとの確証はない。約1.5m×1.1m、検出面からの深さは約75cm。

6 5号土壙墓（別図2左）

64号土壙墓に切られる。橢円形を呈する墓壙と見られる。床面に凹部が認められる。最深部の深さは約100cm。

6 6号土壙墓（別図2左）

40-20区にある橢円形の土坑。平面規模は1.5m×1.0m、検出面からの深さは約70cm。

6 7号土壙墓（別図2左）

66号土壙墓の西に位置する。隅丸長方形を呈する墓壙か。平面規模は1.9m×1.2m、検出面からの深さは約60cm。

6 8号土壤墓（別図2左）

67号土壤墓に切られる長方形の墓壙。長辺の長さは1.5m、検出面からの深さは約65cmを測る。

6 9号土壤墓（別図2左）

40-21区にある。円形の土坑であるが、複雑に切り合っており、全容把握が難しい。

7 0号土壤墓（別図2左）

64号土壤墓の東にある。梢円形ないしは長方形の土坑であろうが、やはり複雑な切り合いにより、全容把握は困難である。

7 1号土壤墓（別図2左）

40-20区で検出されたやや不整な梢円形の土坑。床面にはさらに一段深い凹部がある。平面規模は2.2m×1.5m、検出面から床面までの深さは約35cm、最深部までの深さは90cmを測る。

7 2号土壤墓（別図2左）

40-41-21区にある。2号不整形凹部を切っている。すぐ東には82号土壤墓があり、その間に白色粘土製の石皿状構築物がある（網掛け部）。おそらく石皿状構築物が後に築かれていると考えられる。検出面からの深さは約25cm。

7 3号土壤墓（第63図）

7号豊穴を切って構築される。近世の所産であるが平面形は不整で、墓壙と断定するには疑問が残る。

7 4号土壤墓

41-19区北西端近くにある隅丸長方形の墓壙。平面規模は2.4m×1.7m、検出面からの深さは約40cm。

7 5号土壤墓（別図2左・第69図）

11号豊穴を切っている。隅丸長方形を呈する墓壙。平面規模は1.7m×1.2m、検出面からの深さは約35cmを測る。

7 6号土壤墓（別図2左）

同じく11号豊穴を切る墓壙で、75号土壤墓の西隣に位置する。平面規模は1.3m×1.0m、検出面からの深さは約55cmを測る。

7 7号土壤墓（別図2左）

41-21区にある。円形を呈する土坑で、埋土中に数個の碟が見られた。また北東脇の検出面近くにも長さ90cm程の細長い碟があり、これが自然石塔婆であった可能性もある。径は0.9m、検出面からの深さは約55cm。

7 8号土壤墓（別図2左）

41-21区南東端近くにある墓壙。平面形は正方形に近い。一辺長は1.0m、検出面からの深さは約45cmを測る。

7 9号土壤墓（別図2左）

78号土壤墓の西隣にある正方形の墓壙。一辺長は1.2m、検出面からの深さは約50cmを測る。78号土壤との間にはさらに3基の墓壙らしき土坑がある。

8 0号土壤墓（別図2左）

79号土壤の北西隣にある円形の墓壙。径は0.9m、検出面からの深さは約30cm。

8 1号土壙墓（別図3左）

41・42-21区にある長方形を呈する墓壙と見られるが、複雑な切り合いにより、形状が明瞭でなくなっている。検出面からの深さは約30cm。

8 2号土壙墓（別図3左）

81号土壙墓の西隣に位置する。不整な平面形を呈しているが、方形と円形の墓壙が切り合った結果であろうか。

8 3号土壙墓（別図3左）

81号土壙墓の南側にある長方形の墓壙。平面規模は1.4m×0.8m、検出面からの深さは約25cm程。

8 4号土壙墓（別図3左）

隅丸長方形を呈する墓壙。平面規模は1.6m×1.3m、検出面からの深さは約40cm。埋土中に礫が見られた。

8 5号土壙墓（別図3左）

84号土壙墓を切る円形の墓壙。径は1.0m～1.2m、検出面からの深さは約20cm。

8 6号土壙墓

42-20区で検出。平面規模は1.0m×0.7m、検出面からの深さは約30cm。

8 7号土壙墓（第5図）

44-22区で検出された長方形を呈する墓壙。平面規模は2.9m×2.1m、検出面からの深さは約25cm。中央やや北よりの位置に、頭蓋骨と見られる骨片が認められた。また図には表れないが、墓標と見られる角柱形の石塔が上部に存在した。

8 8号土壙墓（第5図）

87号土壙墓の南に位置する。梢円形を呈する墓壙。平面規模は2.6m×2.0m、検出面からの深さは約30cm。これについても骨片が認められ（図中点線部）、また錢貨も出土している。

8 9号土壙墓（別図2中）

前述の通り、72号土壙墓との間に白色粘土製の石皿状構築物がある。形状は把握不可能。検出面からの深さは約25cm。埋土上部に小礫群がある。礫はほとんどが赤変し、間際に炭化物を含んでいた。また、埋土中より染付碗が出土している（51）。

9 0号土壙墓

1号集礫の礫除去後に確認された土坑。平面規模は1.8m×1.5m。ただし、墓壙であるとの確証は得られなかった。

9 1号土壙墓

42-20区で検出された梢円形の土坑。平面規模は1.5m×0.8m、検出面からの深さは約60cm。

9 2号土壙墓

46-21-22区にある。実際は複数の土坑の集合体である。

9 3号土壙墓

92号土壙墓の南に位置する、やや不整な円形を呈する土坑。径はおおよそ1.2m、検出面からの深さは約15cm。

9 4号土壙墓（第5図）

88号土壙墓の南東隣にある長方形の墓壙。1.4m×1.3m、検出面からの深さは約30cm。床面に小さな凹部がある。ほぼ中央部より錢貨が出土している。

9 5号土壙墓

37-26区で検出された方形の墓壙。埋土中に礫が多数認められた。平面規模は1.5m×1.1m。

9 6号土壙墓

正方形を呈する墓壙。一辺長は0.7m。

9 7号～11 3号土壙墓

37-26区北東端部付近に、少なくとも17基の墓壙が集中する箇所があり、それらの上部には礫の集積箇所が認められた（2号集礫）。大きさは方形基調のものと、円形を呈するものに二分できる。

遺物は小破片がほとんどである。第10図52は99号土壙墓より出土した青磁碗の底部片である。

11 4号土壙墓（別図1右）

37-22区で検出された長方形を呈する墓壙。東壁近くに入骨らしき骨片が認められた。平面規模は2.5m×1.4m、検出面からの深さは約70cmを測る。

11 5号土壙墓（別図1右）

114号土壙墓の東隣に位置する。略正方形の土坑。ただし北側は他の造構との重なりで、旧状を損ねている。一辺長約1.2m、検出面からの深さは約30cm。

11 6号土壙墓（別図1右）

38-22・23区にある稍円形の土坑。すぐ北東に3号溝が走る。中央～南東側は他の造構と切り合っており、旧状は不明。1.4m×1.0m程の規模と見られる。検出面からの深さは約75cm。

11 7号土壙墓（別図1右）

116号土壙墓の南東にある。長方形を呈する。平面規模は1.3m×0.9m、検出面からの深さは約40cm。

11 8号土壙墓（別図1右）

116号土壙墓の南西にある稍円形の土坑。平面規模は0.9m×0.7m、検出面からの深さは約100cm。

11 9号土壙墓（別図1右）

116号土壙墓などと同じく3号溝の南側にある。長方形の墓壙で、平面規模は1.7m×0.8m、検出面からの深さは約30cmを測る。

12 0号土壙墓（別図1右）

119号土壙墓の北東に位置する。この119号土壙墓と120号土壙墓は3号溝の北側にあり、どちらも円形を呈するものである。径は0.9m、検出面からの深さは約50cmを測る。

12 1号土壙墓（別図1右）

西から南側にかけては他の造構を切る。径は約0.9mで120号土壙墓とはほぼ同規模。検出面からの深さは約80cm。

12 2号土壙墓（別図4）

121号土壙墓の南東に位置する。長方形を呈する土坑で、平面規模は1.1m×0.7m、検出面からの深さは約70cm。

124号土壤墓（別図4）

37-25区の北東端にある長方形の墓壙。平面規模は1.2m×0.7m、検出面からの深さは約20cm。

125号土壤墓（別図4）

124号土壤墓の南西にある橢円形の墓壙。平面規模は1.6m×1.0m、検出面からの深さは約20cm。

126号土壤墓（別図4）

124号土壤墓の南にある隅丸長方形の墓壙。平面規模は1.4m×0.8m、検出面からの深さは約25cm。

127号土壤墓（別図4）

122号土壤墓の東に位置する。円形の土坑と見られるが、切り合いが激しく、全容は知り得ない。

128号土壤墓（別図3右）

42-22区にある。隅丸長方形を呈する土坑。平面規模は2.2m×1.3m、検出面からの深さは約20cm。

129号土壤墓（別図3右）

42-22区にある円形を呈する土坑。径は1.0m、検出面からの深さは約130cm。

130号土壤墓（別図3右）

129号土壤墓の北西にある。橢円形を呈する土坑で、平面規模は1.2m×0.9m、検出面からの深さは約30cmを測る。

131号土壤墓（別図2右）

40-41-21区にある円形の墓壙。径は1.0m、検出面からの深さは約35cm。

132号土壤墓（別図2右）

131号土壤墓の東にある。やや不整な円形を呈する墓壙。径は約1.4m、検出面からの深さは30cm。

133号土壤墓（別図2右）

40-22区で検出。橢円形を呈する土坑。複数の小穴と重なる。平面規模は1.6m×1.0m、検出面からの深さは約30cmを測る。

134号土壤墓（別図2右）

133号土壤墓の東に位置する円形墓壙。径は1.1m、検出面からの深さは30cm。

135号土壤墓（別図2右）

39-22区にある長方形の墓壙。平面規模は1.5m×0.7m、検出面からの深さは約35cmを測る。

136号土壤墓（別図1右）

38-22区で検出。橢円形の土坑で、南東側が一段深くなる。平面規模は1.7m×1.0m、検出面からの深さは最深部で約140cm。

137号土壤墓（別図1右）

136号土壤墓の東側に隣接する。形状、規模が136号土壤墓と似通っている。検出面からの深さは最深部で約75cm。

138号土壤墓（別図1右）

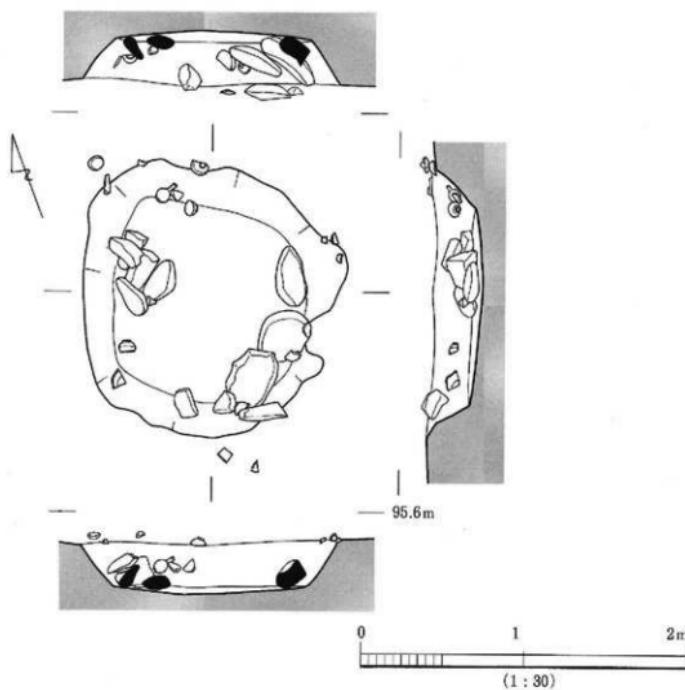
37-38-22区にある土坑。菱形に近い隅丸の正方形を呈するが、そもそもの平面プランは判然としない。平面規模は1.0m×0.7m、検出面からの深さは約20cm。

140号土壤墓（別図1右）

37-22区に位置する。長方形を呈する墓壙と見られるものである。平面規模は1.3m×0.7m、検出面



第5図 1号・87号・88号・94号土塚墓 (1/60)



第6図 41号土塙墓(1/30)

からの深さは約30cmを測る。

141号土塙墓（別図2右）

41-23区にある。円形の土坑で、床面中央部がさらに一段低くなる。近世の所産であるが、墓壙かどうかは未確定。付近にはさらに数基の土坑が見られたが、この141号土塙墓としたもののみ遺物（図化不可能な土器小破片）が認められた。

142号土塙墓（別図4）

38-25区にある長方形の墓壙。埋土中に骨片らしき小個体が認められた。平面規模は1.6m×0.9.m、検出面からの深さは約15cmを測る。

143号土塙墓（別図4）

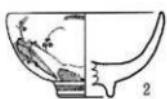
39-25区で検出された略円形の土坑。床面は凹凸が認められる。径は1.1m、検出面からの深さは最深部で約40cm。

144号土塙墓（別図4）

41-24区にある円形の土坑。径は0.9m、検出面からの深さは約40cm。



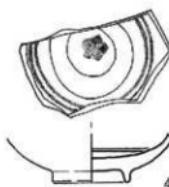
23号土壤墓



2



3



4



5



6



25号土壤墓



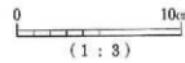
32号土壤墓



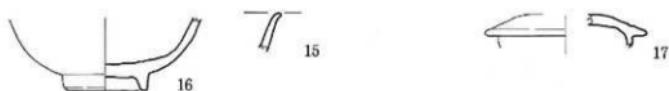
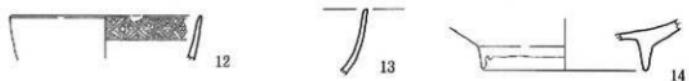
34号土壤墓



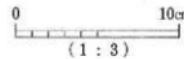
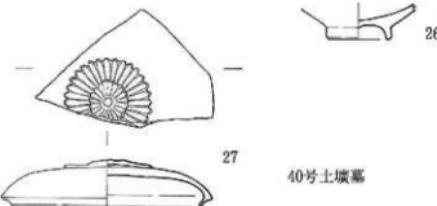
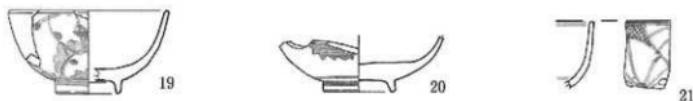
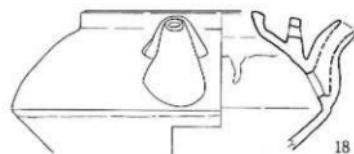
36号土壤墓



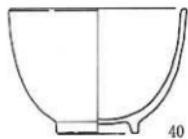
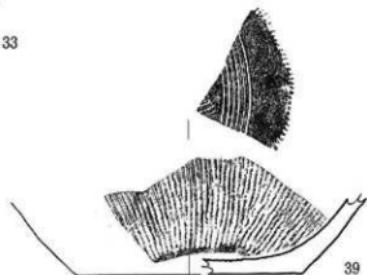
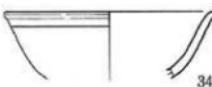
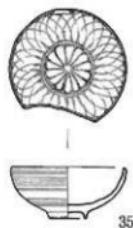
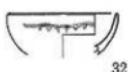
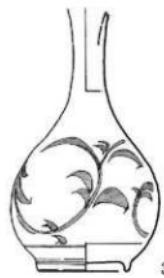
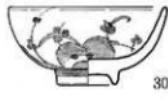
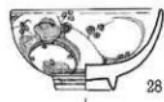
第7図 土壤墓出土遺物(1) (1/3)



38号土壤墓



第8図 土壤墓出土遺物(2) (1/3)

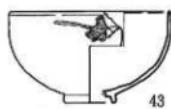


0 10cm
(1 : 3)

第9図 41号土壤墓出土遺物 (1/3)



42



43

42号土壤墓



44

44号土壤墓

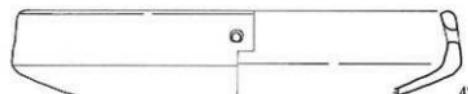


45

45号土壤墓



46



47

54号土壤墓



48

55号土壤墓



50

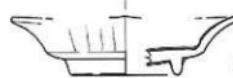


58号土壤墓



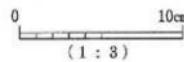
51

89号土壤墓



52

99号土壤墓



第10図 土壤墓出土遺物 (3) (1 / 3)

第1表 出土土器・陶器観察表 (1)

遺物 番号	種別 部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)				手法・調整・文様ほか				色 調		地 土 の 特 徴	考 査
			口 径	底 径	深 さ	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面				
1 陶器	口縁	SD23					施釉、貫入	施釉、貫入	オリーブ黄	オリーブ黄	純良			
2 乗付	口縁-底部	SD25	(9.4)	(3.1)	5.15		施釉、乗付	施釉	灰白	灰白	純良			
3 乗付	体部-底部	SD25		(6.1)			施釉、乗付	露胎	明青灰	灰白	純良			
4 乗付	体部-底部	SD25		(4.55)			施釉	施釉、乗付 の目輪はぎ	明緑灰	灰白	純良			
5 磁器?	体部-底部	SD25		(4.6)			施釉	施釉、蛇の目輪はぎ	明緑灰	灰白	純良			
6 磁器?	体部-底部	SD25		4.2			施釉	施釉、貫入	綠灰	灰オリーブ	純良			
7 陶器	体部-底部	SD25					ヨコナゲ	条線	にぶい赤褐	明赤褐	混入物少			
8 乗付	體 部	SD33					施釉、乗付、貫入	施釉、貫入	灰白	灰白	純良			
9 乗付	體 部	SD34					施釉、乗付	露胎	灰白	灰白	精良			
10 磁器	杯型-質屋型	SD36			4.25		施釉	施釉	割オリーブ灰	割オリーブ灰	純良			
11 乗付	體 部	SD36					施釉、乗付	露胎	灰白	灰白	純良			
12 乗付	口縁-体部	SD38	(11.6)				施釉	施釉、乗付	明緑灰	灰白	純良			
13 陶器	口縁-体部	SD38					施釉、貫入	施釉、貫入	灰白	灰白	純良			
14 陶器	体部	SD38			(9.9)		施釉、貫入	施釉、貫入 蛇の目輪はぎ	黃褐	オリーブ黄	純良			
15 磁器	口縁	SD38					施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
16 磁器	体部-底部	SD38			(4.95)		施釉、貫入	施釉、貫入 蛇の目輪はぎ	灰白	灰白	精良			
17 陶器	水波、茎 口縁部	SD38					施釉	露胎	オリーブ黒	にぶい黒	混入物少			
18 陶器	口縁-底脚付	SD38					回転ナゲ	回転ナゲ	灰オリーブ 灰黄褐	灰黄褐	混入物少			
19 乗付	口縁-底部	SD40	(9.75)		(3.6)		施釉、乗付	施釉	灰白	灰白	精良			
20 乗付	体部-底部	SD40			(4.2)		施釉、乗付	施釉、蛇の目輪はぎ	灰白	灰白	精良			
21 乗付	口縁-体部	SD40					施釉、乗付	施釉、乗付	灰白	灰白	精良			
22 乗付	体部-底部	SD40			(6.2)		施釉、乗付	露胎	灰白	灰白	精良			
23 磁器?	口縁-底部	SD40			(4.4)		施釉	施釉、蛇の目輪はぎ	灰白	灰白	純良			
24 磁器	口縁-底部	SD40	(4.65)	2.85	2.95		施釉	施釉	灰白	灰白	純良			
25 磁器	口縁-体部	SD40	(5.2)				施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
26 陶器	體 部-底部	SD40			3.8		施釉、貫入	施釉、貫入	黃褐	黃褐	混入物少			青花貼付
27 磁器	口縁-体部	SD40	(11.6)				施釉	施釉	純 灰白	灰白	精良			
28 乗付	口縁-底脚 碗	SD41	9.3	3.7	4.95		施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
29 乗付	口縁-底部	SD41	(11.6)	4.5	5.1		施釉	施釉、蛇の目輪はぎ	灰白	灰白	精良			
30 乗付	口縁-底部	SD41	9.55	3.5	4.8		施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
31 乗付	口縁-底部	SD41	(7.3)	(3.1)	3.45		施釉、乗付	施釉	灰白	灰白	精良			
32 乗付	口縁-体部	SD41	(6.7)				施釉、乗付	施釉	灰白	灰白	精良			
33 乗付	板 頭部-底脚	SD41			5.6		施釉、乗付	施釉	明緑灰	明緑灰	精良			
34 白磁	口縁-体部	SD41	(12.7)				施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
35 乗付	口縁-底部	SD41	7.1	2.3	3.15		施釉、乗付	施釉、乗付	灰白	灰白	精良			
36 乗付	口縁	SD41					施釉、乗付	施釉、乗付	灰白	灰白	精良			
37 磁器	口縁-先端	SD41	5.3	3.5	3.3		施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
38 磁器	口縁-底部	SD41	(4.9)	3.15	3.25		施釉	施釉	灰白	灰白	精良			
39 陶器	体部-底部	SD41	(13.8)				横ナゲ	横ナゲ	にぶい赤褐 赤褐	にぶい赤褐 赤褐	1mm以下の薄、薄色鉄 4.5mm以下 の乳白色鉄 7mmの質無色鉄			
40 陶器	口縁-底部	SD41	(10.8)	(4.9)	7.65		施釉、貫入	施釉、貫入	浅黄	浅黄	精良			
41 土師器	口縁-底部	SD41	12.75	7.6	4.15		回転ナゲ	回転ナゲ	浅黄褐	浅黄褐	1mmの淡黄、茶、灰、黑色光沢粒 ヘタ切り			
42 乗付	口縁-外部	SD42	(11.9)				施釉、乗付	施釉	灰白	灰白	精良			
43 陶器	口縁-底部	SD42	(9.7)	(3.1)	(5.6)		施釉、貫入	施釉、貫入	灰白	灰白	精良			
44 乗付	口縁-体部	SD44					施釉	施釉	灰白	灰白	精良			

第1表 出土土器・陶磁器観察表 (2)

通番 番号	種別	器 部 位	出上 地點	出 量(cm)		手法・調整・文様は少		色 調		施 上 の 特 徴	備 考	
				II 径	底 径	高	外 面	内 面	外 面	内 面		
45	染付	皿 口縁	SD46- 47				施釉	施釉	灰	灰	粗良	
46	染付	皿 底部	SD64				施釉・質入	施釉・質入	明緑灰	明緑灰	粗良	
47	瓦器	口縁 統格 一部部	SD64 p5 (25.8)				回転ナダ	回転ナダ	黒 灰黄褐	緑 透明光沢	1mm以下の灰白・黒灰 透明光沢	漆孔スズサ 裏
48	——	土器片維	SD65				——	——	赤褐 黒褐	青褐 にぶい青褐	1mm以下の灰白・赤褐 透明光沢	
49	青磁	碗 底部	SD68	(6.2)			施釉・質入	施釉・質入	明オリーブ灰	明オリーブ灰	粗良	
50	青磁	口縁 底部	SD61 (14.0)	(6.7)	3.5		施釉・質入	施釉・質入	青オリーブ灰 アグリ	青オリーブ灰 アグリ	粗良	
51	染付	碗 体部	SD69	(4.2)			施釉	施釉	灰白	灰白	粗良	
52	青磁	碗 体部・底部	SD69	(4.8)			施釉・質入 施釉の目地はぎ	施釉・質入 施釉の目地はぎ	オリーブ灰 地	オリーブ灰 地	粗良	

(4) 不整形凹部

土壙墓とも土坑とも認定できない凹部が4か所認められた。いずれも覆土はI b層土である。人為的なものかどうかも疑わしいが、遺物を多く含むものもある。ここでは1号不整形凹部と呼ばれる箇所から出土した縄文時代後期の鐘崎式系土器(53)1点のみ図化している。外面には不明瞭ながら赤彩が施されていると見られる。

(5) 埋納坑

中世に属すると見られる土坑が1基検出されている。他の近世小穴と同じ一連の番号を付したこともあり、この項で扱う。

1号小穴・出土遺物(第11図)

49-30区にある精円形を呈する土坑。長径1.2m、短径0.6m。埋土中より土師器碗(54-55)、皿(56-57)の完形品が一括出土している。57のみ底部ヘラ切り、それ以外は回転糸切り痕が残る。

(6) 小穴

調査時に、遺物が出土した小穴にはすべて番号(P1~)を付しており、その総数は546基に上る。そのほとんどが旧農作業道南側の遺構密集地区にある。中には掘立柱建物の柱穴も含まれていると見られるが、一方で樹根等、人為的なものでない凹部も相当数あると推測される。ここでは位置、形態について個別の説明は行わないこととし、主な出土遺物の記載にとどめたい。

小穴出土陶磁器・土師器・須恵器(第11・12図)

58・60・71は肥前系の染付碗、69は小杯、73は高台の付く瓶である。61は肥前系の陶器碗、67は天目碗であるが発色が悪く、くすんだ黄色に近い色合いとなっている。

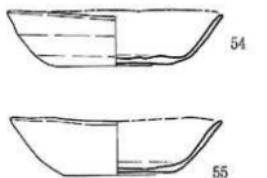
59は須恵質の鉢か。底部に糸切り痕が残る。68・70は土師器杯。

小穴出土縄文土器(第11・12図)

63は市来式の小形無文土器。図では表現できていないが、口縁部をわずかに肥厚させる。外面には粗い工具調整痕が、内面には貝殻条痕が残る。62は台付の鉢か。外・内・底面いずれも丹念に磨いている。72は市来式の口縁部。断面三角形の肥厚帯を有する。65は台付皿の脚部か。透孔が認められる。80・81は深鉢の口縁部。80は口縁部が内湾する器形のもので、文様帶(わずかに肥厚する)に沈線文と連点文を施す。81は沈線文と押し引き文を施す。82は口縁部上端部に文様帶を有するもの。3列の連点文を施す。83は器台状の器種と見られるが全容は不明。84は後期土器に見られる口縁部上面の楕状の突起か。85は土器再加工の円盤か土器片錐。



1号不整形凹部
53



54

55

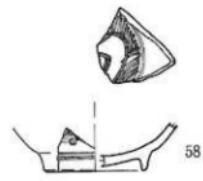


56



57

13号小穴



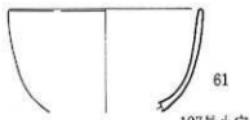
37号小穴



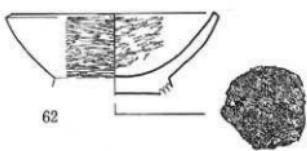
59



74号小穴

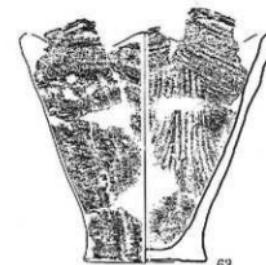


137号小穴



62

149号小穴

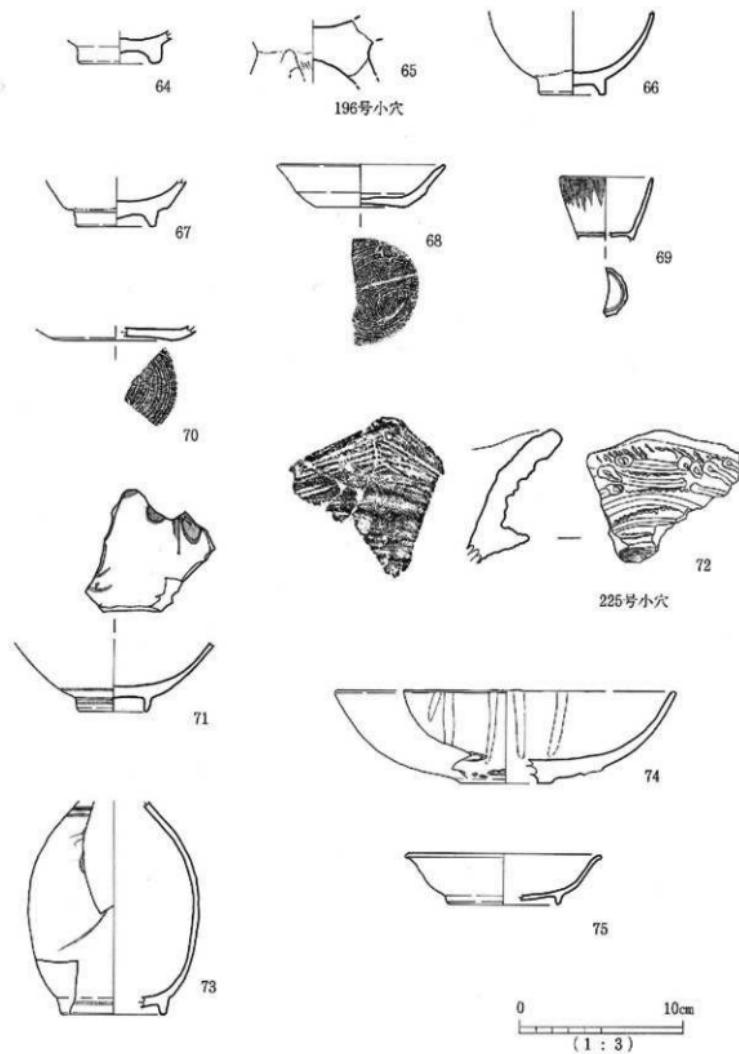


63

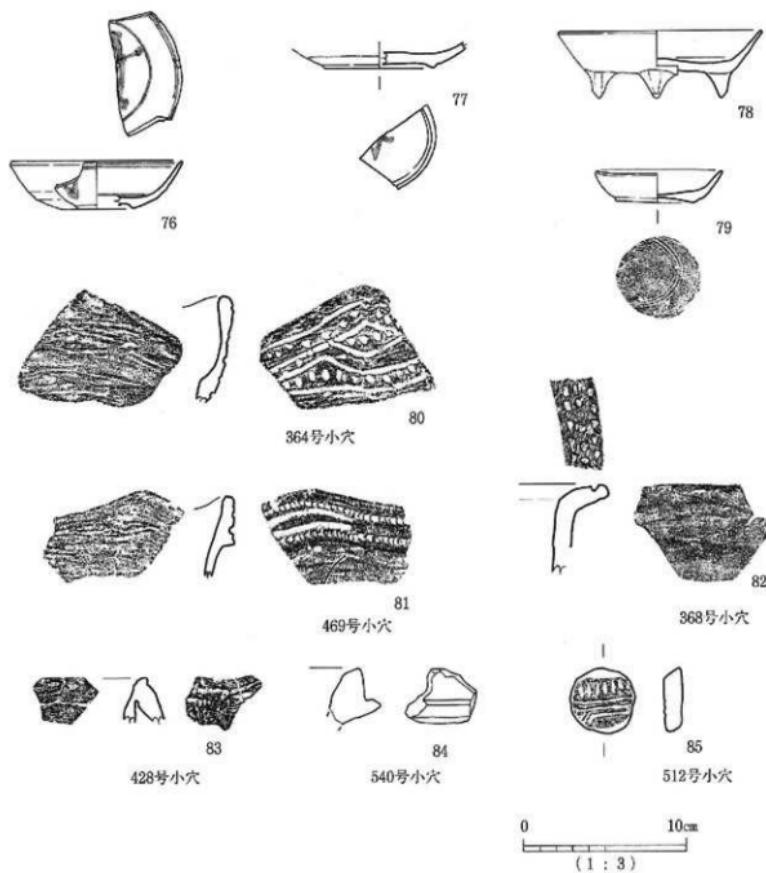
45号小穴



第11図 不整形凹部・小穴出土遺物（1／3）



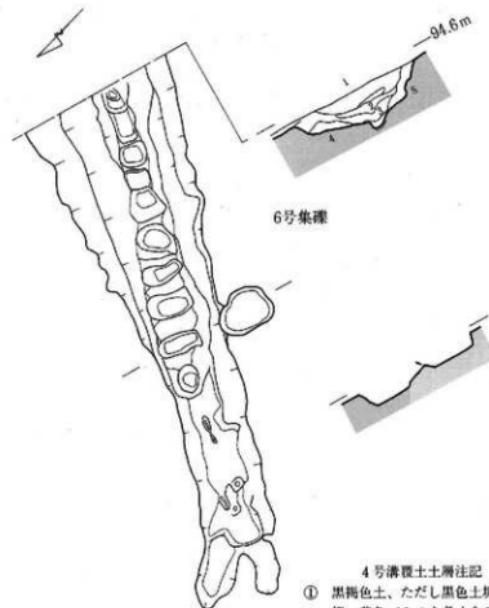
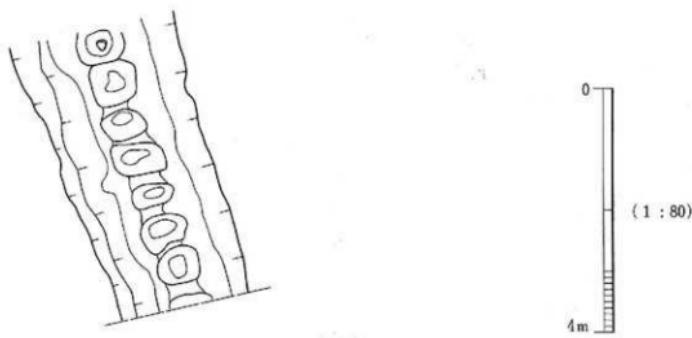
第12図 小穴出土遺物 (1) (1 / 3)



第13図 小穴出土遺物 (2) (1 / 3)

第3表 出土土器・陶磁器観察表 (3)

遺物 番号	種 別	等 級	出 土 地 点	法 楽 (cm)			手法・調物・文様ほか			色 底		基 土 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	高 度	外 面	内 面	外 面	内 面			
53	縄文	杯 口径	SK1				沈銀文	条痕	明赤褐	明赤褐	1.5mm以下の乳白、透明光沢		井戸?
54	土師器	杯 口縁～底部	SH13	13.3	7.0	3.45	回転ナデ?	回転ナデ?	灰黄	にぶい青黄	稍良		糸切り
55	土師器	口縁～底部	ST113				回転ナデ?	回転ナデ?	浅黄褐	浅黄褐	稍良		糸切り
56	土師器	山縁～底部	SH13				回転ナデ?	回転ナデ?	にぶい櫻	にぶい櫻	稍良		糸切り
57	土師器	小皿 口縁～底部	ST113	8.0	5.8	1.3	回転ナデ?	回転ナデ?	にぶい青黄	にぶい青黄	稍良		ヘラ切り
58	乗付	皿 底部	P27		(6.1)		施釉、染付	施釉、染付	明緑灰	明緑灰	稍良		
59	須恵器	瓶? 底部	P74			7.9	ナデ?	ナデ	灰	灰	1~2mmの乳白・灰・透明光沢		糸切り
60	乗付	体部	P86			4.0	施釉、染付	施釉	灰白	灰白	稍良		静目
61	両面	口縁～底部	P137 P157	(11.7)			施釉、貢入	施釉、貢入	淡黄	淡黄	稍良		
62	縄文	口縁～底部	P149	(12.6)			ミガキ	ミガキ	暗褐色 にぶい櫻	暗褐色 にぶい櫻	1mm以下の黒、赤褐、灰白、浅黄		高台
63	縄文	深钵 口縁～底部	P45	(15.0)	(7.6)		ナデ?	条痕	黄褐色 にぶい櫻	黄褐色 にぶい櫻	2mm以下の黒、赤褐、墨褐色		
64	青磁	瓶 底部	P196		(4.75)		—	施釉、貢入	明緑灰	オリーブ黄	稍良		
65	縄文	古何須? 脚上部	P196				—	ナデ?	にぶい青褐	淡青色	淡青色		
66	陶器	瓶 体部～底部	P197		(4.0)		施釉	施釉、貢入	青灰	灰オリーブ	稍良		
67	両面	脚 底部	P220		(4.35)		施釉	施釉	オリーブ黄	灰白	稍良		
68	土師器	口縁 杯	P230	(10.4)	(5.6)	2.6	回転ナデ?	回転ナデ?	浅黄	浅黄褐	稍良		糸切り
69	乗付	小皿 口縁～底部	P239	(5.6)			施釉、染付	施釉	明青灰	灰白	稍良		
70	土師器	杯 底部	P257			(7.9)	回転ナデ?	回転ナデ?	にぶい青黄	にぶい青黄	稍良		糸切り
71	乗付	体部～底部	P288		(4.2)		施釉、染付	施釉、染付	灰白	灰白	稍良		
72	縄文	深钵 瓶	P235				貝殻模様江戸文 巴紋文、貝殻条痕 ナデ?	貝殻模様 条痕	明赤褐	明赤褐	2mm以下の黒、透明光沢 3mm以下の短灰・灰褐色		
73	乗付	体部～底部	P291		(6.3)		施釉、染付	露胎 模様ナデ?	明青灰	灰白	稍良		
74	青磁	山縁 底部	SZ1 P287	(21.0)	(5.56)	5.65	施釉	施釉	明緑灰	明緑灰	稍良		
75	白磁	山縁 底部	P287	(11.8)	(6.7)	3.05	施釉	施釉	灰白	灰白	稍良		
76	乗付	口縁～底部	P349	(10.5)	(4.3)	2.9	施釉、染付、貢入 施釉、染付、貢入	施釉、染付、貢入	灰白	灰白	稍良		苔葉底
77	白磁	底部	P412		(6.7)		施釉	施釉、露胎	灰白	灰白	混入物少量		黑青
78	土器	口縁～底部	P432			4.15	回転ナデ?	回転ナデ?	浅黄褐 露胎 灰黄褐	浅黄褐 露胎 灰黄褐	混入物少量		御台
79	土師器	口縁～底部	P443	7.85	5.1	2.0	回転ナデ?	回転ナデ?	にぶい青黄 露胎	にぶい青黄 露胎	稍良		糸切り スス付管
80	縄文	深鉢	P364				沈銀文、連点文	条痕	にぶい青黄 露胎	粉	1mm以下の光沢 1.5mm以下の黒、灰、灰白色		
81	縄文	深鉢	P469				沈銀文、押引文	条痕	にぶい青黄 露胎	淡黄 露胎	1mm以下の灰白・褐色		
82	縄文	口縁	P368				ナデ?	ナデ、連点文	にぶい青黄 粉	粉	1mm以下の透明光沢、灰白、褐色		
83	縄文	台付蓋?	P428				沈銀文	ナデ?	にぶい櫻	浅黄	1mm以下の淡青・灰・灰褐色		
84	縄文	蓋?	P640				ナデ?	ナデ	にぶい青黄 粉	粉	1mm以下の透明光沢、灰白、褐色		瘤状欠缺
85	—	土器片飾	P612				—	—	明赤褐	粉	1mm以下の透明光沢、灰白、褐色		



- 4号溝復土土層注記
- ① 黒褐色土、ただし黒色土塊
粒、黄色バニスを多く含み、まだらとなる。
 - ② 黒褐色土、径2mm程の黄白色
小塊を多く含むため、削るとザラザラした感
じ。
 - ③ ①より赤色味増す。
 - ④ ③に似るが、V層土ブロックを多く含む。
 - ⑤ オリーブ褐 V層土ブロック多く含む。

第14図 4号溝 (1/80)

(7) 溝

溝状遺構と認定したものは計8本あるが、うち1号溝と3号溝は調査後に同一のものと判明した。中軸線を境に調査区が分断された結果のことである。また後述するように4号溝は性格が大きく異なる。

1号溝・3号溝（別図1・4・第17図）

北西—南東方向にはほぼ直線に走る溝で、北西端は耕作による断落ちのため途切れる。南東側はより深くなり埋没谷に下る。幅は0.8~1.2m、深さは約20cm。ところによっては埋土最下部に砂が堆積している。近世の所産と考えられるが、一部土壤墓に切られる。屋敷地を画する（排水機能も兼ねた）溝であろうか。ただし掘立柱建物の主軸方位とは一致しない。遺物は国産陶器の底部（104）のみ図化した。

2号溝（別図1左・第16・17図）

溝と判断したが、連続する土坑と見ることもできる。ただし調査時は図で示されてるよりも東側にのびる感じられた。幅は1.0~2.0m、検出面からの深さは約60cm。埋土中より遺物が多く出土している。うち102・103は砥石である。98・99は同一個体。陶磁器類に加えて縄文土器の出土も目立つ。

4号溝（第14図）

36-37-29-30区にある。主軸は東西方向に対して20°程偏する。東側は谷部へ下っている。床面に円形・楕円形の凹部が見られ、その中の埋土はかたくしまっている。鉄分が凝着している箇所もある。遺物が稀少であったため、時期は判然としないが、近世の墓地関連遺構である6号集疊に切られており、また県内の類例に照らし合わせると、中世に遡る可能性が高いと考えられる。

5号溝（別図1・2・第17図）

中軸線の東側を、北東—南西方向に走る溝。北は3号溝と交差（新旧関係は不明）し、南は40-22区北端付近で途絶える。検出長は約20m、幅は1.0~2.5m、深さは30~60cm。遺物を多量含む。

磁器碗、国産陶器甕の底部、擂鉢の他、縄文後期土器（109）も見られた。

6号溝（第4図）

45-23区付近から50-24区辺りまで、略南北方向に走る溝。南端は未調査区方向にのびていく。幅は1.5~2.5m、検出面からの深さは約40cm。第4図の土層図で、この6号溝の断面が観察できる。

7号溝

97~113号土壤墓群の西側に一方の端部があり、その北西側は埋没谷に下っていく格好となる。この7号溝の南西側にも同様の性格の溝があり、埋没谷への注ぎ口付近で7号溝と合流する。その在り方から、近世に機能していた排水路と考えられる。

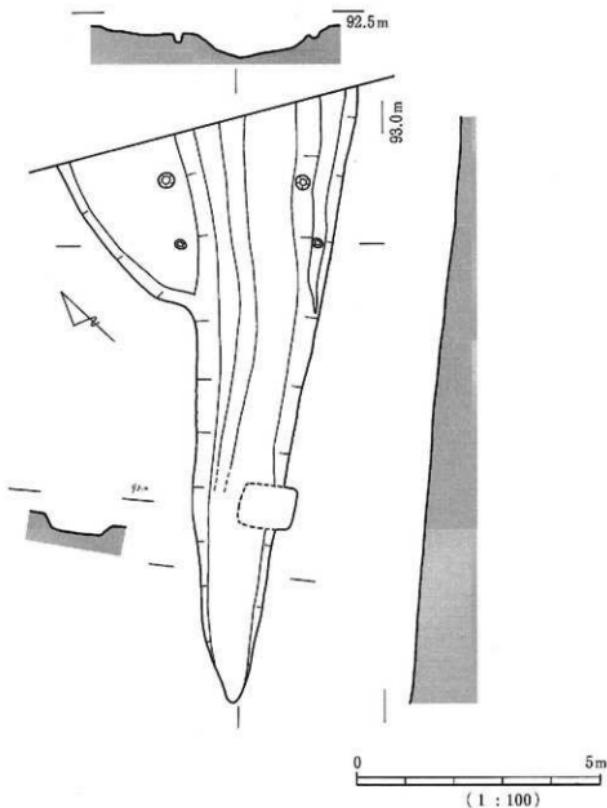
8号溝（第15図）

調査区の北東端で検出。検出長は約12mで、床面はスロープ状に傾斜する。床面には硬化面が見られ、通路として機能したものと推測される。4基の小穴が左右対称に配置されており、門状の施設が存在した可能性もある。

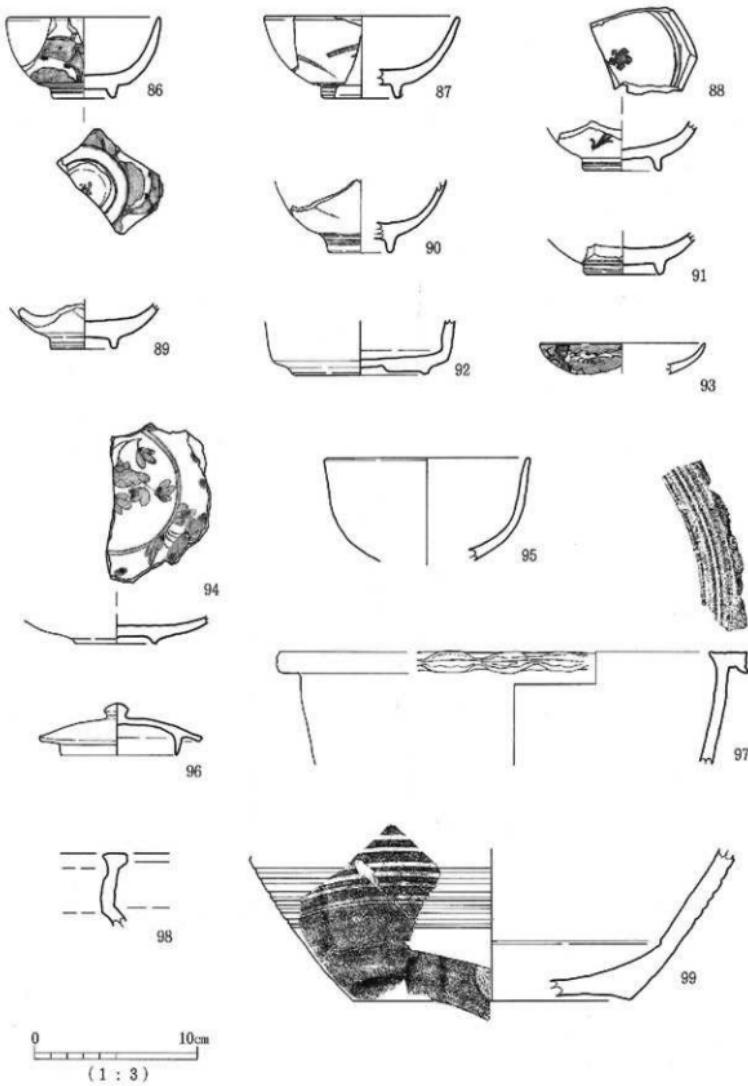
遺物には図化し得るものはなかったが、平安時代の土師器杯の細片が出されている。

(8) 竪穴

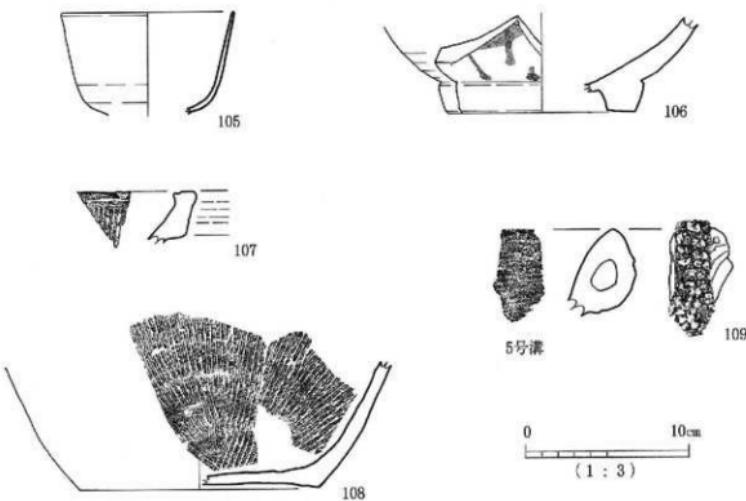
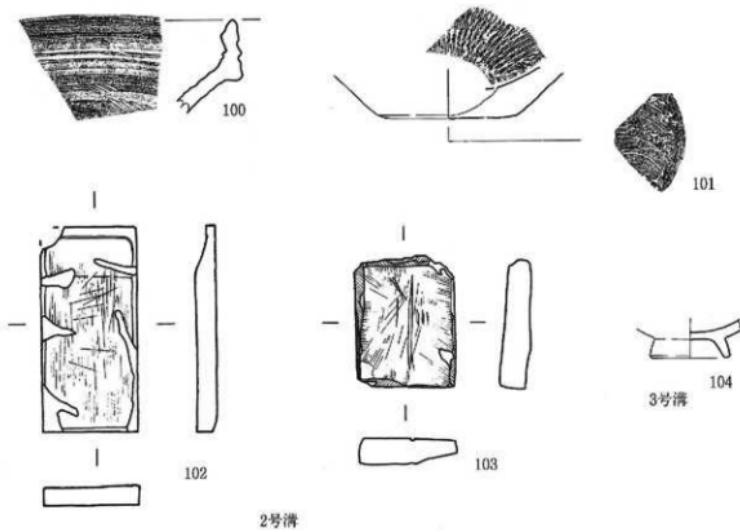
旧農作業道の北側で、方形基調の竪穴が3基検出された。それらは次項でふれる縄文時代後期の竪穴とは性格が異なるため、番号を1001~1003としている。



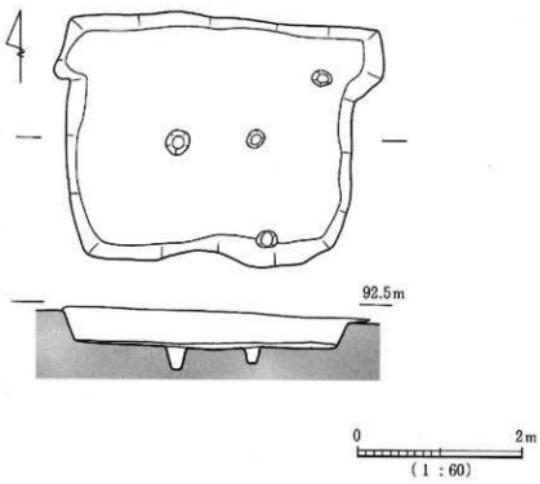
第15図 8号溝 (1/100)



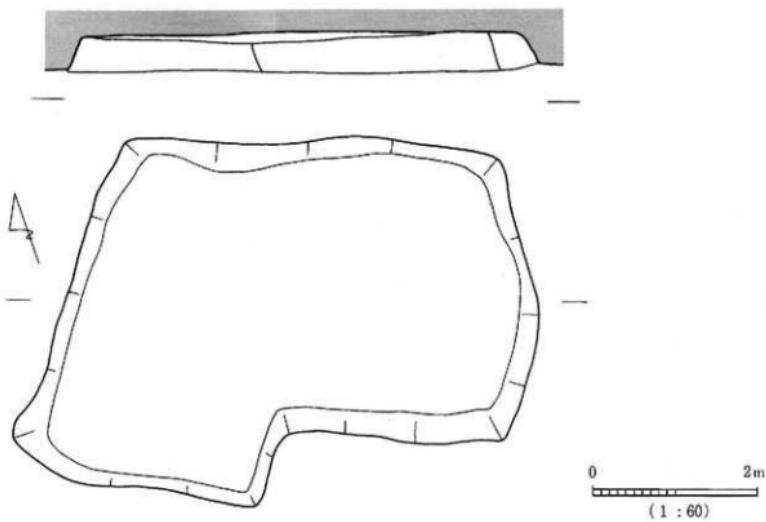
第16図 2号溝出土遺物 (1/3)



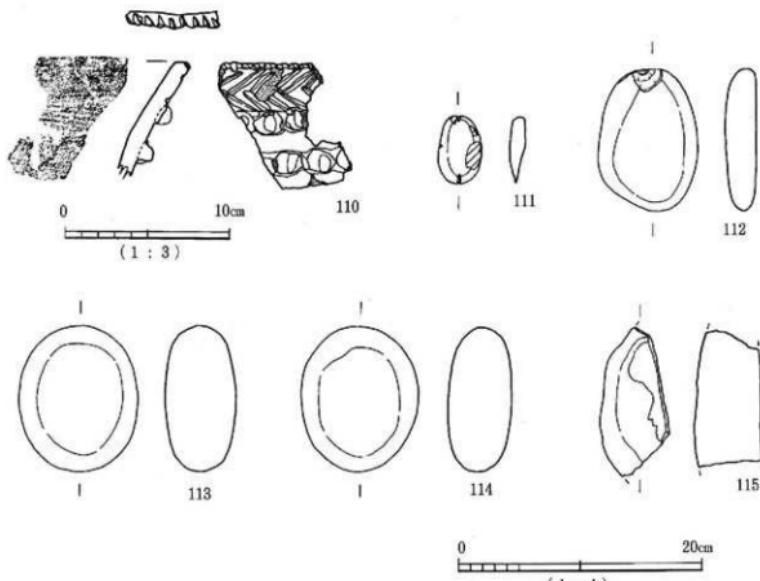
第17図 溝出土遺物 (1 / 3)



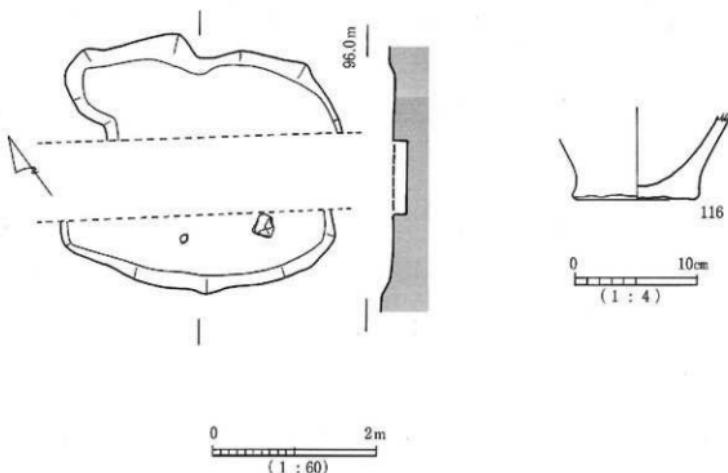
第18図 1001号竪穴 (1/60)



第19図 1002号竪穴 (1 / 60)



第20図 1002号竪穴出土遺物 (1 / 3 + 1 / 4)



第21図 1003号竪穴 (1/60)・出土遺物 (1/3)

1001号竪穴 (第18図)

調査区の北東端、8号溝の南東にある。3.6m×3.0mの長方形プランで、北東・北西側が若干張り出す。検出面からの深さは約50cmで、北東隅と南壁際に欠く1基のピットを持つ。焼土等は確認されなかった。図化し得る遺物はなかったが、平安時代の土師器器の細片が出土している。

1002号竪穴 (第19・20図)

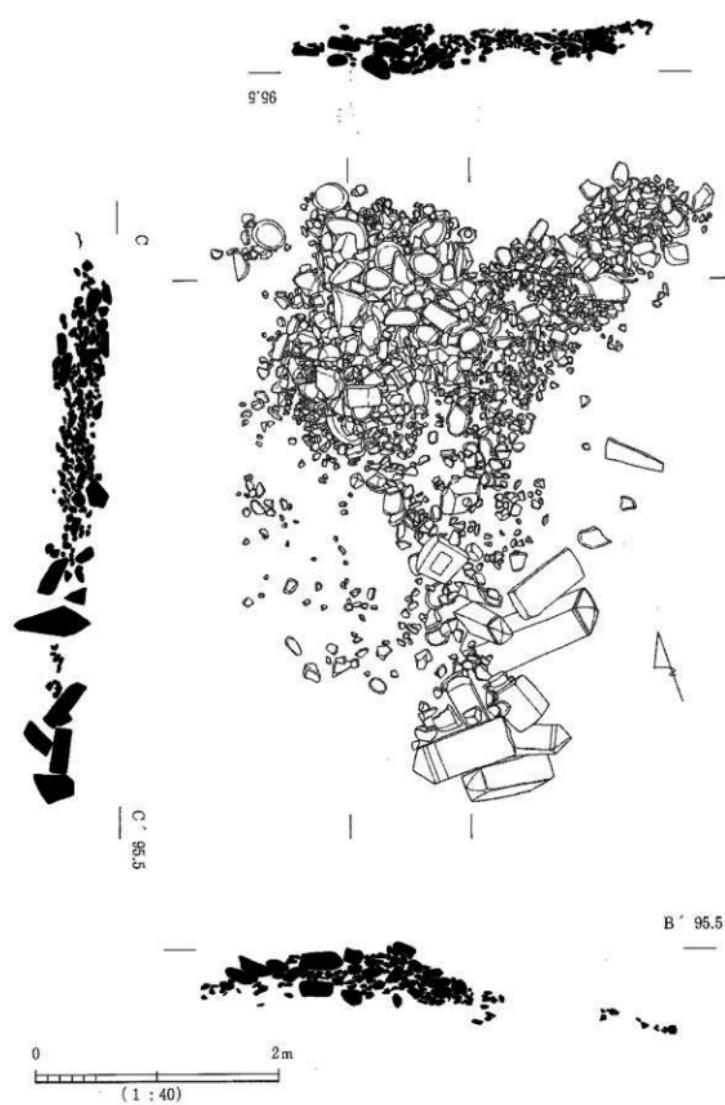
34-24杭付近で検出。5.9m×3.6mの長方形プランで、南壁西半が約1m張り出す。検出面からの深さは約50cmで、柱穴・焼土等は見られなかった。縄文土器、石器が出土している。

110は外傾する口縁部にヘラ状工具による綾杉状の押圧文、2条の貼付突帯が見られる。口唇部には連続刻みが施される。111は切目石錐、112～115は磨石である。

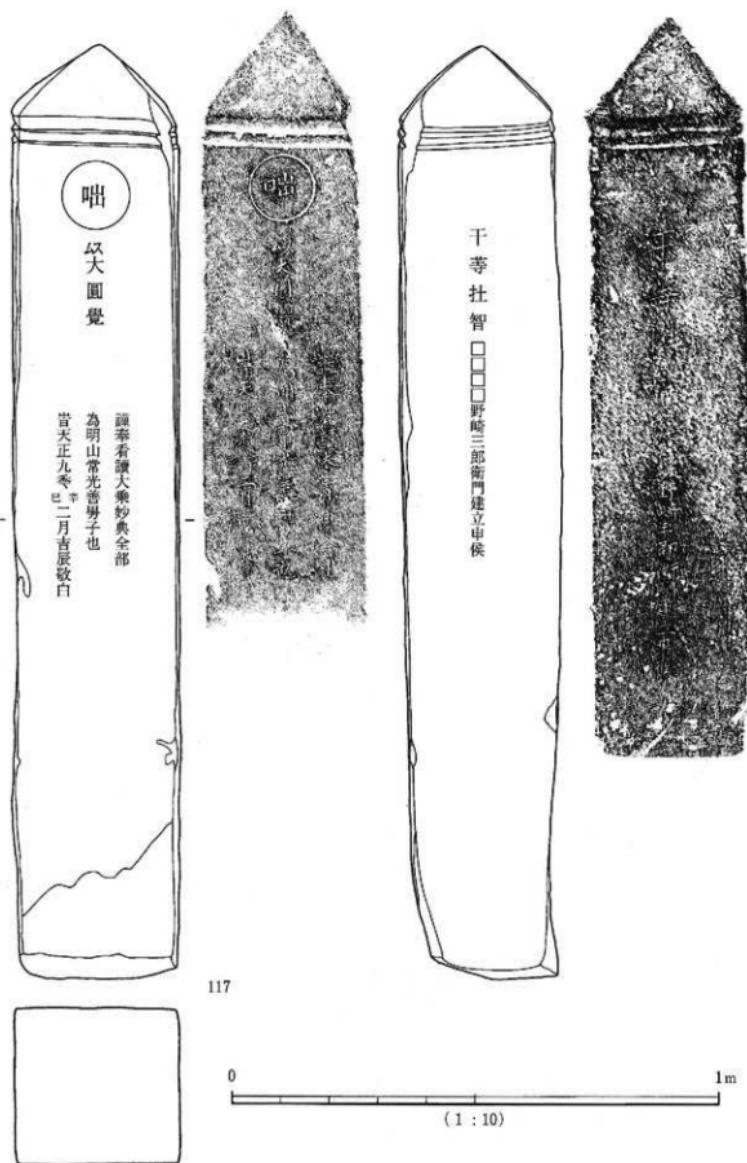
1003号竪穴 (第21図)

30-26区南端付近にある。3.4m×3.0mの長方形プランで、ほぼ中央が攢乱坑により破壊されており詳細は不明であるが、北西壁の一部が内側へ約50cm張り出す。検出面からの深さは約15cmで、柱穴、焼土等は認められなかった。土師器の壺(106)が1点出土している。

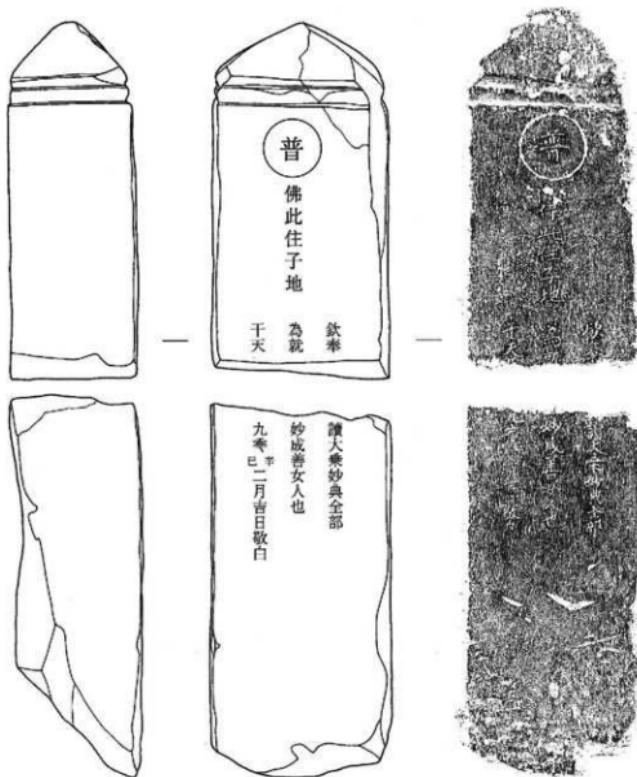
このように、100番台を付した竪穴は、遺物が少なく、性格・時期とも不明な点が多い。



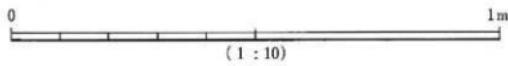
第22図 1号集疊 (1/40)



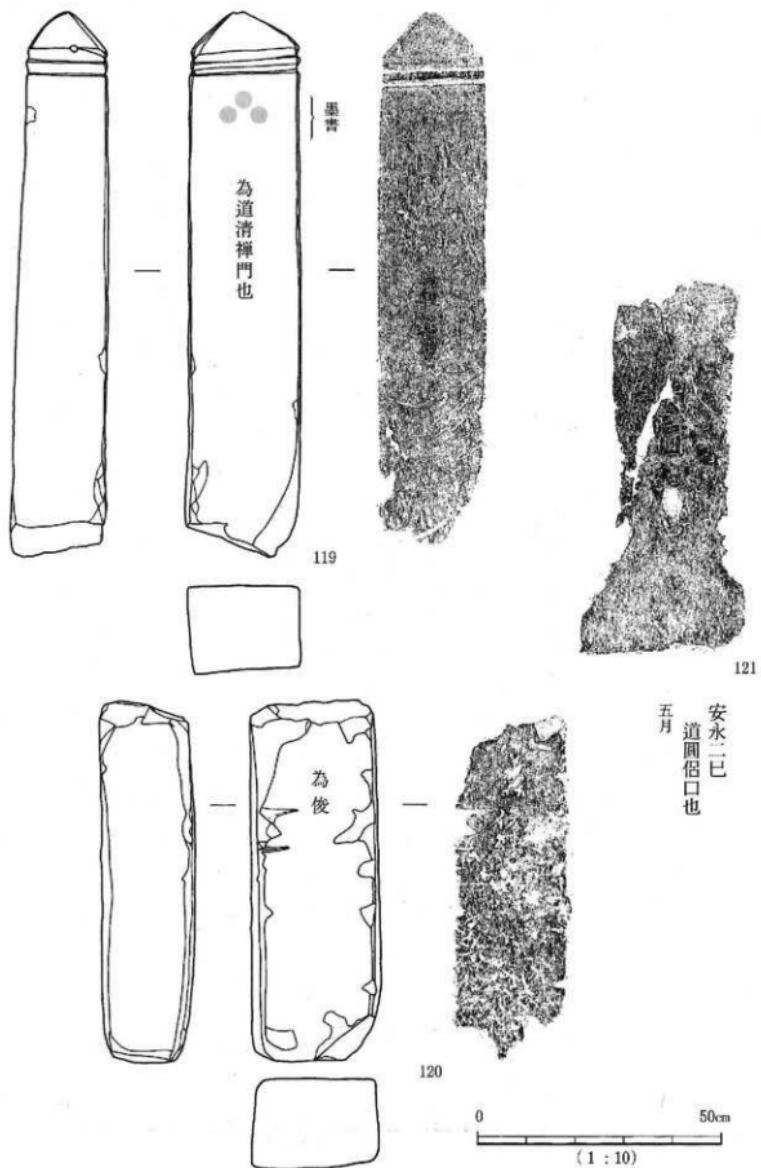
第23図 1号集蹟石塔 (1) (1/10)



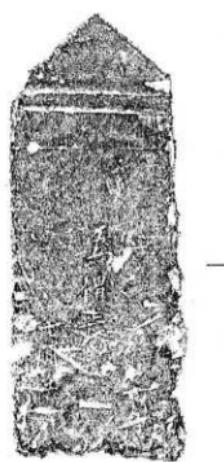
118



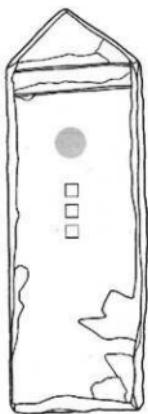
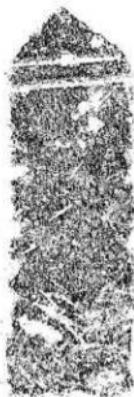
第24図 1号集砾石塔 (2) (1/10)



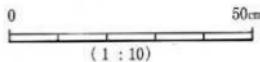
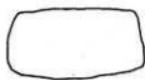
第25図 1号集疊石塔 (3) (1 / 10)



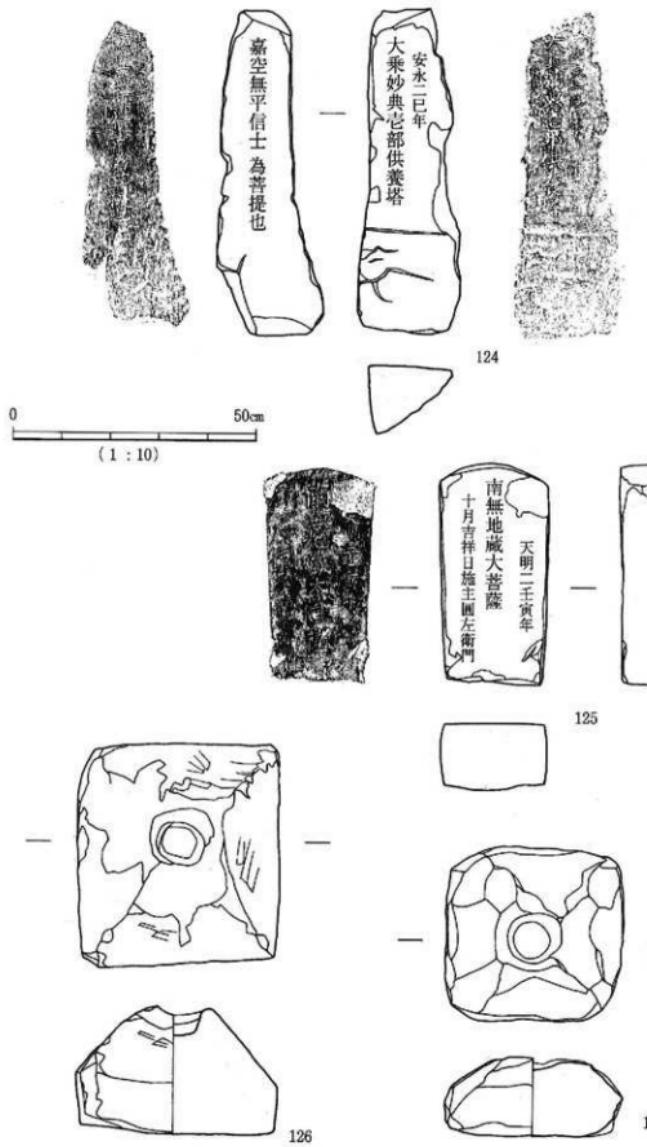
122



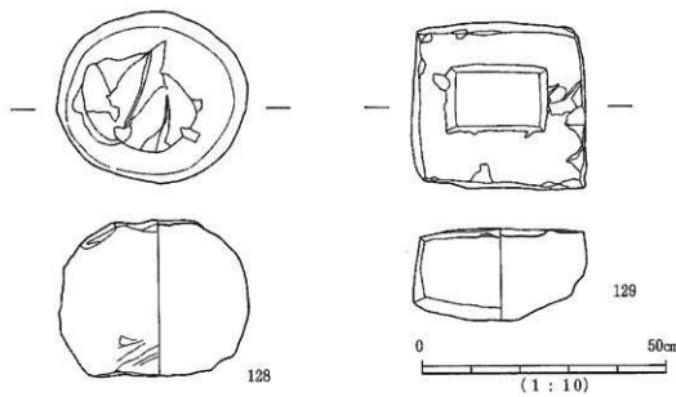
123



第26図 1号集疊石塔 (4) (1/10)



第27図 1号集疊石塔 (5) (1/10)



第28図 1号集礫石塔 (6) (1/10)

(9) 集礫

中世から近世の墓地に関連する遺構であるが、8号集礫としたものだけは性格が異なる。

1号集礫 (第22~36図)

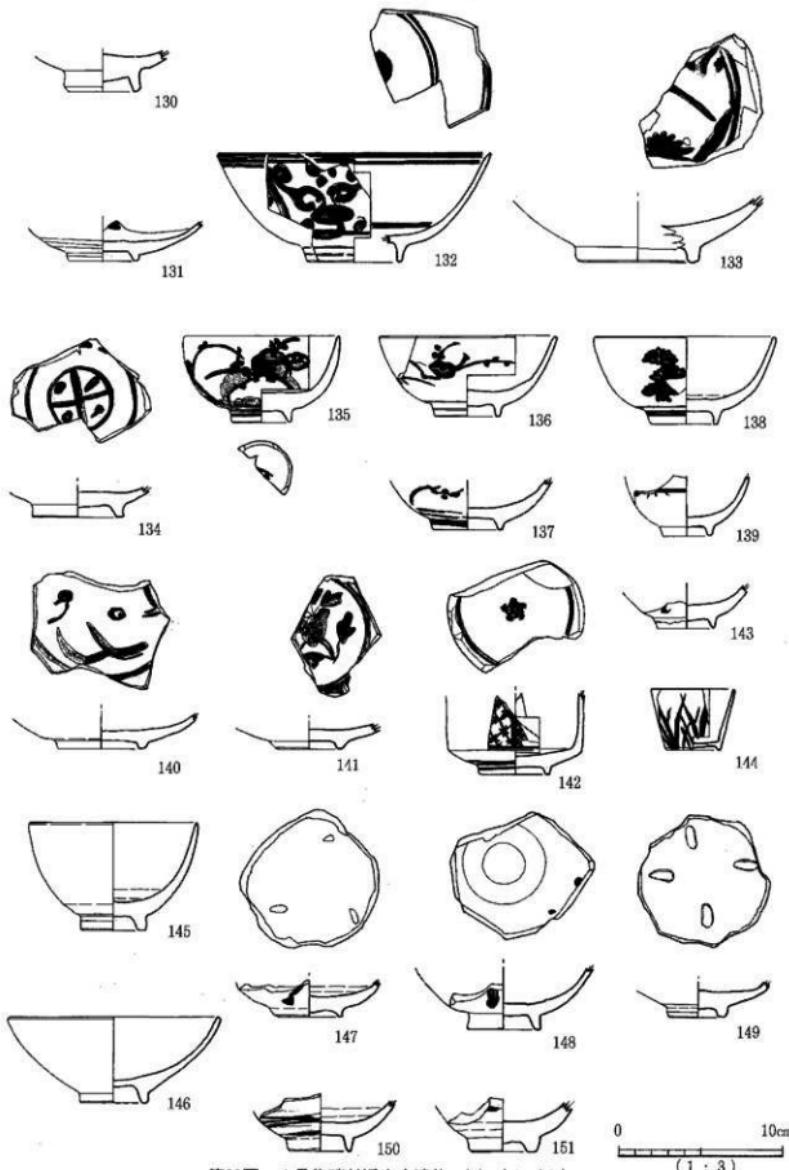
中軸線の西側の、45-22区で検出された。概ね 5×4 m の範囲に石塔・板碑・五輪塔・礫（多量の石器を含む）が集積され、近世の陶磁器片も多く含まれていた。実測・写真撮影を行った後に、遺物の取り上げに並行して下部遺構の確認を行ったが、墓壇や骨蔵器等は見られなかった。

この集礫の本米的な性格は、移動させることの困難な大形の石塔が含まれること、地下遺構が存在しないこと等から、いわゆる「詣り墓」と推定される。その後の周囲の耕地化により、耕作中に掘り出された大量の石器を含む礫を、墓と認識されていた範囲に投棄した結果の集積であろう。

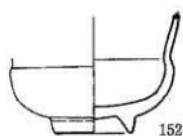
117は1号集礫中最大の石塔で、正面と側面に刻文が見られる。刻文には「野崎三郎衛門」という人物が天正九年二月に建立したことが記されている。118は117と対になると見られるもので、同年同月に女性の発願により建立されたものである。119は前二者よりも一回り小振りな石塔で、刻文が見られるが、風化のため不明瞭となっている。120-121は、破損と風化のため刻文は明瞭でないが、14は安永二年五月の建立である。122-123は板碑で、前面に墨書きによる梵字と刻字が見られる。124は二面に刻文が見られる。安永二年の建立。125は天明二年十月建立の墓石である。126-127は五輪塔の火輪、128は水輪、129は墓石の台座である。

130は青磁碗で、見込みに「正」の刻印が施される。131~144は肥前系の染付で、碗、皿、小杯が見られる。145~160は陶器で、145~151は碗、152は稜碗、153は鉢、154~156は茶家である。

157-158は同一個体で深皿である。159は中型の壺。160は擂鉢で、9条1単位の櫛目が施される。



第29図 1号集疊付近出土遺物 (1) (1 / 3)



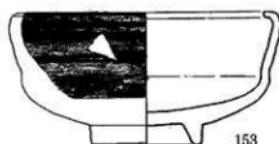
152



154



155



153



156



157

0 10cm
(1 : 3)



158



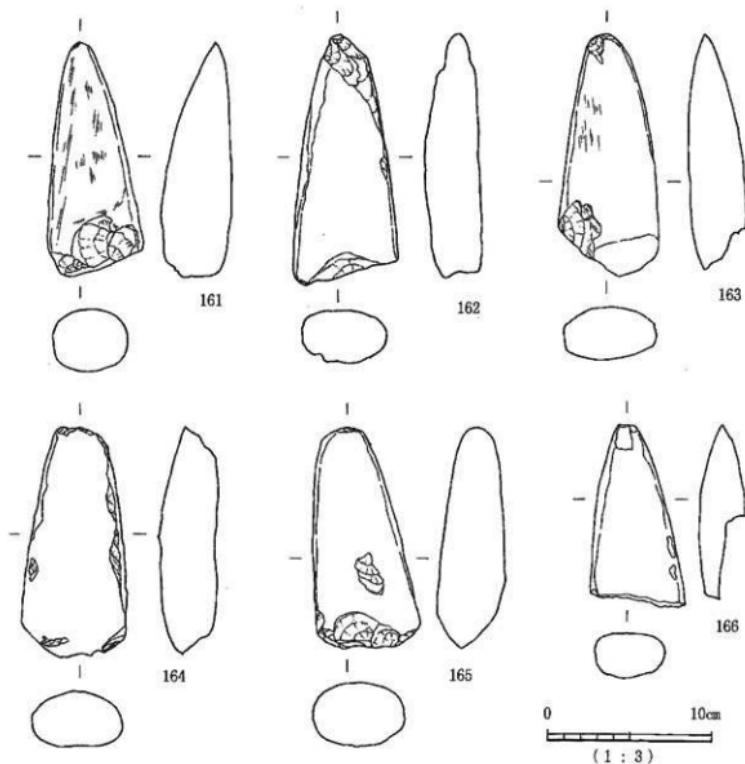
159



160

0 20cm
(1 : 4)

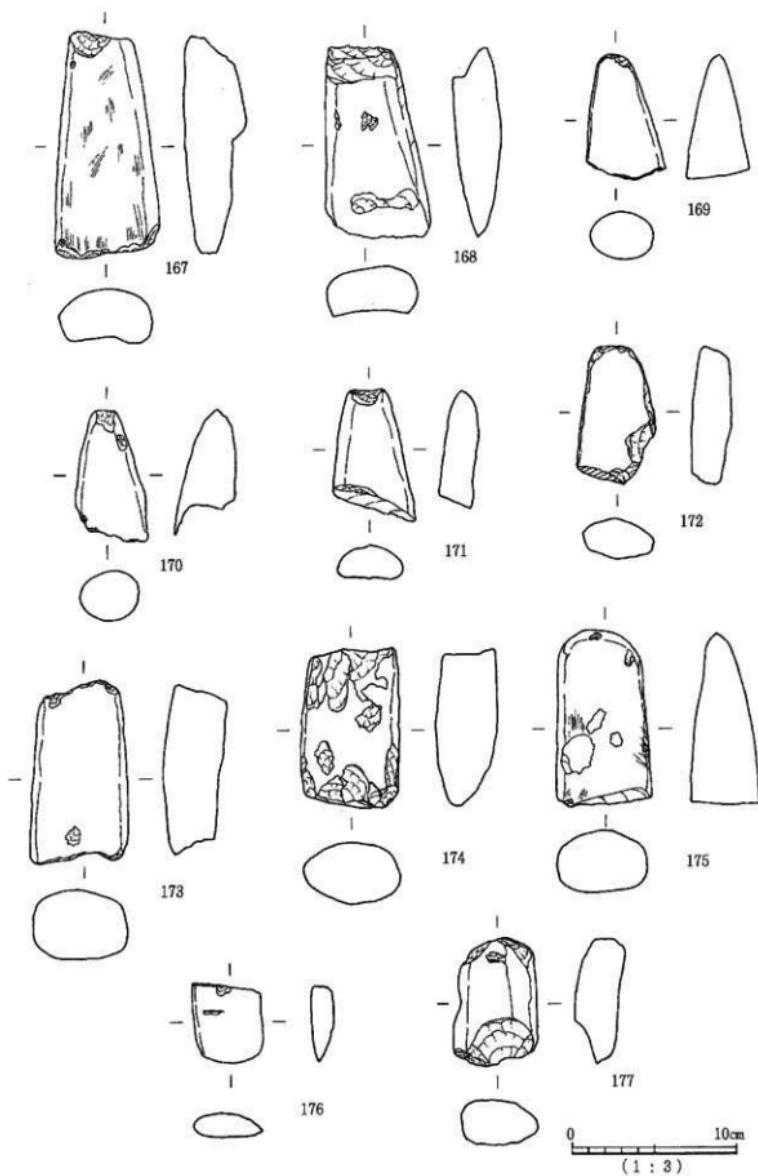
第30図 1号集礫付近出土遺物 (2) (1/3・1/4)



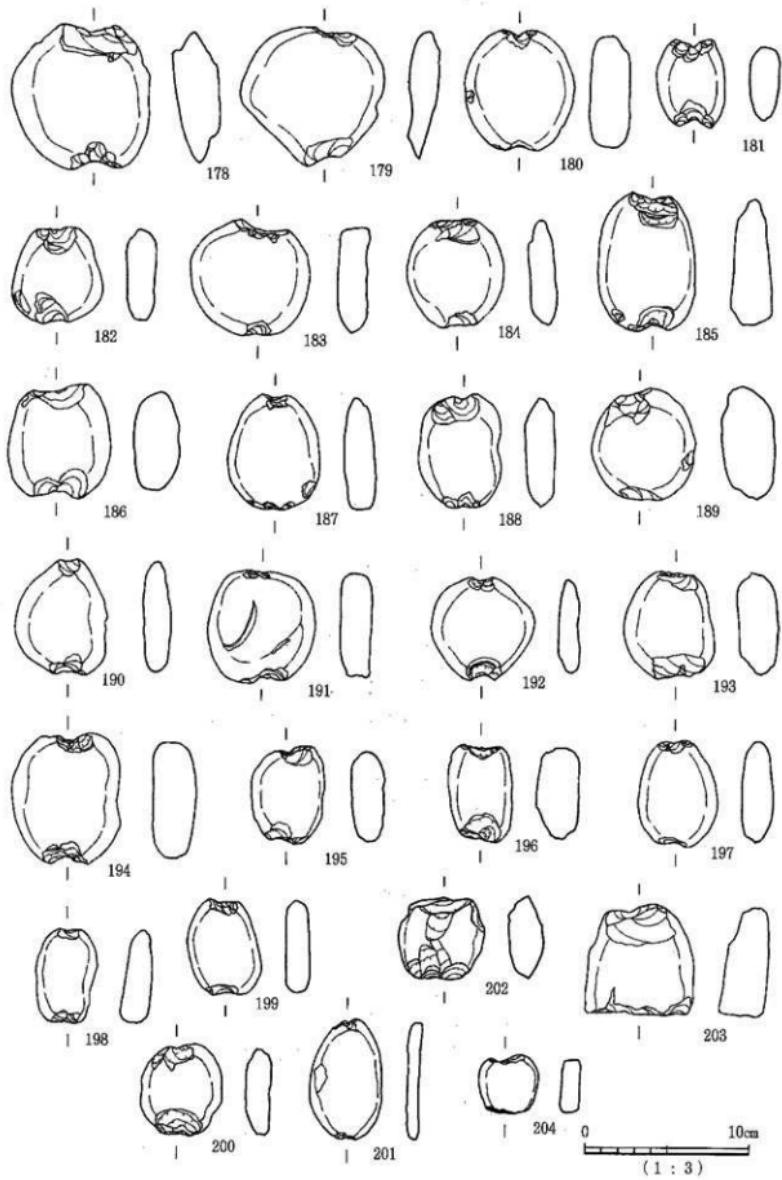
第31図 1号集落付近出土遺物 (3) (1/3)

161~235は、集落を構成していた石器である。

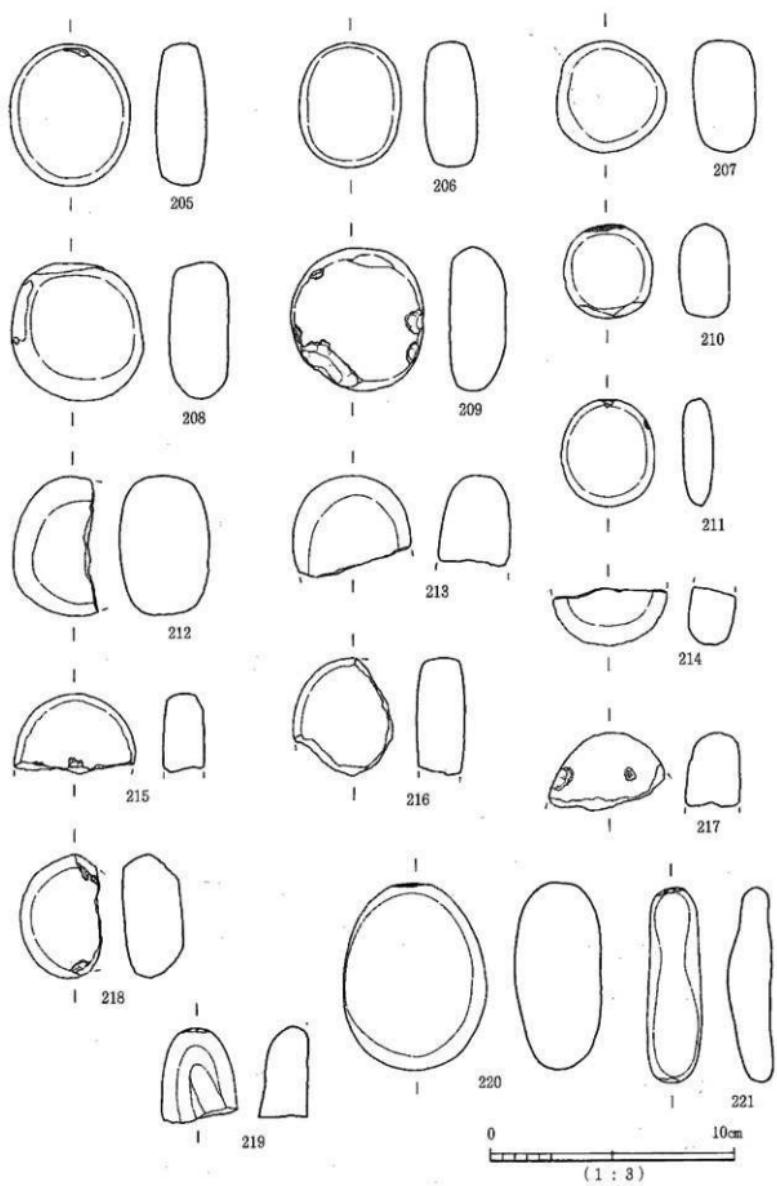
161~177は磨製の石斧である。刃部の欠損したものが多いが、ほとんどが蛤刃になると見られる。178~204は石鎌である。扁平な楕円形石材の長軸両端を打ち欠いている。205~218は磨石で、207·210·213は尾鈴山系酸性岩製。219~221は叩石で、平坦面に擦痕、側面に敲打痕が残る。



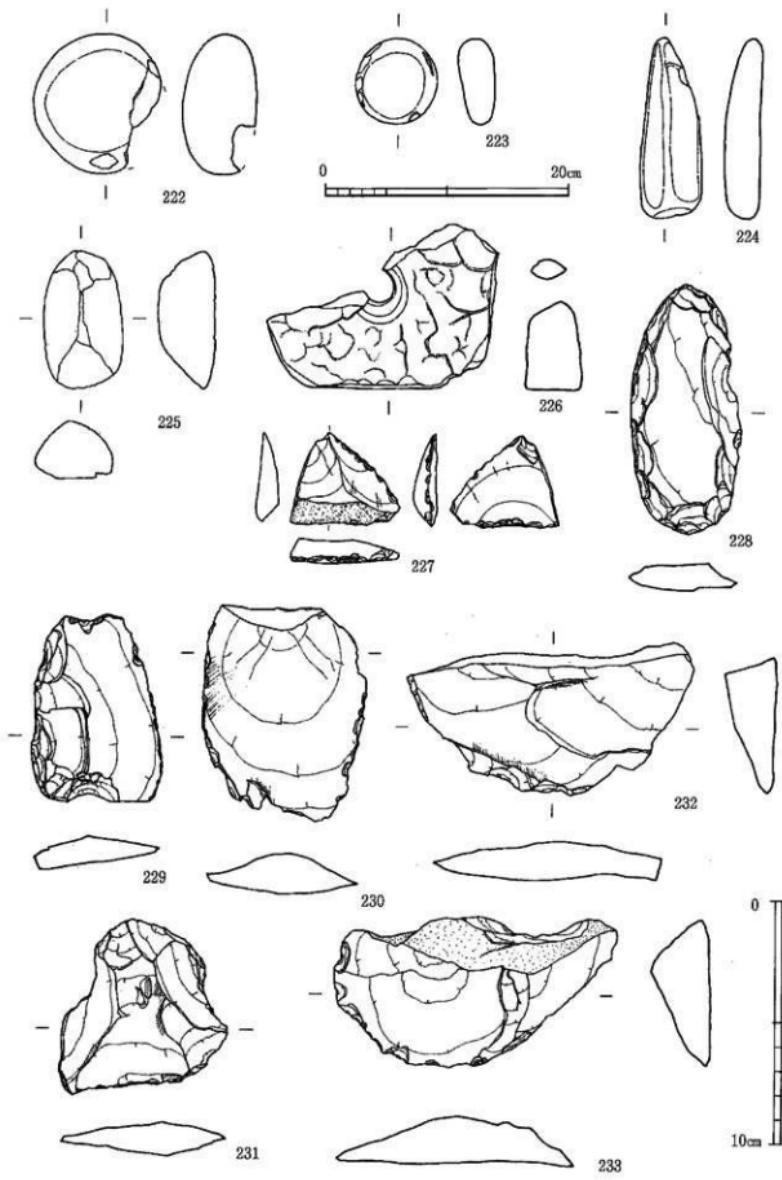
第32図 1号集落付近出土遺物 (4) (1 / 3)



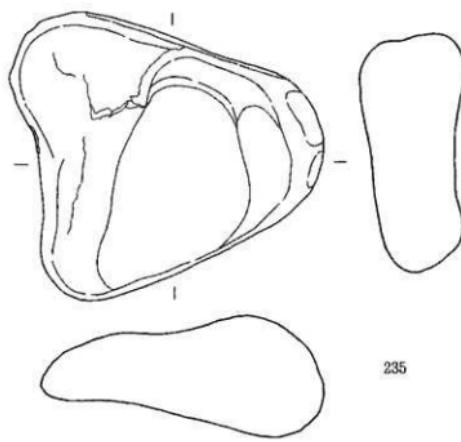
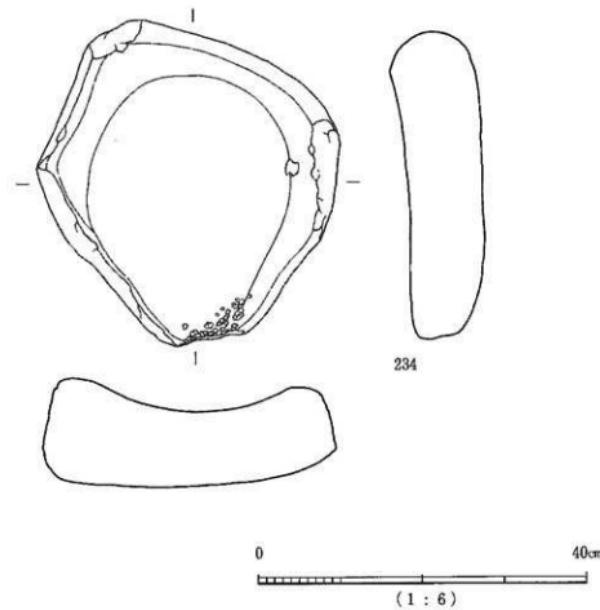
第33図 1号集縄付近出土遺物(5) (1/3)



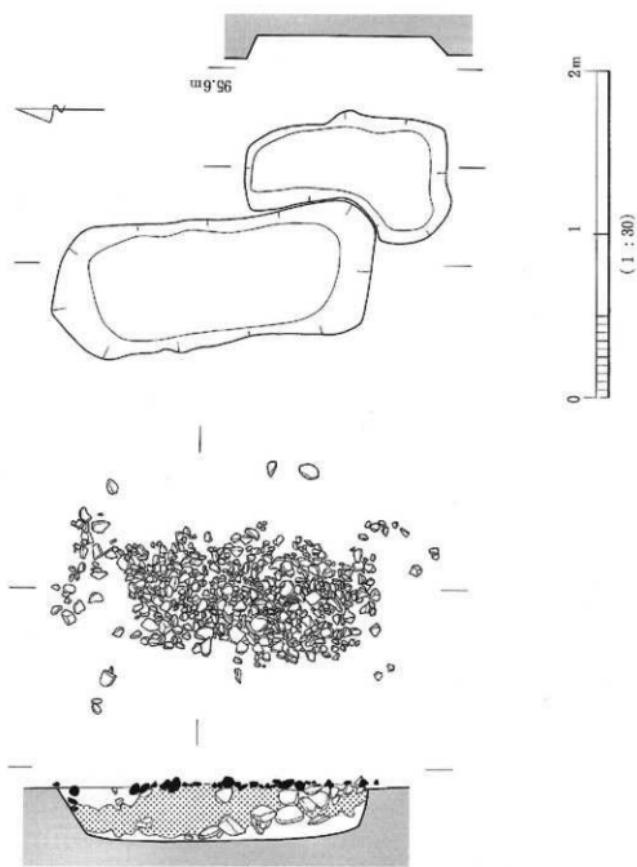
第34図 1号集疊付近出土遺物 (6) (1/3)



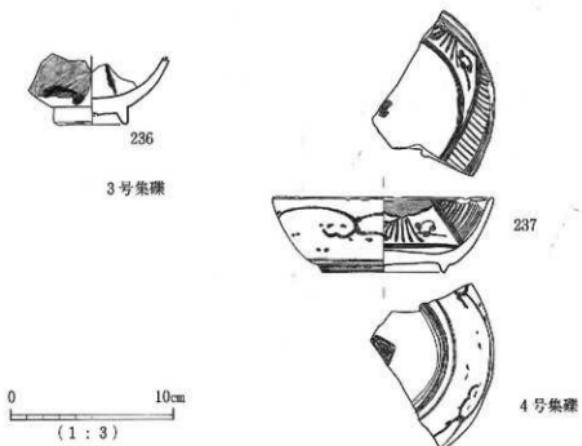
第35図 1号集落付近出土遺物 (7) (1/2・1/4)



第36図 1号集縛付近出土遺物 (8) (1/6)



第37图 4号集藏



第38図 3号・4号集窯出土遺物 (1/3)

225・226は軽石製品で、225は丁寧な面取りが施され、裏面には明瞭な擦痕が認められる。226は方形の板状に成形され、中央に径1.1cmの穴を穿つ。227・228はスクレイパーである。227は二側縁に片面のみからの剥離が施される。228は柳葉形の全周に粗い剥離を施す。229～233は使用痕剥片。234・235は石皿である。長径40cm程の扁平な砂岩を用いており、使用面は著しく凹んでいる。

2号集窯

97～113号土壙墓付近の上部には、I a層（耕作土）中に窯、陶磁器類の集積箇所があった。地元で「ツカ」と称される箇所で、土券墓の上部表象ではなく（石塔、墓石を含まない）、詣り墓であったところが1号集窯と同様の形成過程をたどったものと考えられる。

3号集窯（第38図）

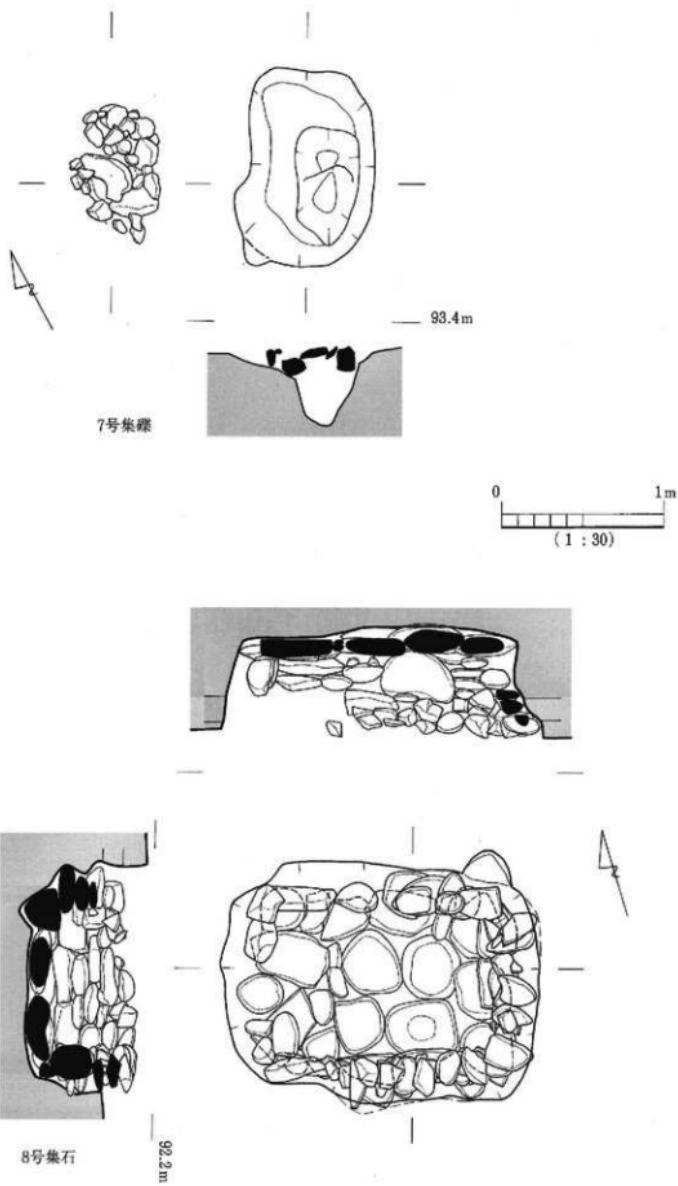
当初は縄文時代の集石と捉えていたが、窯間から近世陶磁器の出土により、1・2号集窯と同種の遺構と判明した。236は出土陶器碗。

4号集窯（第37・38図）

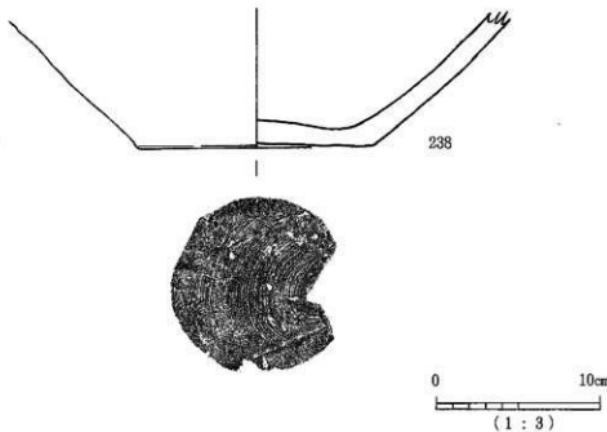
上面の窯の下部に土坑2基同時併存する。特に埋土中位は窯の密度が高い。3～10cm大の赤化磚が多い。237は窯間より出土した肥前系磁器の皿である。

5号集窯（別図1左）

2号溝の埋土中で検出した。確認はできなかったが、2号溝を切る可能性も当然考えられる。



第39図 7号・8号集砾 (1 / 30)



第40図 7号集疊出土遺物 (1/3)

6号集疊 (第14図)

前出の通り、4号溝を切る。浅い土坑中に疊を集めている。

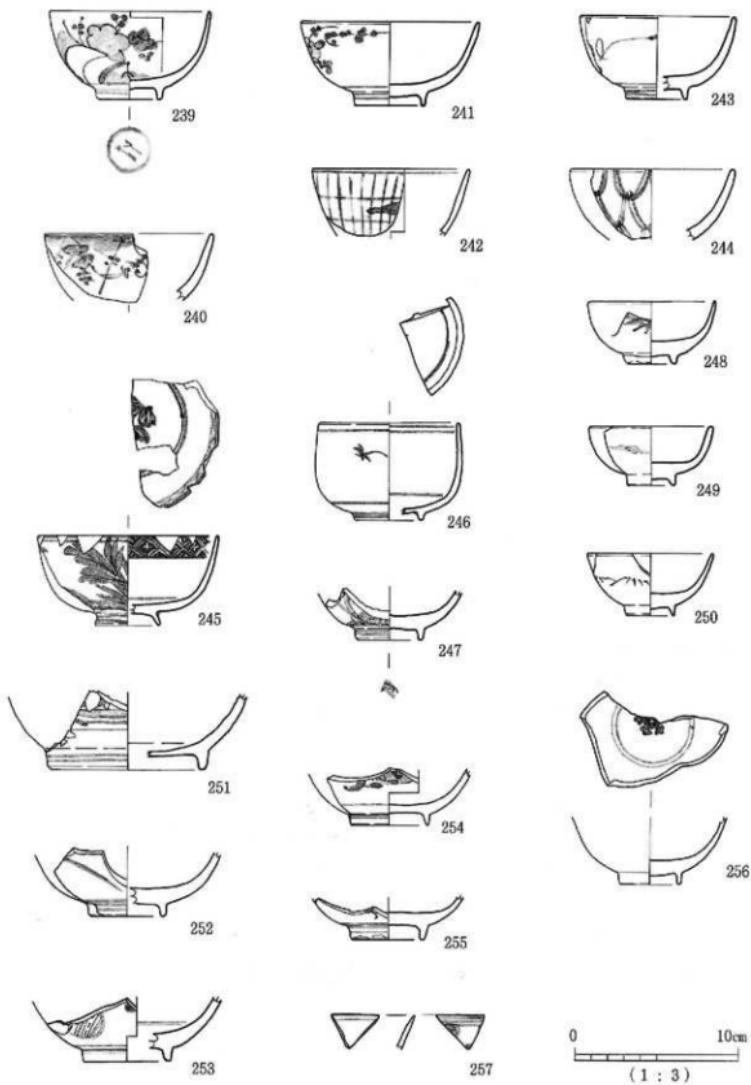
7号集疊 (第39・40図)

44-30区で検出。土坑の埋土上部に疊が密集する。238は須恵質の鉢か壺の底部で、底面に回転糸切りの痕跡が残る。あたかも構成疊の1つのような在り方を示していた。

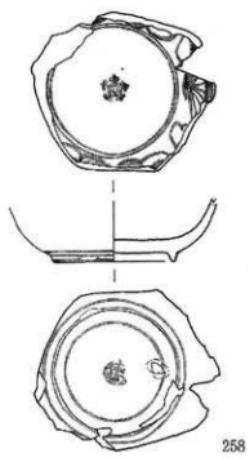
8号集疊 (第39図)

石組炉 (?) とすべきものか。便宜的にこの項で扱った。

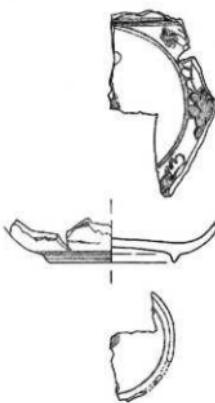
上面を除いて、石組みにより石室状の立方体を築くものである。ただし西側を中心に、壁面石組みが崩落しており、覆土中に転落疊が多数見られた。壁面石組みは、部分的に地山に打ち込んだ形で据え付けられていた。また底面には80~100cm大の扁平な巨疊を用いている。南側の床面疊のうちの一つは縄文時代の石皿を転用している。構成疊の一部には赤化が認められた。内径は約2.8m×1.7m、残存部の深さは約1.0m。覆土中には炭化物、白色ブロック（シラスのブロック）を多く含み、色調は黒褐色を呈する。粘性が比較的大。時期比定の決め手となる遺物は皆無であった。



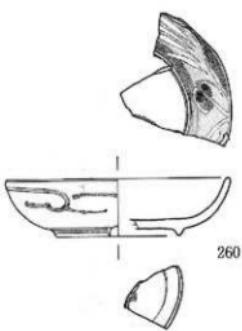
第41図 包含層出土遺物 (1) (1 / 3)



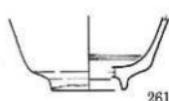
268



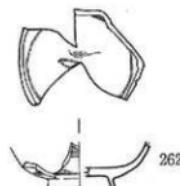
259



260



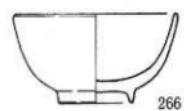
261



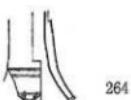
262



263



266



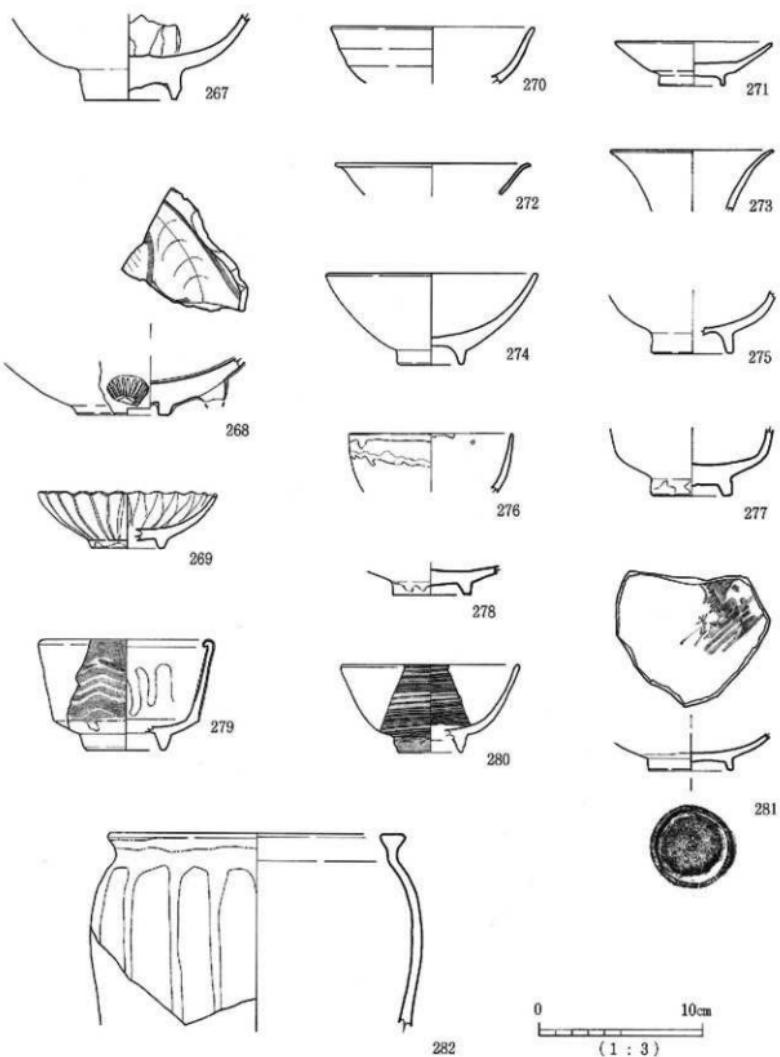
264



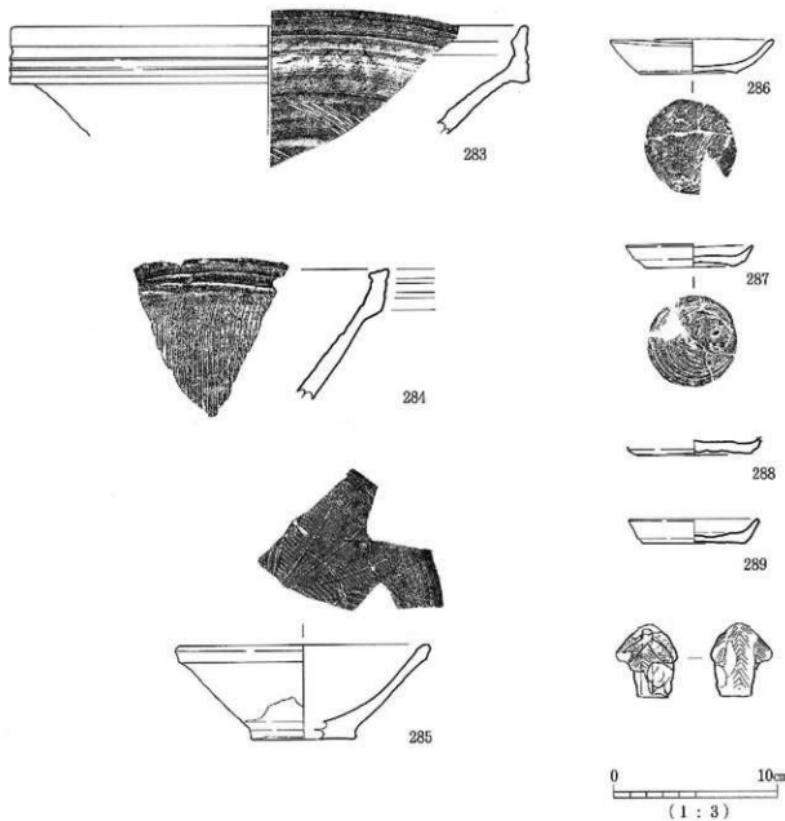
265

0 10cm
(1 : 3)

第42図 包含層出土遺物 (2) (1 / 3)



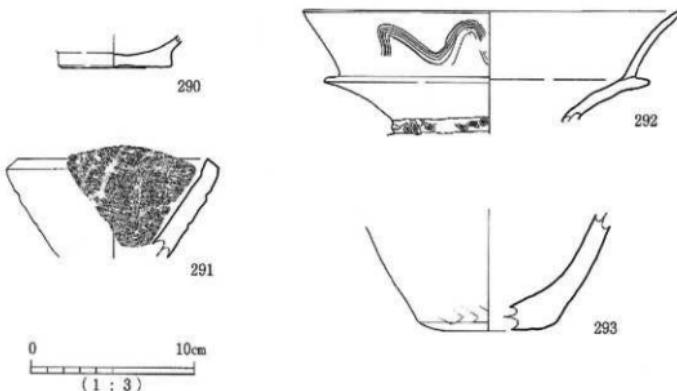
第43図 包含層出土遺物 (3) (1 / 3)



第44図 包含層出土遺物 (4) (1/3)

(10) 包含層出土遺物

I b 層出土遺物を中心にして主な近世の遺物について記述していく。なお、第45図に掲載した遺物は、古墳時代から古代にかけてのものである。該期の遺物は量的に少なく、立項する必要がないと判断し、ここに含めている。



第45図 包含層出土遺物 (5) (1/3)

目立つのは、肥前系磁器の出土量の多さである。特に碗が多く、データは示し得ないが、かなりの高い出土比率を示すものと見られる(239~257)。

また、あまり固化していないが、在地陶器の出土も目立つ。282のような壺の他、蓋、茶家、鉢など、様々な器種が認められる。

286・287は回転糸切り底の土師器杯、皿、288・289はヘラ切り底の土師器皿である。

290はいわゆる円盤状貼り付け高台に似た、特徴的な底部を有するものである。291は内面に布痕が残る在地の製塙土器で、この二者は古代に属するものであろう。

292は土師器の二重口縁壺。外面に粗い柳描波状文を施す。頸部には突帯が巡る。

また、包含層中より、土製人形や錢貨なども出土している。

第4表 出土土器・陶磁器観察表 (4)

遺物 番号	種 別	器 型	出土 地 点	法 量 (cm)	手法・質感・文様ほか				色 調	地 土 の 特 徴	備 考	
					内 径	外 径	高 さ	面 向				
86	染付	碗	口縁～底部	SE2	(9.2)	(3.8)	4.95	施釉、染付	施釉	灰白 灰白	粘土	
87	染付	碗	口縁～底部	SE2	(11.9)	(4.8)	5.0	施釉、染付	施釉、蛇の目模はぎ	灰白 灰白	粘土	
88	染付	碗	体部～底部	SE2		(4.8)		施釉、染付	施釉、蛇の目模はぎ	明緑灰 明緑灰	粘土	
89	染付	碗	体部～底部	SE2		(4.0)		施釉、染付	施釉、蛇の目模はぎ	灰白 灰白	粘土	
90	染付	碗	体部～底部	SE2		(4.2)		施釉、染付	施釉、蛇の目模はぎ	灰白 灰白	粘土	
91	染付	碗	体部～底部	SE2		(4.9)		施釉、染付	施釉、蛇の目模はぎ	灰白 灰白	粘土	
92	磁器	皿	火入～底部	SE2		(8.1)		施釉	施釉	明オリーブ灰 にぼい青色	粘土 にぼい青色	
93	染付	皿	口縁～体部	SE2	(10.2)			施釉、染付	施釉	灰白 灰白	粘土	
94	染付	皿	口縁～底部	SR2		(5.0)		施釉、買入	施釉、染付、買入	明緑灰 明緑灰	粘土	漆目
95	陶器	碗	口縁～体部	SE2	(12.4)			施釉、買入	施釉、買入	浅黄 浅黄	粘土	
96	陶器	湯呑の蓋 つまみ～口縁		SE3			3.15	施釉	毒脂	灰白 灰白	1mm以下の灰黑色 にぼい暗色	
97	陶器	湯呑	SE2					回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	黄灰 黄灰	1mm以下の灰黑色 にぼい暗色	
98	陶器	湯呑	口縁～底部	SE2				回転ナデ	回転ナデ	暗赤灰 暗赤灰	粘土	
99	陶器	湯呑	体部～底部	SE2		(11.2)		回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	暗赤灰 暗赤灰	粘土	86と同一 個体
100	陶器	湯呑	口縁	SE2				回転ナデ	回転ナデ	暗赤灰 暗赤灰	粘土	
101	陶器	湯呑	口縁	SE2		(8.4)		回転ナデ	回転ナデ	暗赤灰 暗赤灰	粘土	
104	陶器	体部～底部	SE2		(4.6)			施釉、買入	施釉、買入	浅黄 浅黄	粘土	
105	磁器	碗	口縁～底部付近	SE5	(10.7)			施釉、買入	施釉、買入	灰白 灰白	粘土	
106	陶器	体部～底部	SE5		(11.4)			回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	灰赤 灰赤	粘土	
107	陶器	湯呑	口縁	SE5				回転ナデ	回転ナデ	灰赤 灰赤	粘土	
108	陶器	体部～底部	SE5		(14.8)			ナデ	ナデ	明赤褐色 明赤褐色	1mm以下の灰黑色 にぼい赤褐色	107と同一 個体
109	編文	把手		SI5				貝殻腹版压痕	貝殻腹版压痕	明赤褐色	明赤褐色	
110	編文	深鉢	口縁	SA102					貝殻腹版压痕	にぼい青色 にぼい青色	1mm以下の灰黑色 にぼい青色	
116	土器器	丸盤		SA103	10.42			ナデ	ナデ	にぼい青色 にぼい青色	0.5mm以上の全色光沢灰 1mm以下の全色光沢灰	
130	青磁	休湯～底部		SZ1	4.2			施釉、高内凹輪胎、 施釉、買入	施釉、高内凹輪胎、 施釉、買入	灰灰 灰白	粘土	
131	白磁	碗	体部～底部	SZ1		4.15		施釉、高内凹輪胎、 施釉、買入	施釉、高内凹輪胎、 施釉、買入	灰白 灰白	粘土	
132	染付	碗	口縁～底部	SZ1				唐草文 施釉、買入	唐草文 施釉、買入	明緑灰 明緑灰	粘土	
133	染付	高台付皿	体部～底部	SZ1				施釉、買入	施釉、買入	明緑灰 明緑灰	粘土	
134	染付	碗	体部～底部	SZ1				見込に「木」文 施釉、買入	見込に「木」文 施釉、買入	灰白 灰白	粘土	
135	染付	碗	口縁～底部	SZ1	9.3	3.7	5.25	柳葉文 施釉、炒目付	柳葉文 施釉、炒目付	灰白 灰白	粘土	
136	染付	碗	口縁～底部	SZ1	10.7	4.1	4.9	柳葉文 施釉、炒目付	柳葉文 施釉、炒目付	明オリーブ灰 明オリーブ灰	粘土	
137	染付	碗	体部～底部	SZ1		4.3		柳葉文 施釉	柳葉文 施釉	灰白 灰白	粘土	
138	染付	碗	口縁～底部	SZ1	11.0	4.1	5.35	有花文 施釉、炒目付	有花文 施釉、炒目付	灰白 灰白	粘土	
139	染付	碗	体部～底部	SZ1		3.0		施釉	施釉	灰白 灰白	粘土	
140	染付	高台付皿	体部～底部	SZ1		6.3		施釉、炒目付	施釉	明青灰 明青灰	粘土	
141	染付	碗	休湯～底部	SZ1		4.0		施釉、買入	見込に草花文 施釉、買入	明緑灰 明緑灰	粘土	
142	染付	碗	休湯～底部	SZ1		4.4		施釉、有部と高台 に團扇	施釉、有部と高台 に團扇	コニシヤク印版 施釉、見込に西様 施釉	粘土	
143	染付	碗	休湯～底部	SZ1		3.55		施釉、買入	施釉、買入	灰白 灰白	粘土	
144	染付	小鉢	口縁～底部	SZ1	5.0	3.3	3.7	施釉、草文	施釉	灰白 灰白	粘土	
145	陶器	碗	口縁～底部	SZ1	10.3	4.0	6.55	施釉、雑款	施釉、買入	緑灰 灰白	粘土	
146	陶器	碗	口縁～底部	SZ1	12.7	4.2	5.25	施釉、買入	施釉、買入、胎土 目痕跡	黄褐色 灰白	粘土	
147	陶器	碗	休湯～底部	SZ1		4.2		施釉、延胎	施釉、胎土目痕跡	灰白 灰白	にぼい青色	
148	陶器	碗	休湯～底部	SZ1		4.5		施釉、露胎	施釉、露胎	灰白 灰白	粘土	
149	陶器	碗	休湯～底部	SZ1		3.6		施釉、露胎、買入	施釉、露胎、買入	灰白 灰白	粘土	

第5表 出土土器・陶磁器観察表 (5)

遺物 番号	種別	器種	出土 部位	法 量 (cm)	手法・網織・文様はか		色 調		地 上 の 着 合	備 考		
					外 面	内 面	外 面	内 面				
150	陶器	縹	底部	SZ1	3.7	化粧土によるうず巻き文、施釉、窓入、ねじはぎ	化粧土によるうず巻き文、施釉、窓入、ねじはぎ	灰灰	にぶい赤灰	精良		
151	陶器	体部～底部		SZ1	4.2	露胎、施釉	施釉	黒褐	明赤褐	精良		
152	陶器	縹	体部～底部	SZ1	4.6	施釉、ねじはぎ	施釉、窓入	灰白 灰	にぶい赤褐	精良		
153	陶器	縹	底部	SZ1	16.3	6.6	8.1	施釉、露胎	露胎	オーラーブ灰 灰白	精良、半透明釉を少量含む	
154	陶器	茶家の底 つまみ足		SZ1				施釉、ねじはぎ	露胎	暗赤灰	精良	
155	陶器	茶家の底 つまみ足		SZ1				施釉	墨塗り	オーラーブ灰 灰白	精良	
156	陶器	縹	山形～肩部	SZ1				施釉、露胎、スヌ 付付	自然釉	オーラーブ灰 黄灰	にぶい灰灰	
157	陶器	体部～底部		SZ1				施釉、露胎	施釉	オーラーブ灰 灰白	精良	
158	陶器	大皿 口縹	P	25.25	8.4	6.65		施釉	灰オーラーブ 灰	灰白	精良	
159	陶器	縹	口縹～底部	SZ1	29.7	16.1	29.85	施釉、蓋付物は施 施釉、自然釉	砂目模 モーリーブ灰	灰白褐 黒褐	精良	
160	陶器	縹	口縹～底部	P	25.1	12.0	9.6	口縹部分に2条の施 施釉	揚目 黒褐	灰褐 灰褐	精良	
236	陶器	縹	体部～底部	SZ3	4.6			施釉、露胎	施釉	オーラーブ灰 灰白	精良	
237	染付	縹	山形～底部	SZ4	(13.5)	7.5	(4.6)	施釉、染付	施釉、染付	オーラーブ灰 灰白	精良	
238	須恵質	縹	底部	SZ7	11			ナデ	ナデ	黄灰 灰白	5mm以下の灰白 1mm以下の黒、灰白色粒	
239	染付	縹	山形～底部		23-35	9.7	3.7	6.4	施釉、染付	施釉	明緑灰 灰白	精良
240	染付	縹	山形～底部		38-26	(10.2)		施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良	
241	染付	縹	山形～底部		39-23	(14.8)	(5.15)	(4.3)	施釉、染付	施釉、蛇の目跡はぎ	灰白 灰白	精良
242	染付	縹	山形～底部		37-17	(9.6)		施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良	
243	染付	縹	口縹～底部		37-21	(9.6)	(5.1)	施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良	
244	染付	縹	口縹～底部		31-22	(9.9)		施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良	
245	染付	縹	山形～底部		39-18	(10.8)	(3.8)	(5.65)	施釉、染付、窓入	施釉、染付、窓入	明緑灰 明緑灰	精良
246	染付	縹	口縹～底部		37-21	(8.45)	(4.0)	(5.95)	施釉、染付	施釉、染付	明青灰 灰白	精良
247	染付	縹	山形～底部		41-17		(3.9)		施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良
248	染付	小瓶	口縹～底部		35-22	(7.6)	(2.8)	(3.8)	施釉、染付	施釉	明緑灰 明緑灰	精良
249	染付	小瓶	山形～底部		37-21	(7.3)	(2.7)	(3.6)	施釉、染付	施釉	明緑灰 明緑灰	精良
250	染付	小瓶	山形～底部		34-21	(7.55)	(2.9)	(3.8)	施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良
251	染付	小瓶	体部～底部		37-21		(8.9)		施釉、染付、窓入	露胎	灰白 灰白	精良
252	染付	小瓶	体部～底部		38-20		(4.4)		施釉、染付	施釉、蛇の目跡はぎ	明緑灰 明緑灰	精良
253	染付	小瓶	体部～底部		36-21		(5.3)		施釉、染付	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
254	染付	小瓶	体部～底部		42-21		(4.6)		施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良
255	染付	小瓶	体部～底部		35-29		4.25		施釉、染付、窓入	蛇の目跡はぎ 施釉、窓入	明緑灰 明緑灰	精良
256	染付	小瓶	体部～底部		36-23		(3.6)		施釉	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
257	染付	小瓶	山形		40-20				施釉、染付	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
258	染付	小瓶	体部～底部		-		7.35		施釉、染付	施釉、染付	灰白 灰白	精良
259	染付	小瓶	体部～底部		41-17		(7.7)		施釉、染付	施釉、染付	灰白 灰白	精良
260	染付	小瓶	山形～底部		36-37	(13.6)	(7.6)	(3.5)	施釉、染付	施釉、染付	灰白 灰白	精良
261	染付	小瓶	体部～底部		41-17		(4.3)		施釉	施釉、染付	オーラーブ灰 灰白	精良
262	染付	小瓶	体部～底部		36-21		(4.1)		施釉、染付	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
263	染付	小瓶	底部		38-21		(8.3)		施釉、染付	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
264	染付	小瓶	底部		10-19				施釉、染付	施釉	灰白 灰白	精良
265	染付	小瓶	底部		46-24				施釉、染付	施釉、染付	明緑灰 明緑灰	精良
266	磁器	小瓶	底部		36-17	(9.9)	4.6	(5.5)	施釉、窓入	施釉、窓入	灰白 灰白	精良
267	青磁	小瓶	底部		38-21		(5.6)		施釉、露胎	施釉	オーラーブ灰 灰白	精良
268	青磁	小瓶	底部		36-21		(5.6)		施釉、窓入	施釉	明緑灰 明緑灰	精良

第6表 出土土器・陶磁器観察表 (6)

遺物 番号	種別	器 形 位	出 土 地 点	法 量(cm)		手法・調整・文様ほか			色 調		断 土の竹 版	備 考
				口 径	底 径	高 度	外 面	内 面	外 面	内 面		
269	青磁	輪花直 口縁-底部	42-21	(10.9)	(4.6)	(3.5)	施釉、真入、露胎	施釉、真入	明緑灰 灰白	明緑灰 灰白	精良	
270	磁器	碗	山陰	39-18	(13.2)		施釉	施釉	灰白	灰白	精良	
271	白磁	小皿 口縁-底部	36-17	9.6	4.0	2.7	施釉	施釉、蛇の目模はざ	明緑灰	明緑灰	精良	
272	白磁	皿 口縁-底部	36-22	(12.0)			施釉	施釉	灰白	灰白	精良	
273	白磁	碗 口縁-底部	37-21	(9.9)			施釉	施釉	明緑灰	明緑灰	精良	
274	陶器	碗 山陰-底部	39-17	(12.65)	3.70	(5.55)	施釉	施釉	褐	褐	精良	
275	陶器	体部-壳部	36-23		(5.0)		施釉	施釉、真入	オリーブ灰	オリーブ灰	精良	
276	陶器	碗 口縁-体部	39-23	(10.0)			施釉	施釉	緑灰	明緑灰	精良	
277	陶器	碗 体部-底部	36-23		(4.9)		施釉、真入	施釉、真入	オリーブ灰	オリーブ灰	精良	
278	陶器	碗 体部-底部	47-22	(4.8)			施釉、露胎	施釉、蛇の目模はざ	暗緑灰	暗緑灰	精良	
279	陶器	火入れ 口縁-底部	39-22	(10.0)	(4.8)	(6.75)	施釉、露胎	施釉、露胎	暗赤褐 灰白	暗赤褐 灰白	精良	
280	陶器	碗 口縁-底部	37-22	(10.9)	(3.6)	(5.35)	施釉	施釉、蛇の目模はざ	暗灰黄	暗灰黄	精良	
281	陶器	碗 底部	36-23		(5.05)		施釉、真入、露胎	施釉、真入、露胎	淡黄	淡黄	精良	底部に刻印
282	陶器	碗 口縁-底部	36-17	(18.0)			施釉	施釉	暗赤褐色	オリーブ灰	8mm以下の灰褐色の粒 3mm以下の半透明の光沢粒	
283	陶器	筒状 口縁	38-21	(31.4)			施釉	施釉	灰赤	灰赤	2mm以下の乳白色の粒	
284	陶器	筒状 口縁	40-21				施釉	施釉	赤褐	赤褐	5mm以下の乳白色 及褐色の粒	
285	陶器	口縁-底部	36-17	(15.3)	(6.6)	(5.78)	施釉	施釉	黑褐	黑褐	精良	
286	土器	皿 口縁-底部	53-26	11.0	6.0	2.1	凹軸ナダ	凹軸ナダ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	精良	スヌ? 參切り
287	土器	小皿 口縁-底部	54-23	(7.2)	5.5	(1.4)	凹軸ナダ	凹軸ナダ	にぶい黄	にぶい黄	精良	參切り
288	土器	皿 底部	56-23		(7.05)		凹軸ナダ	凹軸ナダ	にぶい黄澄	にぶい黄澄	精良	ハラ切り
289	土器	小皿 口縁-底部	56-22	(7.8)	(6.2)	(1.5)	凹軸ナダ	凹軸ナダ	にぶい黄	浅黄	精良	ハラ切り
290	土器	皿 底部	58-19		(7.0)		丹塗り?	丹塗り?	浅黄橙	浅黄	きめ細やか	円盤状高台
291	土器	皿 口縁-底部	29-34	(11.6)			ナダ、折頭状	布目	褐	褐	斑点状斑点の粒	鐵色
292	土器	皿 口縁-底部	-	(22.05)			湖貝模様 模様波状文	ナダ	明黄橙	明黄橙	3mm以下の黄褐色の粒	二重山線
293	土器	皿 底部	23-34		(8.6)		ナダ	ナダ	明黄橙	明黄橙	2mm以下の乳白、灰白色の粒 黒色光沢粒	

第7表 出土土器・陶磁器観察表 (4)

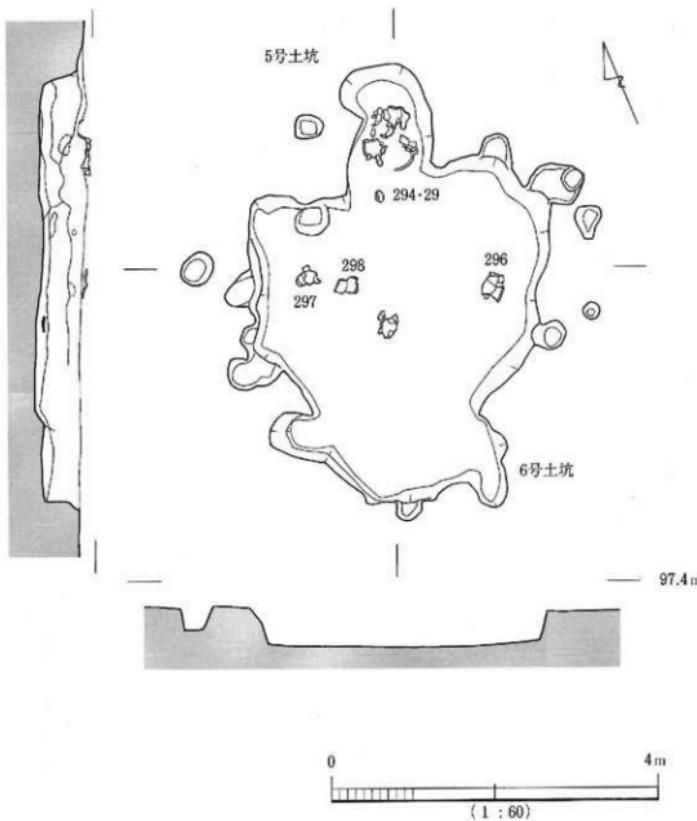
遺物 番号	器 種	出 土 地 点	最 大 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考	遺物 番号	器 種	出 土 地 点	最 大 長 (cm)	最 大 幅 (cm)	最 大 厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
102	石斧	SE2	9.48	4.40	0.90	83.5	滑石製灰岩	195	石錐	SZ1	6.0	4.4	1.9	72.8	砂岩	
103	砥石	SE2	7.95	6.00	1.53	135.7	泥岩	196	石錐	SZ1	5.96	3.95	2.6	87.5	砂岩	
111	切口 石錐	SA1002	4.15	2.75	1.0	13.9	頁岩	197	石錐	SZ1	6.5	4.85	1.9	86.8	*	
112	磨石	SA1002	11.6	8.33	2.52	406.5	砂岩	198	石錐	SZ1	5.8	3.7	1.6	82.7	*	
113	磨石	SA1002	11.9	9.75	5.9	1099.2	尾銅酸性岩	199	石錐	SZ1	5.8	4.5	1.5	64.0	*	
114	磨石	SA1002	11.8	9.6	5.25	926.8	*	200	石錐	SZ1	5.5	5.0	1.5	65.4	*	
115	磨石	SA1002	12.2	5.7	5.65	519.9	砂岩	201	石錐	SZ1	7.3	4.45	0.6	38.9	頁岩	
161	石斧	SZ1	14.4	5.9	3.75	161.5	*	202	石錐	SZ1	5.2	4.95	2.1	79.0	砂岩	
162	石斧	SZ1	15.3	6.45	3.3	474.5	*	203	石錐	SZ1	6.7	6.6	2.6	175.8	*	
163	石斧	SZ1	4.8	6.15	3.2	395.6	*	204	石錐	SZ1	3.65	3.55	1.1	24.1	*	
164	石斧	SZ1	14.1	6.4	3.4	467.9	*	205	磨石	SZ1	11.55	9.10	4.2	831.3	*	
165	石斧	SZ1	13.6	6.65	3.8	495.9	*	206	磨石	SZ1	10.15	9.45	4.4	635.7	*	
166	石斧	SZ1	11.5	5.85	2.75	200.7	*	207	磨石	SZ1	9.1	9.0	5.2	702.2	尾銅酸性岩	
167	石斧	SZ1	13.8	6.45	3.85	462.1	*	208	磨石	SZ1	11.2	10.85	4.9	928.2	砂岩	
168	石斧	SZ1	11.8	6.45	3.0	310.8	*	209	磨石	SZ1	11.68	10.9	4.7	871.4	*	
169	石斧	SZ1	7.7	4.9	2.85	148.8	*	210	磨石	SZ1	7.58	7.25	4.1	369.9	尾銅酸性岩	
170	石斧	SZ1	8.1	4.5	3.0	110.9	*	211	磨石	SZ1	8.7	7.6	2.4	257.2	砂岩	
171	石斧	SZ1	8.1	5.1	2.1	118.6	*	212	磨石	SZ1	11.35	6.98	7.2	810.2	*	
172	石斧	SZ1	8.4	4.8	2.4	127.1	*	213	磨石	SZ1	8.22	9.73	5.9	701.4	尾銅酸性岩	
173	石斧	SZ1	11.2	6.1	4.2	492.4	*	214	磨石	SZ1	4.65	9.33	3.7	220.9	砂岩	
174	石斧	SZ1	9.7	6.1	3.8	318.7	*	215	磨石	SZ1	(6.4)	10.0	3.4	364.8	*	
175	石斧	SZ1	10.8	6.75	3.5	386.4	*	216	磨石	SZ1	(9.5)	8.20	4.0	474.6	*	
176	石斧	SZ1	4.9	4.35	1.35	45.9	*	217	磨石	SZ1	6.30	9.50	4.4	324.7	凝灰岩	
177	石斧	SZ1	7.9	5.25	2.7	183.0	頁岩	218	磨石	SZ1	10.05	6.65	4.8	473.5	砂岩	
178	石錐	SZ1	8.9	8.55	2.6	277.6	砂岩	219	敲石	SZ1	7.75	6.20	4.8	278.9	*	
179	石錐	SZ1	8.9	8.55	1.7	189.1	*	220	敲石	SZ1	15.25	11.75	7.1	180.0	*	
180	石錐	SZ1	7.4	6.8	2.4	178.3	*	221	敲石	SZ1	15.85	4.48	3.8	361.3	*	
181	石錐	SZ1	5.4	4.2	1.8	43.5	*	222	磨石?	SZ1	11.45	10.45	6.1	823.1	*	
182	石錐	SZ1	5.9	5.6	1.75	95.7	*	223	磨石?	SZ1	6.92	6.70	2.9	192.3	*	
183	石錐	SZ1	7.3	7.0	1.8	151.7	*	224	磨石?	SZ1	14.70	5.00	3.1	262.2	*	
184	石錐	SZ1	7.1	5.6	1.65	99.2	*	225	石製品	SZ1	11.20	6.50	4.7	77.1	燧石	
185	石錐	SZ1	8.5	5.95	2.2	194.4	砂岩	226	石製品	SZ1	6.7	9.5	2.4	123.1	凝灰岩	
186	石錐	SZ1	6.9	6.4	2.75	172.5	*	227	スクレイパー	SZ1	3.8	4.55	0.9	16.2	砂岩	
187	石錐	SZ1	7.0	5.2	1.8	99.5	*	228	スクレイバー	SZ1	10.25	4.60	1.2	67.9	シルト岩	
188	石錐	SZ1	6.9	5.15	1.8	104.1	*	229	使用痕 跡片	SZ1	7.73	5.41	1.1	61.3	頁岩	
189	石錐	SZ1	6.8	6.4	3.25	183.6	*	230	剥片	SZ1	7.95	6.85	1.7	95.5	砂岩	
190	石錐	SZ1	6.6	5.95	1.65	97.5	*	231	使用痕 跡片	SZ1	7.25	6.95	1.4	61.2	頁岩	
191	石錐	SZ1	6.9	6.55	2.0	142.3	*	232	剥片	SZ1	11.85	6.25	1.6	139.3	砂岩	
192	石錐	SZ1	6.3	6.3	1.2	75.2	*	233	剥片	SZ1	6.20	11.68	2.4	148.9	達賀頁岩	
193	石錐	SZ1	6.5	5.55	2.55	127.0	*	234	石皿	SZ1	40.2	36.6	13.4	23500	砂岩	
194	石錐	SZ1	7.9	6.7	2.6	228.9	*	235	石皿	SZ1	36.4	38.2	15	21500	*	

2 III層上面検出の遺構・遺物（縄文時代）

同一面検出の近世遺構の影響が大きく、またところによっては埋土と地山の判別が難しく、遺構の壁・床面の認定に苦慮したことしばしばであったが、中期末～後期中葉にかけての竪穴（おそらくその大多数は住居跡か）47基、土坑66基を確認することができた。

(1) 竪穴

1号竪穴（第46～52図）



第46図 1号竪穴 (1/60)

第47圖 1號豎穴出土遺物 (1) (1 / 3)

(1 : 8)



第48図 1号墳出土遺物 (2) (1/3)



旧農作業道の北側、33-21区で検出された。検出面はⅢ層（アカホヤ層）面。方形基調の竪穴であろう。ただし北側は5号土坑、南側は6号土坑と重なり、平面形が乱れている。これらの土坑との先後関係は、平面観察時はあまり明瞭でなく、土層断面により土坑を竪穴が切るということが判明した。東西の一辺長は3.0m、検出面からの深さは約50cm。明確な柱穴は捉えられていない。

遺物のうち、294・295は正確には5号土坑に属するものである。それらと、296～298は比較的まとまった破片である。ただし大部分が検出面近くで出土しており、同時性については慎重にならざるを得ない。

294・295は同一個体で、前述の通り、隣接する5号土坑より出土したもの。口縁部には貝殻腹縁圧痕文を、胴部には凹線文を施す。底面には圧痕が認められる。296の外面には2・3本単位の沈線による渦状の文様を描いている。297は胴の張る器形を呈するもので、2本単位の平行沈線文を描く。299・300は波状口縁となるもので、太めの沈線、凹線による文様を描く。302～306は平行沈線文間に、貝殻腹縁圧痕文や竹管状連点文を施す。309や310も同様のものである。311は地文の貝殻条痕の上に沈線文を描く。沈線が水平に巡るものであったとすると、この個体は図のような傾きではなく、壺形ということになる。

石器は、スクレイバー（313）、磨石（314）、石皿（315）、石錐（316）などが認められた。313は円形の剥片の周囲に粗い剥離を加えている。

2号竪穴（第53図）

34-21区にある。Ⅲ層（アカホヤ層）面で検出した遺構であるが、この辺りには家屋があったため、痕跡を捉えた程度である。そのため、平面形は方形を基調としているように見受けられるが、本来の平面プランは不明と言わざるを得ない。また近世の土坑（墓壙か）構築の影響も受ける。

残存状況が悪かったため、遺物は少なく土器は皆無であった。中央やや北東よりのところで石皿が出土している程度である。

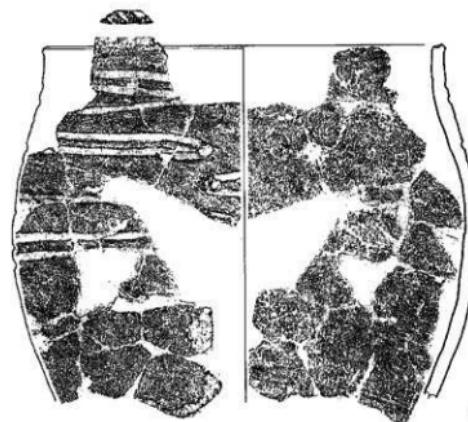
3号竪穴（別図1左・第54図）

36-20・21区にある円形の竪穴。一部近世の土坑（墓壙か）に切られる。径は2.7m、検出面からの深さは約10cm程度と、削平を受けていることもあり、ごく浅い。覆土はⅠc層土基調のオリーブ褐色土である。

317・318・320などの比較的まとまった土器片は、床面近くから出土している。317と318は同一個体で、器面には貝殻条痕のみ見える無文土器で、口縁部を肥厚させる。319は口縁部の小破片で、肥厚部に沈線文、連点文を施す。320は底部片で、底面にも貝殻条痕が残る。

4号竪穴（第55～57図）

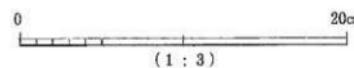
38-17・18区にある円形の竪穴。西壁は43号土壙墓に切られる。径は3.6m、検出面からの深さは約15～25cm。覆土は暗褐色を呈する。床面にいくつかのピットが見られたが、うち北東と南西壁際のそれが主柱穴となるものであろう。また中央やや西よりの土坑は床面の精査時に検出されたもので、この4号竪穴に付随する施設と見て良いと考えられる。深さは約150cmとかなりの深さを有し、さらにその床面中央に1基の小穴（深さ約15cm）がある。この屋内土坑の覆土は粘性の強い砂質土で、炭化物を多く含む。竪穴の一種であろうか。



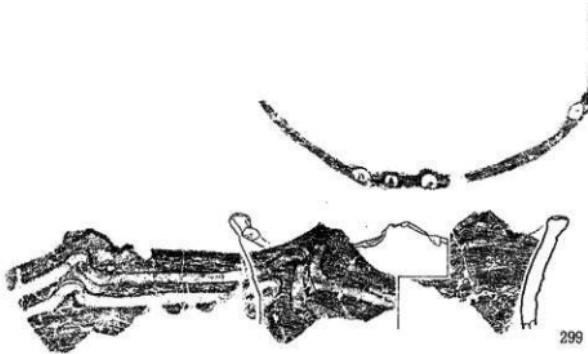
297



298



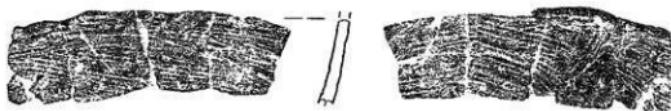
第49図 1号竪穴出土遺物 (3) (1 / 3)



299



300



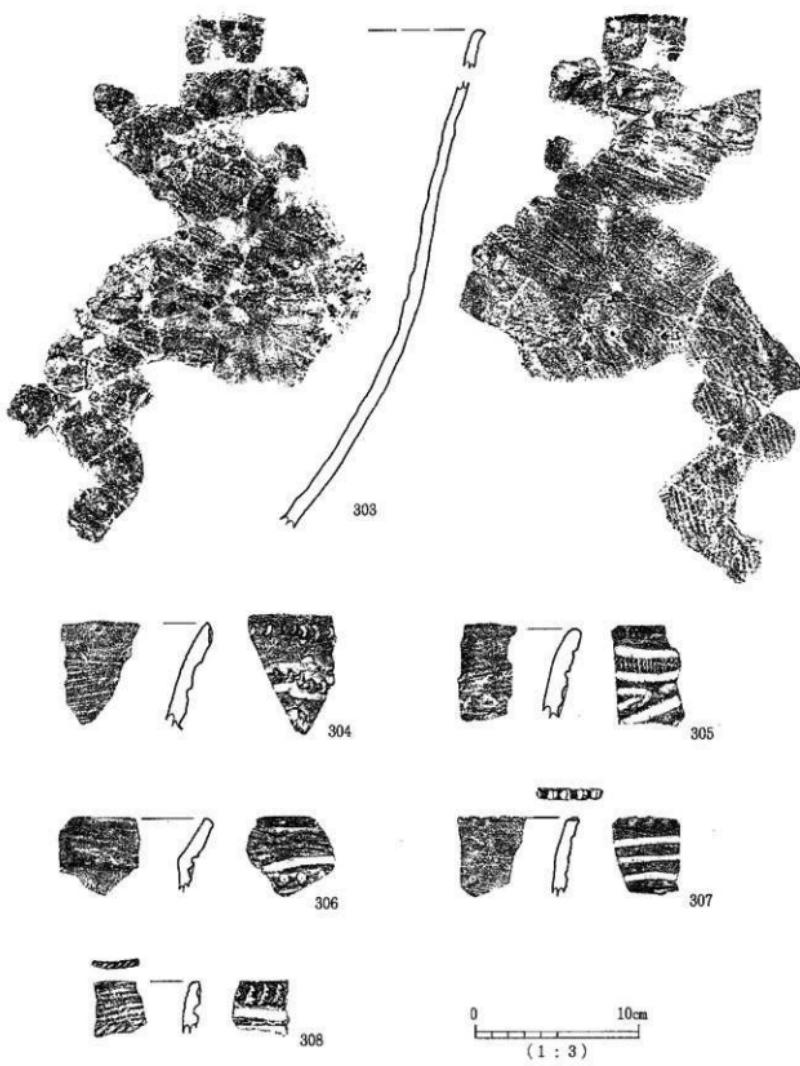
301



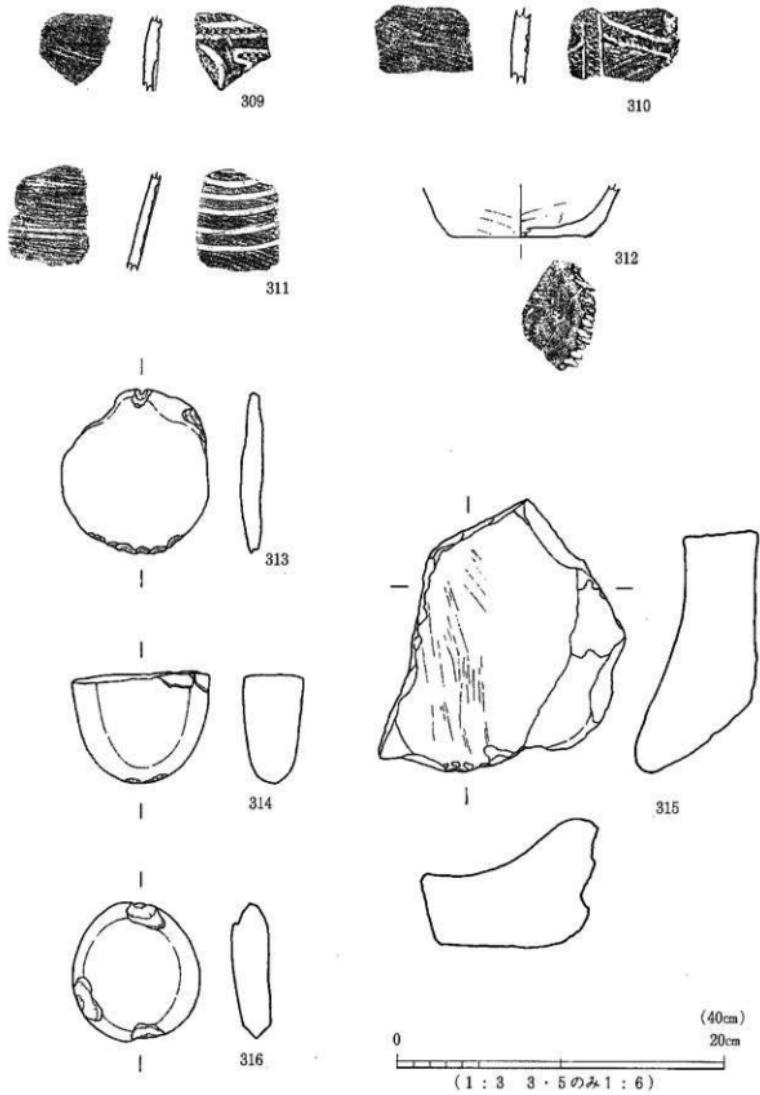
302

0 10cm
(1 : 3)

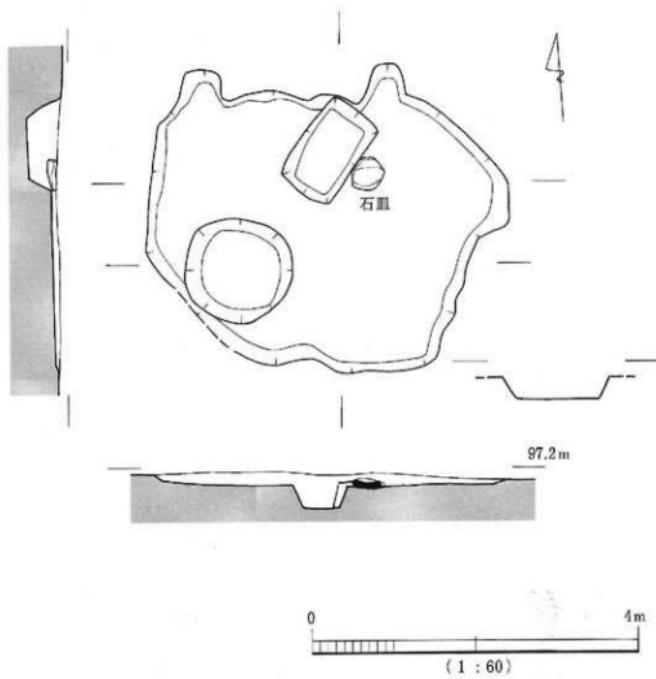
第50図 1号竪穴出土遺物 (4) (1/3)



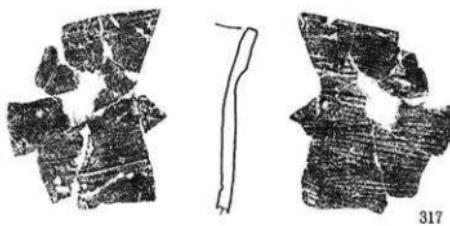
第51図 1号竖穴出土遺物 (5) (1 / 3)



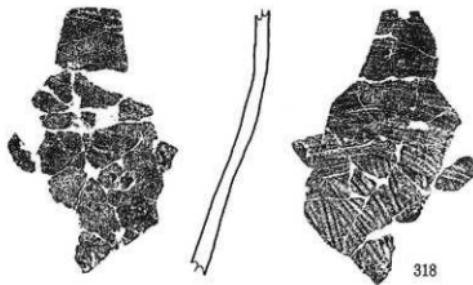
第52図 1号墳出土遺物 (6) (1/3・1/6)



第53図 2号竪穴 (1/60)



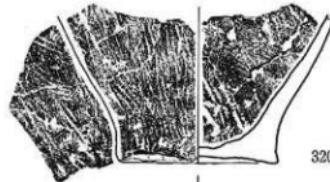
317



318



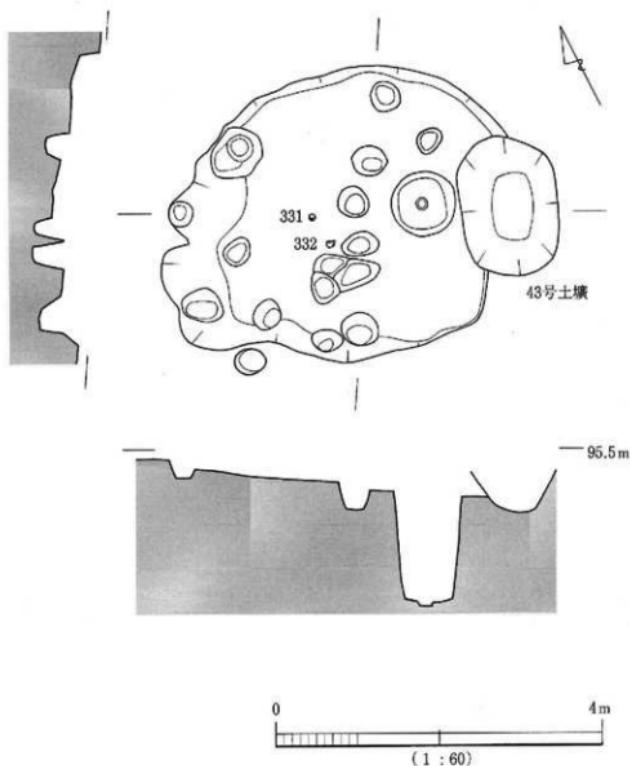
319



320

0
10cm
(1 : 3)

第54図 3号竪穴出土遺物 (1/3)



第55図 4号竪穴 (1/60)

広義の市来式の終末期に属する土器群が出土している。321や323のように口縁部の肥厚が見られないか、肥厚しても322のように痕跡程度となる。文様は1ないし2列の貝殻腹縁圧痕文が巡るのみである。324のみ狹小な肥厚帯を有し、そこに貝殻腹縁圧痕文を施す。328は鉢形土器で、おそらく下部に脚台が付くものであろう。外・内面の口縁上部に連点文を付し、内面に数箇所の貼り付けを施す。

329～332は磨石である。うち329・330は屋内土坑より出土。332は尾鈴山系酸性岩製。



321



322



323



324



325



326



327



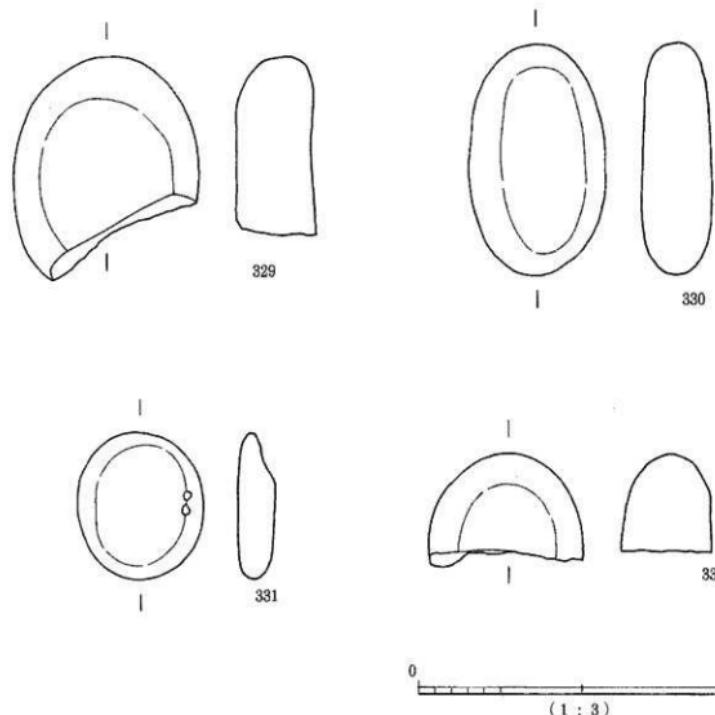
328

0

10cm

(1 : 3)

第56図 4号竪穴出土遺物 (1) (1/3)

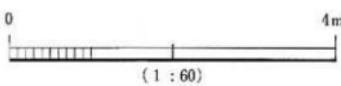
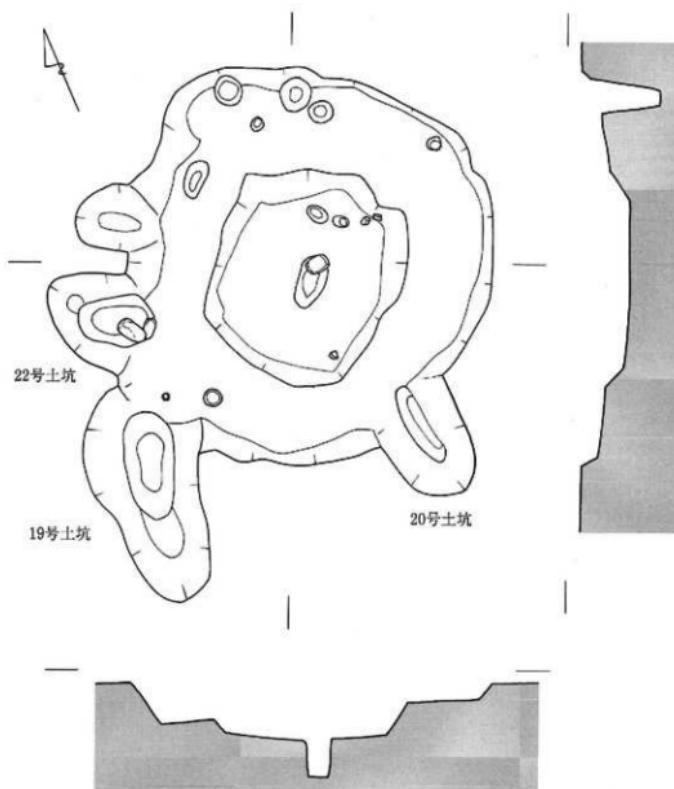


第57図 4号竪穴出土遺物 (2) (1/3)

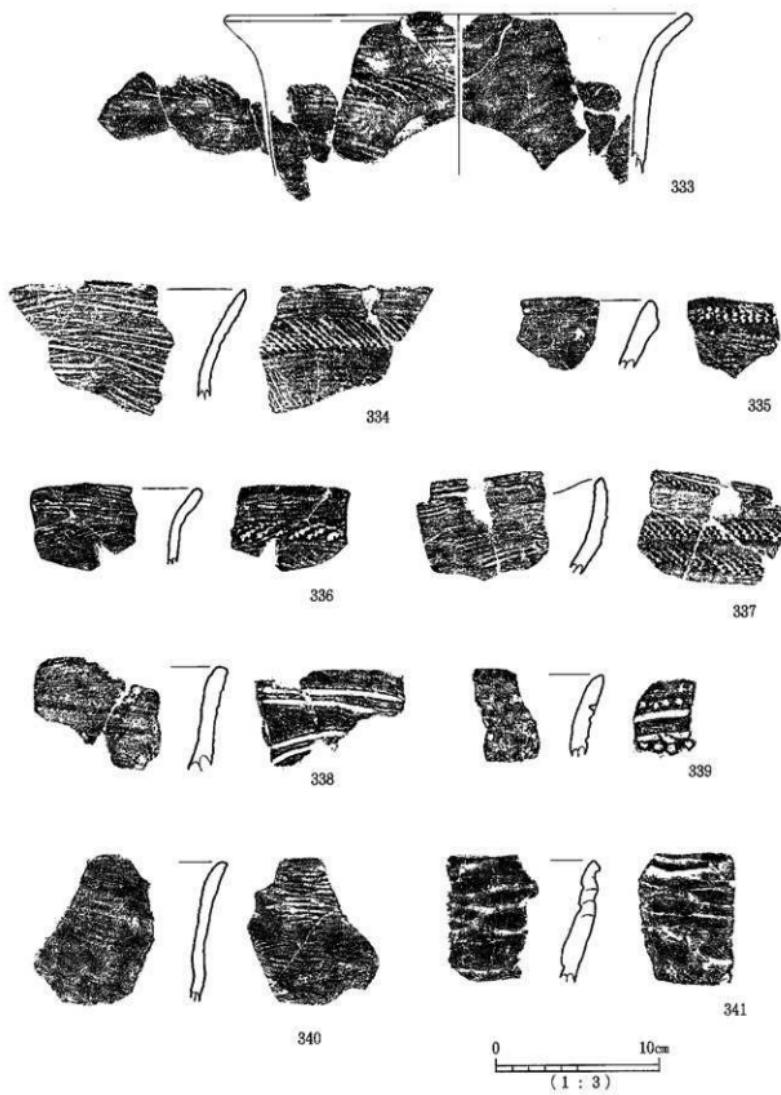
5号竪穴 (第58~61図)

37-38-19区で検出された。方形基調の竪穴であろう。覆土は暗褐色を呈する。平面規模は4.9m×4.5m、中央に2.6m×2.3mの土坑があり、その中央にはピットが1基ある。ピットの周囲には浅い凹部がある。床面までの深さは約20~40cm、土坑の深さは20~40cmを測る。南側と西側には土坑がある(19・20・22号土坑)。平面観察時は、土坑と竪穴の先後関係は明瞭でなかったが、おそらく竪穴が土坑を切るのであろう。

土器は、4号竪穴と同じく広義の市来式終末期に属するものが多く見られる(333~337)。338と339は平行沈線文を施すもので、342は口縁内部に貝殻腹縁圧痕文を施すもので、333などの一群よりも古期に属するものである。346は底面に圧痕が見られるもの(いわゆる網代底)である。348は土器器面のアーチ状の把手か。349は頁岩製の剥片。



第58図 5号竪穴 (1/60)



第59図 5号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



342



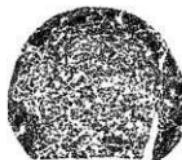
343



344



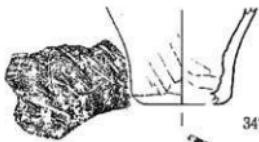
344



345



346



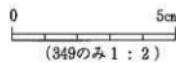
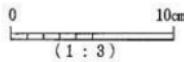
347



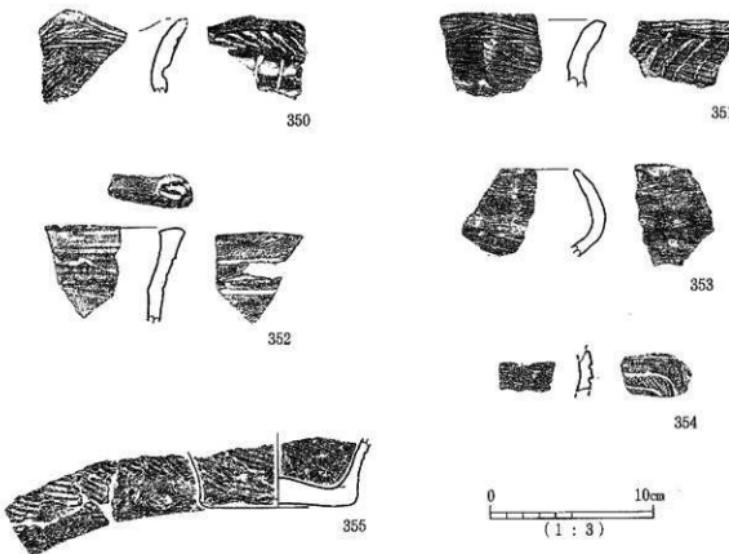
348



349



第60図 5号竪穴出土遺物 (2) (1/3・1/2)



第61図 6号竖穴出土遺物 (1) (1/3)

6号竖穴（別図1・2左・第61・62図）

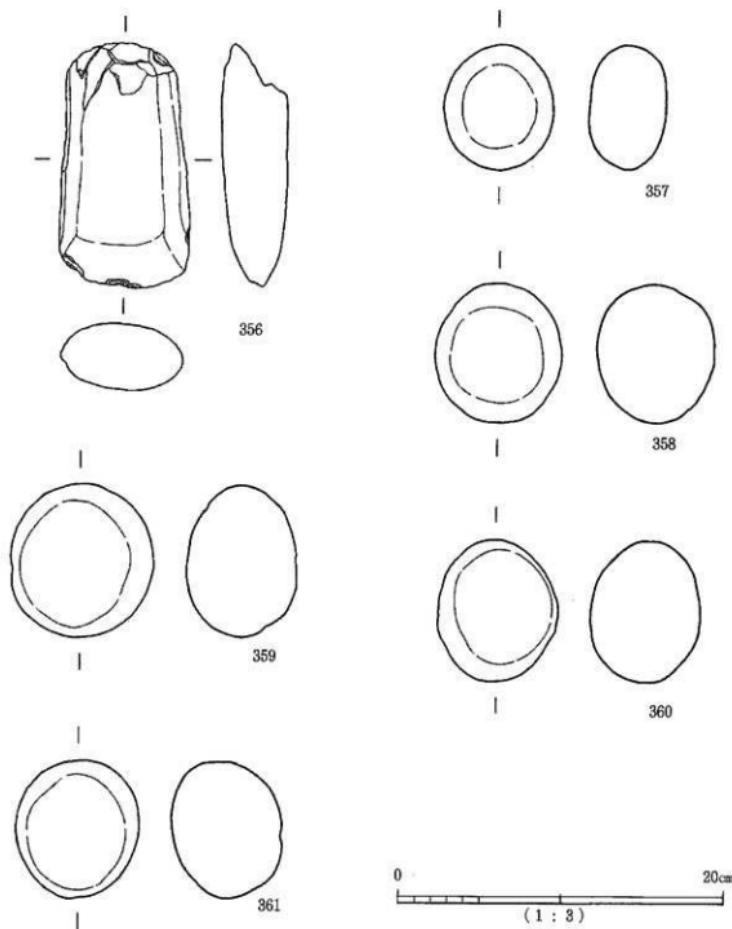
38-19坑の南側で検出された円形の堅穴。覆土は暗褐色を呈する。北側は40号土壤基構築の影響を受ける。また南・南西側は23号・24号土坑に切られる。径は3.0m、検出面からの深さは約30cm。床面の中央やや南東寄りに屋内土坑と見られる凹部がある。

出土土器は底部の355を除き全て小破片である。350・351は市来式系統のもので、貝殻腹縁圧痕文や凹線文を施す。352は幅広の口唇上端部に渦状の文様を施す。354は磨消繩文土器系の肩部片。353はキヤリバー状を呈する口縁部片で、時期的に遡るものと見られる。

石器は、大形の石斧（356）、磨石（357-361）などが認められる。磨石とした中には擦過痕の認められないものもあるが、いずれにしてもこの種の種の多さは特徴できよう。

7号・18号・19号竖穴（第63-68図）

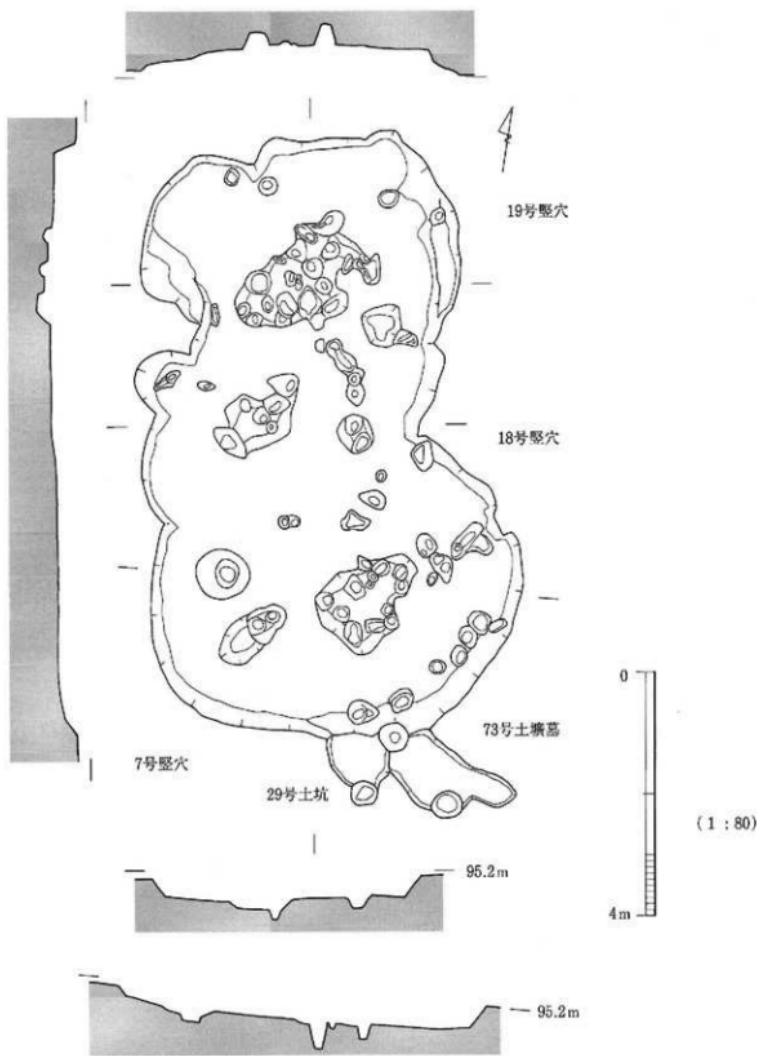
5号竖穴の南にある。検出当初は判らなかったが、のちの精査により3基が切り合った状態であることが確認できた。ただし、先後関係については明らかにできなかった。3基とも床面中央に土坑があり、さらにそれ以外にも多数の凹部が認められる。その意味するところは明らかにできないが、これはこの3基に限ったことではなく、多くの竖穴に共通する特徴である。



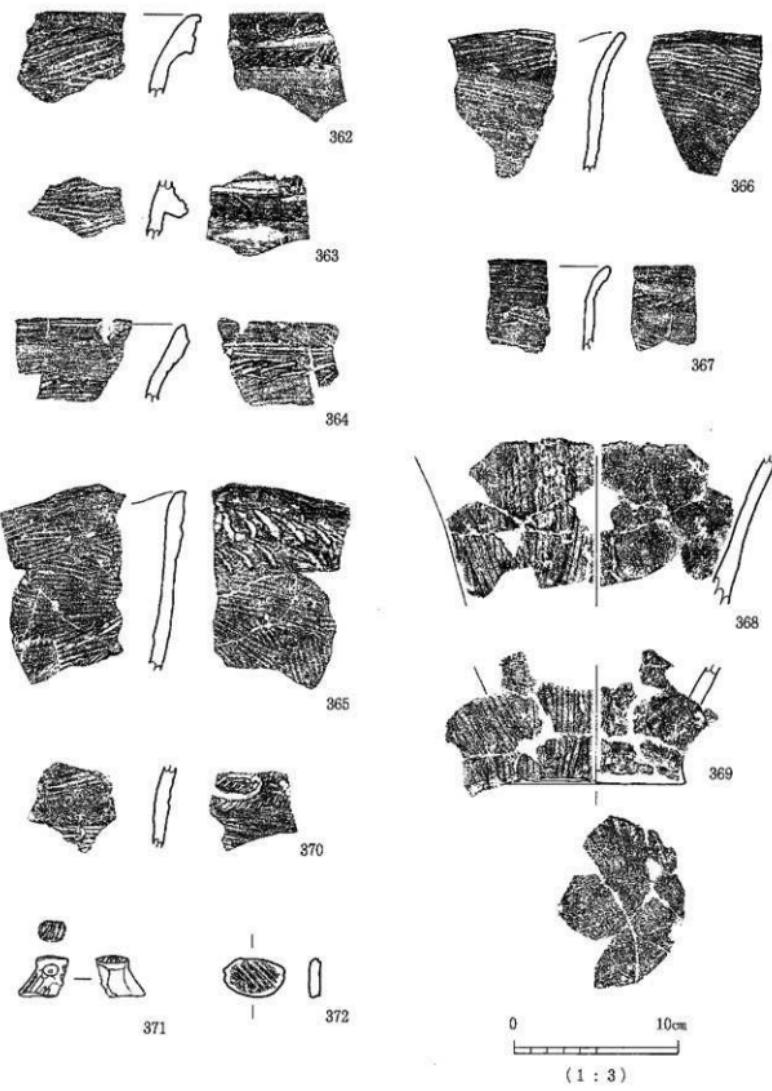
第62図 6号竪穴出土遺物 (2) (1/3)

7号竪穴は29号土坑を切り、73号土壙墓に切られる。覆土は黒褐色土。判明するところで径が6.0m、検出面からの深さは約20~40cmを測る。

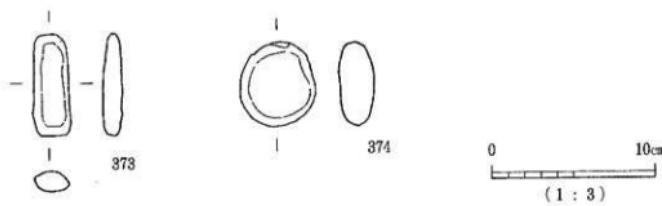
土器は市米式に属する、口縁部を肥厚させる上器(362~365)、広義の市来式の終末期の一群(366~367)などが認められる。370は沈線文と貝殻腹縁圧痕文を施す脇部片。371は後期土器にしばしば見られる瘤状突起であろう。372は土器片錐である。



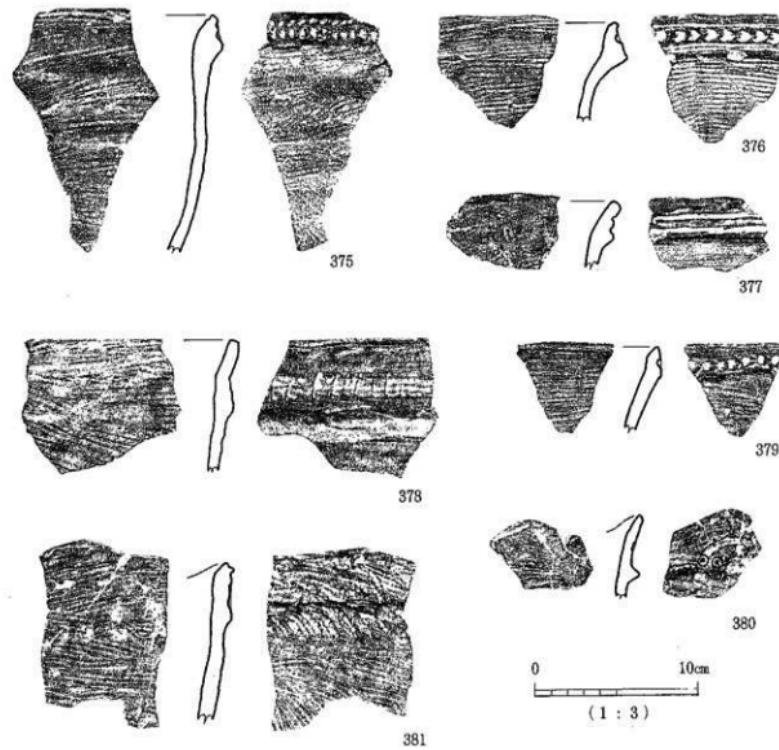
第63図 7号・18号・19号竪穴 (1/80)



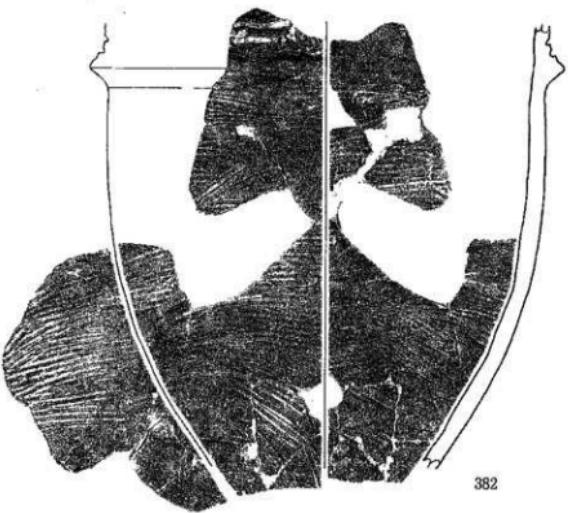
第64図 7号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



第65図 7号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



第66図 18号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



382



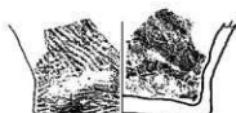
383



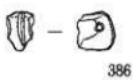
384



385



387



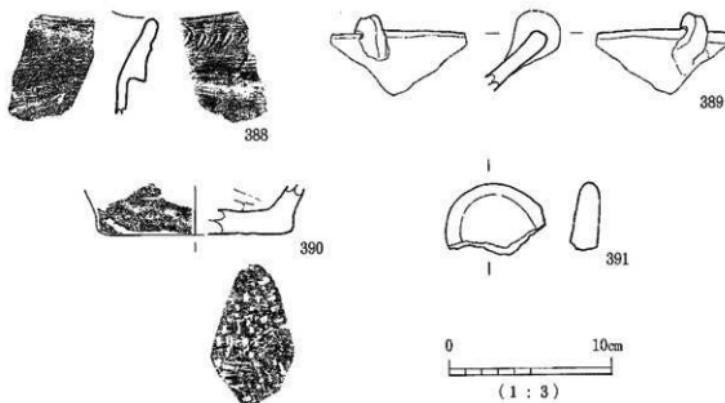
386

0

20cm

(1 : 3)

第67図 18号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



第68図 19号竪穴出土遺物 (1/3)

18号竪穴は、平面形を含めて不明な点が多いが、中央部の土坑らしきものが確認できるため、その存在は確かである。あるいは方形の竪穴であったのかも知れない。

土器は市来式に属するものが主体をなす(375~382)。383は口縁上部と突堤上に貝殻腹縁圧痕文を施すもの。384は外反する口縁部に貝殻腹縁圧痕文と凹線文を施すもので、広義の市来式終末期に属する個体である。385は平行沈線文の中に連点文を施す。市来式よりも古期に属するもので、混入資料であろう。386は瘤状突起部か。正面に縱方向の沈線を入れ、側面には穿孔を施す。

以上その他、図化していないが、石錐が1点出土している。

19号竪穴は円形とも隅丸方形ともとれる形状を呈する。判明する径は約5.2m。この竪穴も中央部に土坑を有する。土坑内には多数の凹部が見られる。

388は口縁部が断面三角形を呈する、市来式に属するもの。389は瘤状突起を付す口縁部片、390は圧痕を有する底部である。

391は石錐の破片の可能性があるが、定かでない。

8号～12号・14号堅穴（第69～79図）

41・42・19・20区で検出された堅穴群である。6基が確認できたが、ここについても、暗褐色土系の覆土が似通っており、14号堅穴が10号堅穴よりも新しい、という一点を除いて、先後関係は明らかにできなかった。南西端にある8号堅穴から東に向かって記述を進める。

8号堅穴は円形基調のものと見られるが、北と東側にコーナーらしき部位がある。判明する径は約4.0m。床面中央部に梢円形の土坑がある。柱穴らしきピットが南北に2基認められる。床面からの深さはいずれも20cm程度である。

出土土器の点数が多いが、まとまった資料は394のみである。392と394は市来式土器に属するもので、口縁部が「く」字形を呈する。口縁部肥厚帯とその下位に貝殻腹縁圧痕文を施す。392は口縁下部に穿孔を施す。394は口縁の波頂部直下に横方向の凹線を描く。393は肥厚が痕跡程度になるもの。

12号堅穴は形状、規模とも不明な点が多い。ほぼ中央の床面やや上位で出土した446はこの堅穴に伴うものか。ところによってごくわずかな口縁部の肥厚が認められる。その下部に貝殻腹縁圧痕文を巡らせる。

9号堅穴は円形基調の堅穴と見られる。径は4.1m。中央部に土坑を設けており、さらにその中にピットが1基存在する。床面には柱穴は認められない。

出土土器は、395以外はいずれも小破片である。395は口縁部に断面台形の突堤を付し、その下位に貝殻腹縁圧痕文を施す。396～399、402～408は市来式に属する資料である。400はわずかに口唇部を拡張させる無文土器、401は外反し、肥厚帯の見られないもの。409と410は瘤状突起の付く口縁部片である。411は鉢か皿形土器か。412は底部に圧痕が認められる。

415は側縁を研磨する両刃の定角式石斧である。風化が著しい。基部は破損しており、再加工を施している。416は石錘である。

10号堅穴も円形基調の堅穴で、中央部に土坑を有する。土坑の南脇には台石とみられる長さ約40cmの礫がある。

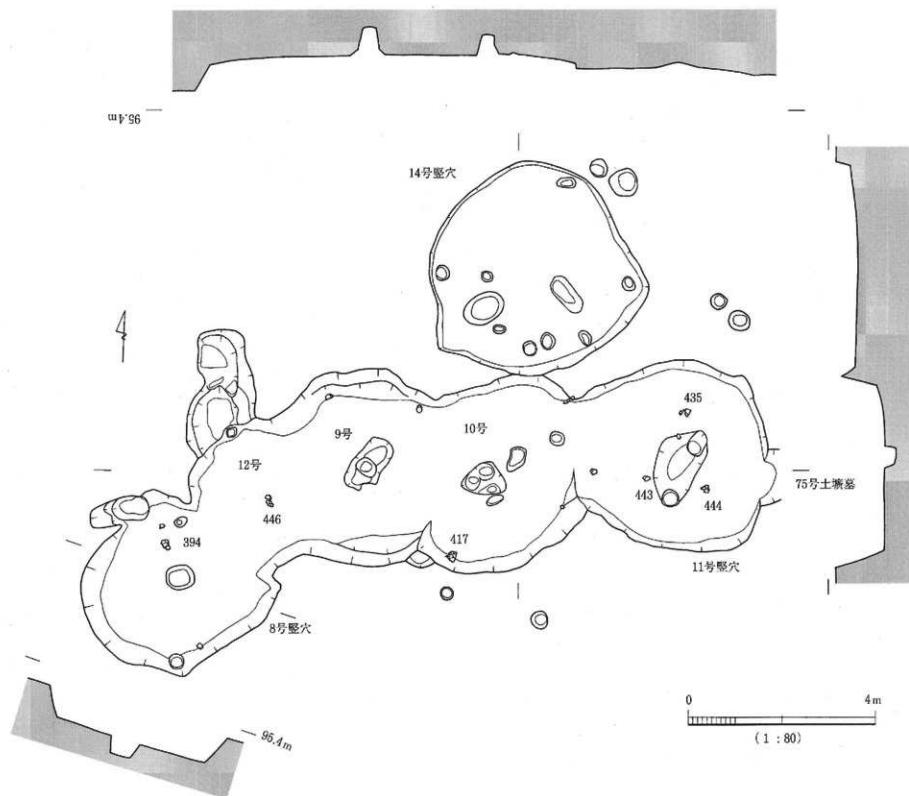
出土土器は、417～421のような市来式の典型に属するものが主体となる。うち417は比較的完形度の高い個体で、南西の麓界で出土している。424は小形の深鉢で、口縁部がわずかに肥厚させ、貝殻腹縁圧痕文を施す。425・426は器外面の瘤状突起であろう。

11号堅穴は最も東側に位置する円形の堅穴。径は4.0m、中央に深さ約10cm程の梢円形の土坑があり、その長軸上両端にピット（床面からの深さは約30cm）を設ける。

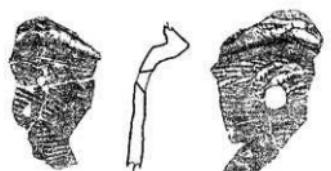
出土土器は、市来式（433～438）、市来式終末期の一組（441～444）など。439は口縁部が玉縁状に肥厚する。後者に属すると考えられる。440は平行沈線文、連点文を施すもので、主体の土器群より編年的に遅るものである。

14号堅穴は最も北側に位置する。円形基調の堅穴と見られるが、南東および南西側に角張った部分がある。これについては中央の土坑は認められず、柱穴も明瞭でない。また、あまり明瞭ではなかつたが10号堅穴を切る様子が観察できた。

遺物は土器の小破片（447）、磨石（448～452）などが見られた。447は口縁の波頂部で、外面に沈線文を施すもの。449はやや角張った形状の礫を使用しており、磨石であるとの認定には若干の疑問が残る。



第69図 8号・9号・10号・11号・12号・14号竖穴 (1/80)



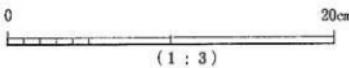
392



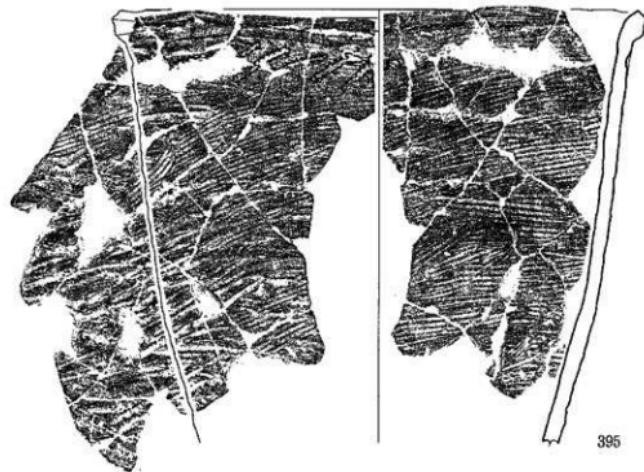
393



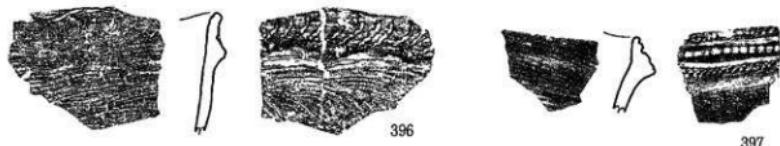
394



第70図 8号竪穴出土遺物 (1/3)



395



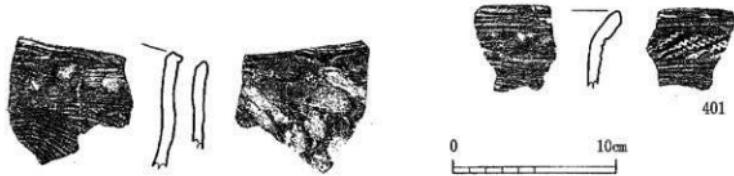
396

397



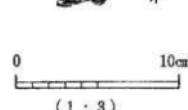
398

399

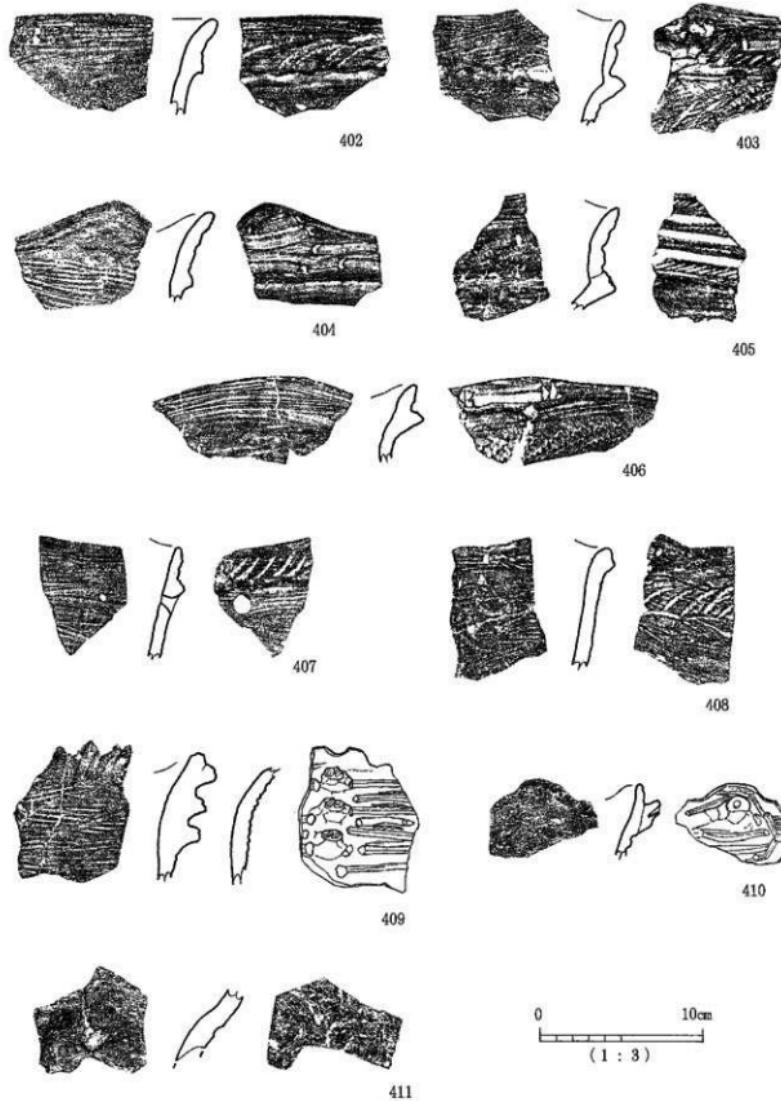


400

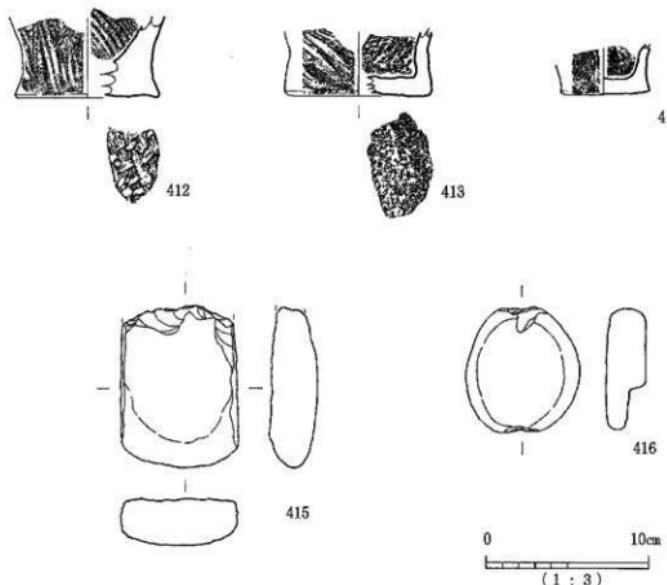
401



第71図 9号竪穴出土遺物 (1) (1/3)



第72図 9号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



第73図 9号竪穴出土遺物 (3) (1/3)

13号竪穴(別図3左・第80~83図)

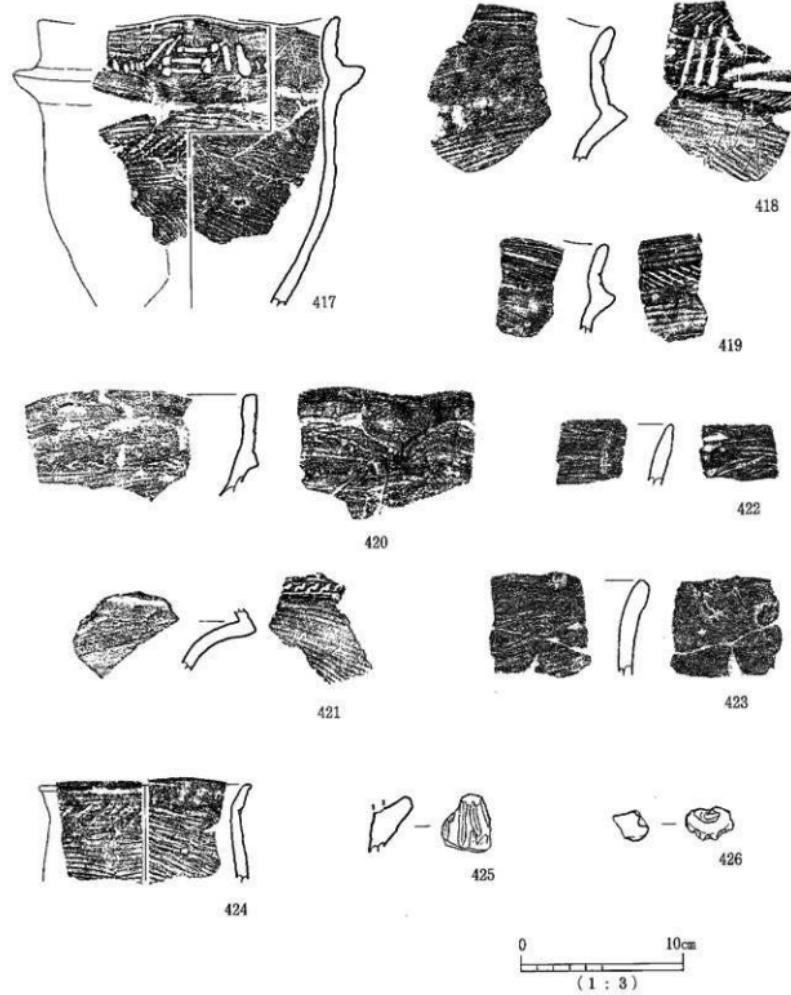
42-22区にある円形竪穴。径は2.8~3.0m、検出面からの深さは約50cmで、比較的残存状況が良好と言える。中央部には円形の土坑がある。他の竪穴の場合もそうであるが、土坑内部に炭化物、焼土等は見られず、火廻とは考えにくい。

この竪穴の覆土中より、多量の土器が出土している。ほとんどは覆土の上部にあり、廃絶時の同時性を示す遺物群ではなく、廃絶後一定時間が経過した段階で投棄されたと考えるべきであろう。

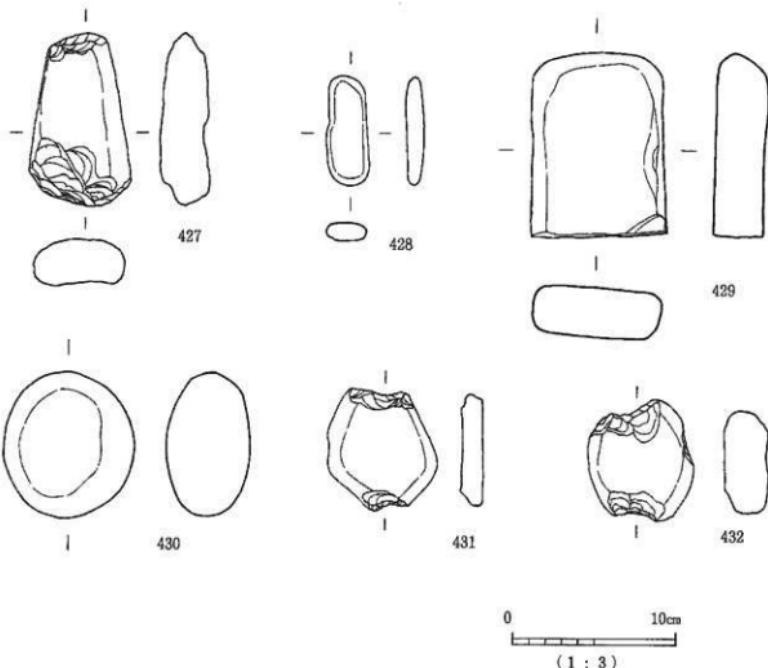
453や466、468などの個体が、ほぼ全周が完全に遺存するものである。

土器は市来式に属するものが主体をなす。455は口縁部の断面が三角形を呈し、そこに爪形文や凹線文を施す典型例である。波頂部下の肥厚帯に両側面から穿孔しており、また文様帶を中心に赤彩が施すなど、諸々の装飾を加えている。中には461、464~468のように肥厚帯が狭く、明瞭でなくなるものもある。461は口縁部に狭小な肥厚帯を設け、そこに爪形文(原体は貝殻か)を施すほか、その約3cm下位にも同様の文様と貝殻腹縁压痕文を施す。図にはあらわれないが口唇部平坦面にも浅い爪形文が認められる。470と471は外間に貝殻条痕のみ残る無文土器で、口縁部の肥厚は認められない。

473は磨消繩文系土器の副部片で、沈線間に単節の繩文(R L)が施文される。



第74図 10号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



第75図 10号竪穴出土遺物 (2) (1／3)

15号竪穴 (別図2左・第84図)

41-20・21区で検出された。円形基調の平面形を呈する。西側は他の土坑を切り、東側は近世の小穴に切られる。壁面の立ち上がりは他の竪穴と比較して傾斜が緩やかである。

床面中央部に、深さ約15cm程度の浅い椭円形土坑があり、その長軸上の両端部に深さ30~50cmのビットが存在する。床面上にはその他にもいくつかの小ビットが認められる。

遺物は土器の小破片がほとんどで、さして多くない。478は南側壁際で出土した比較的大きな破片である。市来式に属するもので、断面三角形の肥厚帯に爪形文や四線文、貝殻腹縁圧痕文を施す。479もやや小形ながら同様の口縁断面形を呈する個体で、文様帶には貝殻腹縁圧痕文を施す。

481~484はいずれも砂岩製の磨石である。



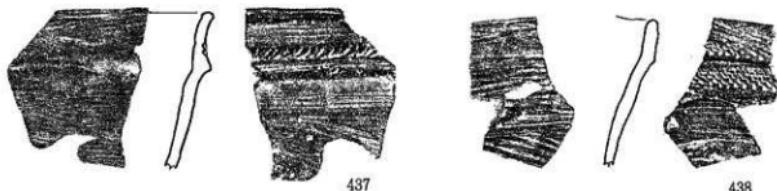
433

434



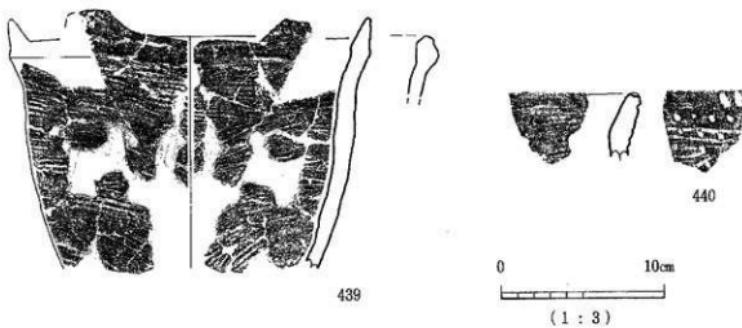
436

435



437

438



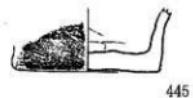
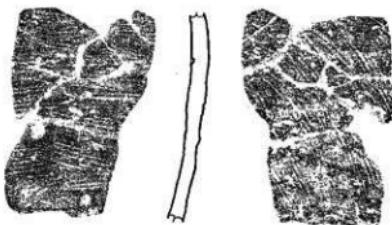
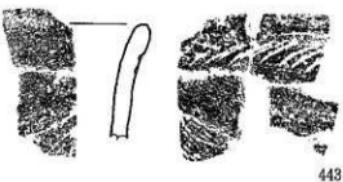
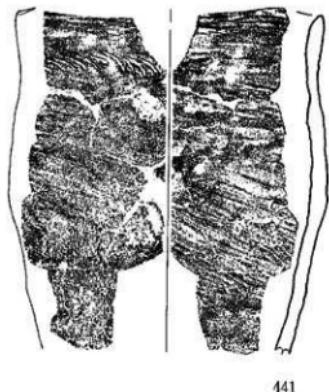
439

0

10cm

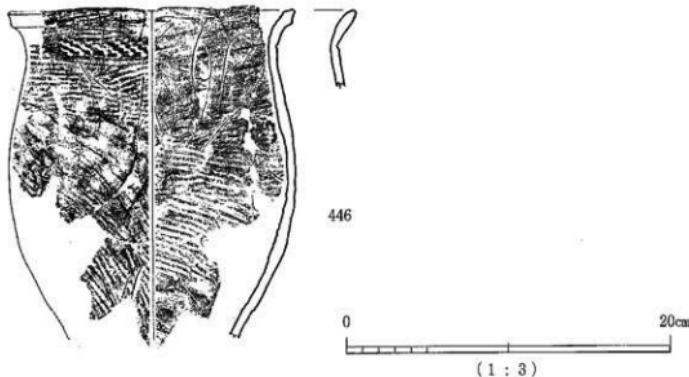
(1 : 3)

第76図 11号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



0 10cm
(1 : 3)

第77図 11号竪穴出土遺物 (2) (1/3)



第78図 12号竪穴出土遺物 (1/3)

16号・17号竪穴（別図2左・第85～88図）

15号竪穴の北で検出された。2基の竪穴が重なっていたが、覆土の違いがほとんどなかったため、先後関係については明確にすることができなかった。また、付近は近世遺構の集中区であり、両竪穴とも遺構構築の影響を受けている。

16号竪穴は、径2.0mの円形を呈する。床面中央部に深さ約10cmの浅い凹部があり、さらにその中央にピットが存在する。他にもピットがいくつもあるが、北東と南西のそれが比較的深く（床面より約30～40cm）、主柱穴たり得るものである。

出土土器は、市来式に属するものが主体となる。491は口縁部を肥厚させず、1列の爪形文を施す。492と493は磨消繩文系土器片で、493には単節の繩文（LR）を施す。496と497は土器片錐。498は文様が確認できる。明確な石器は498の右錐のみである。

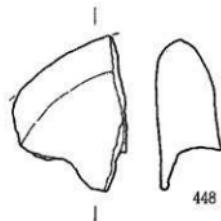
17号竪穴は、16号竪穴の北西側に隣接する。図面では北側が角張っているように見受けられるが、その付近は層位が乱れており、若干掘りすぎたきらいがある。円形の竪穴と見て間違いないであろう。東と西側のピットが主柱穴と見られ、その間の床面はわずか低くなる。

出土土器のうち、499は口縁部上面を拡張して文様帯とする個体で、沈線文を施している。外面及び内面は無文。500～503は市来式に属するものであるが、いずれも肥厚帯の厚さはさほどでない。505は台付鉢形土器である。口縁部の形状や文様構成は市来式深鉢のそれに類似する。506も鉢部はないが、同様の器種と考えられる。

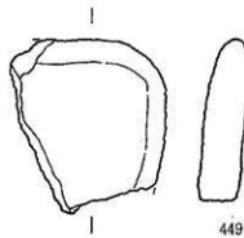
石器は磨石（509）、右錐（510）の他、スクレイバー2点が出土している（507・508）。



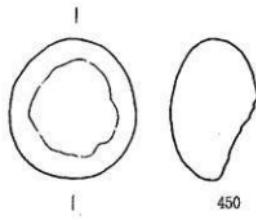
447



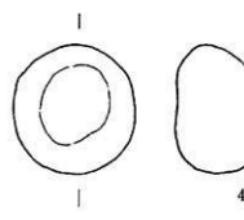
448



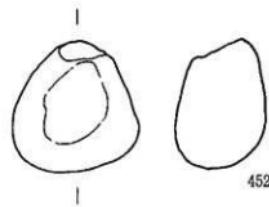
449



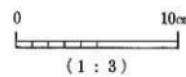
450



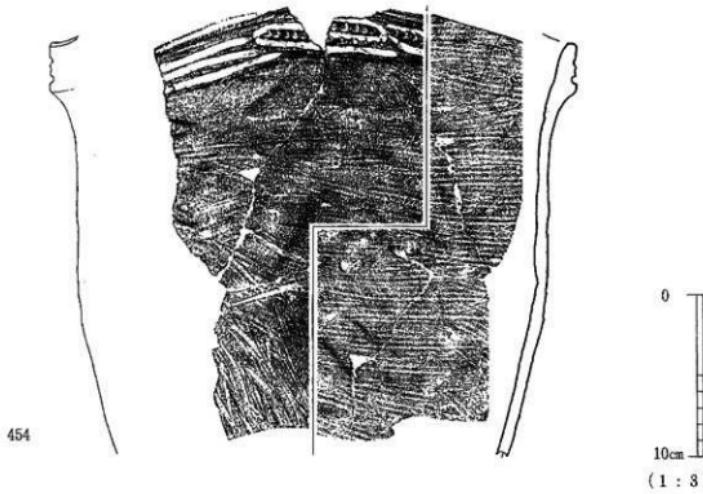
451



452



第79図 14号竪穴出土遺物 (1/3)



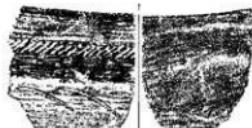
第80図 13号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



455



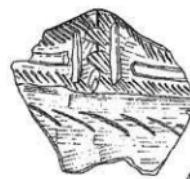
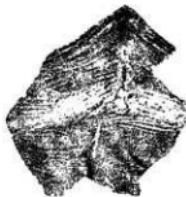
456



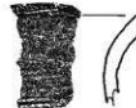
457



458

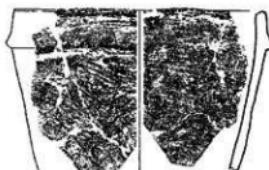


459



460

460

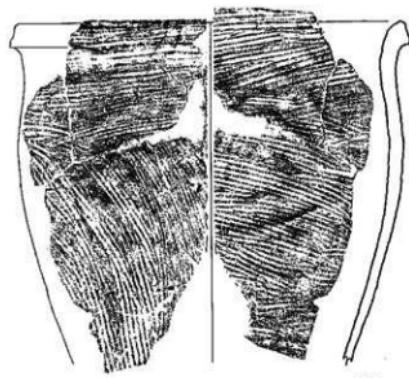


463

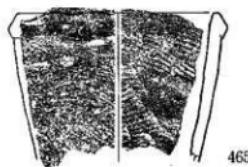
462

0
(1 : 3)
10cm

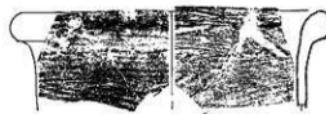
第81図 13号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



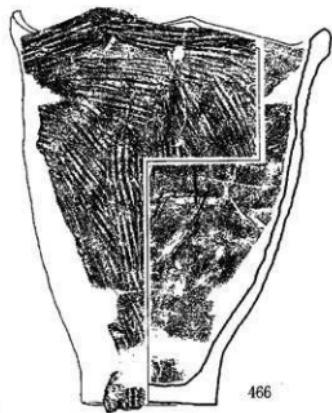
464



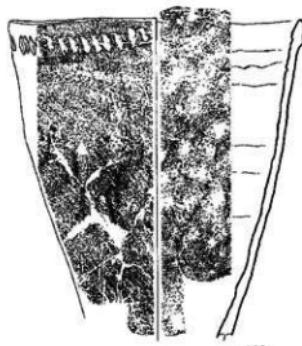
465



467



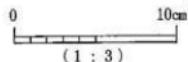
466



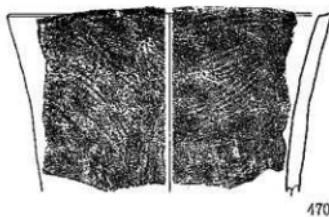
468



469



第82図 13号竪穴出土遺物 (3) (1 / 3)



470



471



472

0
10cm
(1 : 3)



473



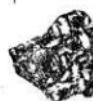
474



475



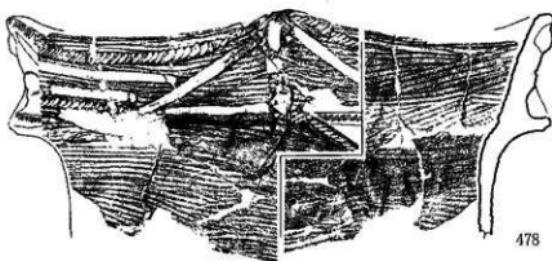
476



477



第83図 13号竪穴出土遺物 (4) (1/3)



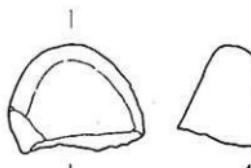
478



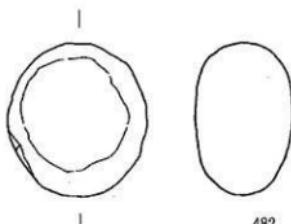
479



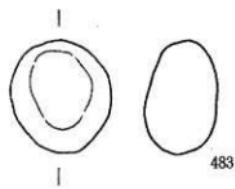
480



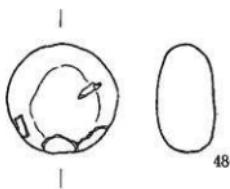
481



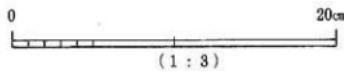
482



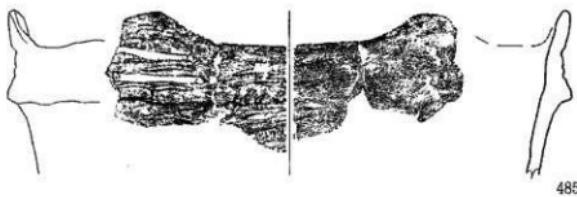
483



484



第84図 15号竪穴出土遺物 (1/3)



485



486

487



488

489

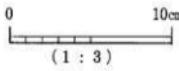


490

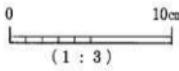
491



492



493



第85図 16号竪穴出土遺物 (1) (1/3)



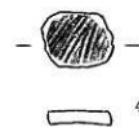
494



495



496

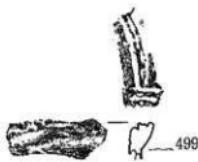


497



498

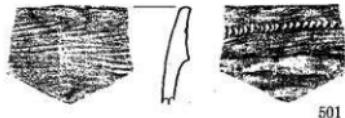
第86図 16号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



499



500



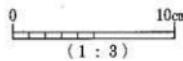
501



502

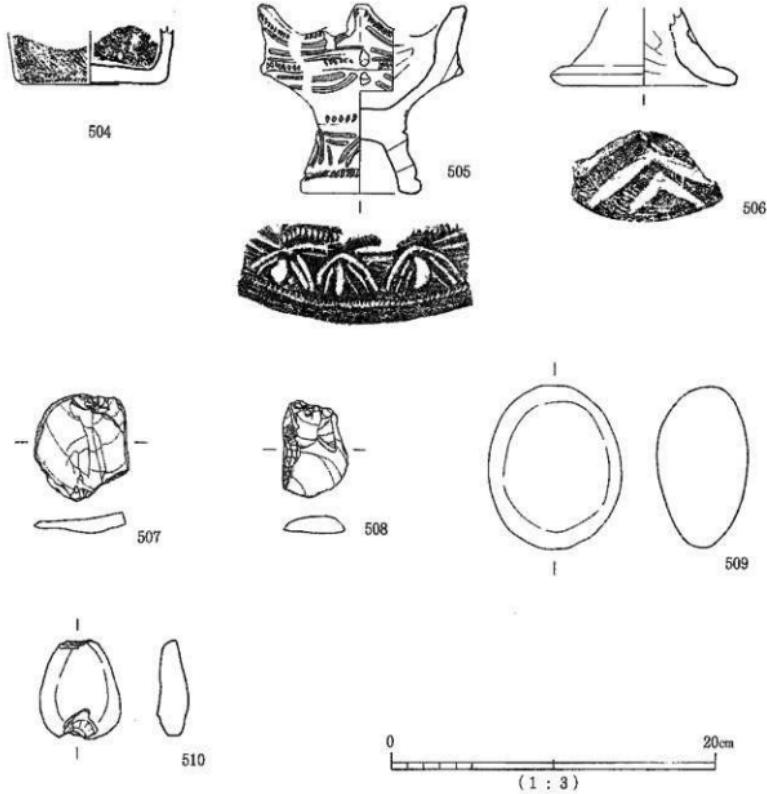


503



(1 : 3)

第87図 17号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



第88図 17号竪穴出土遺物 (2) (1/3)

第8表 出土土器観察表 (1)

遺物 番号	器 種 部 位	出 土 地 点	底 径 (cm)	手法・開口・文様				色 調	地 土 の 特 徴	備 考
				外 面	内 面	外 面	内 面			
294	縄文 口縁・腹部	SA 1	(36.3)	貝殻腹縫直文 凹縞文	貝殻条痕、ナデ	暗赤褐色	明赤褐色	2 mm以下の褐色、透明光沢粒	スス付着	
295	縄文 底部	SA 1	(11.7)	貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	赤褐色	赤褐色	1.5mm以下の褐色、透明光沢粒	礫質土質	
296	縄文 口縁・腹部	SA 1	(44.4)	沈縞文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の灰白色、黑色明光沢粒		
297	縄文 口縁・腹部	SA 1	(24.2)	沈縞文	貝殻条痕、ナデ	黄褐色	黄褐色	2 mm以下の灰白色、透明光沢粒		
298	縄文 口縁・腹部	SA 1	(32.6)	ナデ	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の灰白色、透明光沢粒	スス付着	
299	縄文 口縁・腹部	SA 1	(20.8)	凹点文、凹縞文	ヨコナデ	灰青褐色	灰青褐色	4 mm以下の灰、灰白、褐色粒		
300	縄文 口縁	SA 1		沈縞文	条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の透明光沢粒		
301	縄文 腹部	SA 1		貝殻条痕	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の乳白色の粒		
302	縄文 口縁	SA 1		貝殻腹縫直文 沈縞文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の灰白色、茶褐色	透明光沢粒	
303	縄文 口縁・腹部	SA 1		貝殻条痕、ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1.5mm以下の灰白色、透明光沢粒		
304	縄文 口縁	SA 1		貝殻腹縫直文 沈縞文	ヨコナデ、日乾条痕、ナデ	灰	灰	1 mm以下の灰白、灰褐色	透明、黑色光沢粒	
305	縄文 口縁	SA 1		貝殻腹縫直文 沈縞文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の灰白色、透明光沢粒	透明、黑色光沢粒	
306	縄文 口縁	SA 1		沈縞文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の灰白色、透明光沢粒		
307	縄文 口縁	SA 1		沈縞文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の灰白色、透明光沢粒		
308	縄文 口縁	SA 1		沈縞文 貝殻腹縫直文	貝殻条痕、ナデ	灰	明黄褐色	1 mm以下の灰白色、透明光沢粒		
309	縄文 腹部	SA 1		沈縞文 貝殻腹縫直文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の乳白色	透明、金色光沢粒	
310	縄文 腹部	SA 1		沈縞文 貝殻腹縫直文	貝殻条痕	黄褐色	黄褐色	1 mm以下の乳白色	透明、金色光沢粒	
311	縄文 腹部	SA 1		沈縞文	貝殻条痕	灰	灰	5 mm以下の灰、乳白色	透明光沢粒	
312	縄文 底部	SA 1		刻印、ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の乳白色	透明光沢粒	
313	縄文 口縁・腹部	SA 3		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶色、褐色	透明光沢粒	
314	縄文 腹部	SA 3		貝殻条痕、ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶色、透明光沢粒		
315	縄文 口縁	SA 3		沈縞文、連点文	ヨコナデ	程	程	1 mm以下の白色	透明光沢粒	
316	縄文 腹部	SA 3		貝殻条痕	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の灰白色、透明光沢粒		
317	縄文 口縁・腹部	SA 4		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の淡茶色	透明光沢粒	
318	縄文 腹部	SA 4		貝殻条痕	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶色、透明光沢粒		
319	縄文 口縁	SA 3		沈縞文、連点文	ヨコナデ	程	程	1 mm以下の白色	透明光沢粒	
320	縄文 腹部	SA 3		貝殻条痕	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶、褐色	透明光沢粒	
321	縄文 口縁	SA 4		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	2.5mm以下の淡茶色	透明光沢粒	
322	縄文 口縁	SA 4		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の淡茶色	透明光沢粒	
323	縄文 口縁	SA 4		貝殻条痕	貝殻条痕	程	程	4 mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
324	縄文 口縁	SA 4		連点文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	3 mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
325	縄文 腹部	SA 4		貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	程	程	4 mm以下の茶、褐色	透明光沢粒	
326	縄文 腹部	SA 4		貝殻条痕	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	3 mm以下の茶、褐色	透明光沢粒	
327	縄文 底部	SA 4	(10.2)	貝殻条痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	1 mm以下の黒い茶、灰白色の粒		
328	縄文 内側壁	SA 4	(27.5)	連点文、ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	3 mm以下の茶褐色	透明光沢粒	
329	縄文 口縁	SA 5	(28.0)	貝殻腹縫直文	ナデ	程	程	1 mm以下の茶白、灰褐色	透明光沢粒	
330	縄文 口縁・腹部	SA 5		貝殻条痕	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶白、灰褐色	透明光沢粒	
331	縄文 口縁	SA 5		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶白、灰褐色	透明光沢粒	
332	縄文 口縁	SA 5		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶白、灰褐色	透明光沢粒	
333	縄文 口縁	SA 5		貝殻条痕	貝殻条痕	程	程	4 mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
334	縄文 口縁	SA 5		連点文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	3 mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
335	縄文 口縁	SA 5		貝殻腹縫直文	ヨコナデ	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
336	縄文 口縁	SA 5		貝殻腹縫直文	貝殻条痕	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶、褐色	透明光沢粒	
337	縄文 口縁	SA 5		貝殻腹縫直文	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶白、褐色	透明光沢粒	
338	縄文 口縁	SA 5		沈縞文	ヨコナデ	灰青褐色	灰青褐色	1 mm以下の茶、白色	透明光沢粒	
339	縄文 口縁	SA 5		連点文、沈縞文	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	4 mm以下の茶、褐色、灰色の粒		
340	縄文 口縁	SA 5		貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	灰青褐色	灰青褐色	白色の粒		
341	縄文 口縁	SA 5		ナデ	ナデ	灰青褐色	灰青褐色	2 mm以下の茶色の粒		
342	縄文 口縁	SA 5		ヨコナデ	貝殻腹縫直文	明赤褐色	明赤褐色	3 mm以下の乳白色	透明光沢粒	
343	縄文 台付直 腹部	SA 6		貝殻条痕	幽玄文、湖突文	灰青褐色	灰青褐色	2.5mm以下の茶、乳白色	透明光沢粒	
344	縄文 直縫部	SA 5	10.4	貝殻条痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	1.5mm以下の茶白、茶褐色	透明光沢粒	
345	縄文 直縫部	SA 5	(11.2)	貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	浅黄	浅黄	3 mm以下の乳白、白、黒色	透明光沢粒	

第9表 出土土器観察表 (2)

遺物番号	種別	香 無	出 土	法 並 (cm)		手法・調製・文様ほか		色 調		施 土 の 特徴	備 考			
				上	径	底	高	外 面	内 面					
346	縦文	深鉢 底部	SA 5		(7.5)			ナデ	貝殻条痕、ナデ	浅黄 にぶい黄	1mm以下の灰白色、透明 黒色光沢有	織物伝板		
347	縦文	深鉢 底部	SA 5		(4.8)			貝殻条痕、ナデ	ナデ	にぶい黄	灰青褐色 黒褐色	0.5mm以下の透明光沢無	織物伝板	
350	縦文	深鉢 底部	SA 6					凹縞文 貝殻條痕直底文	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	乳白色、透明光沢無		
351	縦文	深鉢 上部	SA 6					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	褐	にぶい褐	0.5mm以下の乳白色、光沢無		
352	縦文	深鉢 口縫	SA 6					沈縞文	貝殻条痕	にぶい褐	にぶい褐	4mm以下の灰、白色の粒		
353	縦文	深鉢 口縫	SA 6					ミガキ状ナデ	ミガキ状ナデ	にぶい黄	2mm以下の灰、赤褐色 透明白光沢			
354	縦文	深鉢 底部	SA 6					凹縞文、縦文	丁寧なナデ	黒褐	黒褐	3mm以下の灰、赤褐色 透明白光沢		
355	縦文	深鉢 底部	SA 6					貝殻条痕	ナデ	にぶい黄	1mm以下の灰白色、透明光沢無			
362	縦文	深鉢 底部	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	明赤褐	2mm以下の灰、乳白色 透明白光沢	貼付文書		
363	縦文	深鉢 底部	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	褐	にぶい褐	1.5mm以下の透明、半透明光沢有	貼付文書	
364	縦文	深鉢 底部	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	透明光沢無		
365	縦文	深鉢 口縫	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	灰青褐色 赤褐	2mm以下の赤褐色、透明白光沢			
366	縦文	深鉢 口縫	SA 7					貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	褐	褐	1mm以下の灰、灰白色、透明 光沢無	スス付書	
367	縦文	深鉢 口縫	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	暗赤褐	暗赤褐	1mm以下の乳白、褐色、透明光沢無		
368	縦文	深鉢 口縫	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	褐	にぶい褐	1.5mm以下の透明、半透明光沢有	貼付文書	
369	縦文	深鉢 底部	SA 7					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	にぶい褐	にぶい褐	透明光沢無		
370	縦文	深鉢 底部	SA 7		(10.4)			貝殻条痕	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	3mm以下の灰、赤褐色、乳白色の粒		
371	縦文	深鉢 底部	SA 7					貝殻條痕直底文 凹点文	貝殻條痕、ナデ	褐	褐	1mm以下の半透明、透明白光沢		
372	縦文	上器片體	SA 7					貝殻条痕	貝殻条痕	明赤褐	—	きめこまやか		
375	縦文	深鉢 底部	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	程	明褐	1mm以下の乳白色、透明白光沢		
376	縦文	深鉢 口縫	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	程	程	1mm以下の乳白色、透明白光沢	スス付書	
377	縦文	深鉢 口縫	SA 18					沈縞文	ナデ	にぶい褐	程	4mm以下の赤褐、灰白、赤黃色、 透明白光沢	スス付書	
378	縦文	深鉢 上部	SA 18					貝殻條痕押引文	貝殻条痕	程	程	1mm以下の灰色の粒		
379	縦文	深鉢 上部	SA 18					透点文	貝殻条痕、指捺痕	灰褐色 程	にじく青紫色 程	1.5mm以下の灰、灰褐色、褐色、透明 光沢		
380	縦文	深鉢 底部	SA 18					沈縞文	ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2.5mm以下の褐色の粒		
381	縦文	深鉢 底部	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	程	程	1mm以下の灰、灰褐色、透明光沢	スス付書	
382	縦文	深鉢 底部	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	2mm以下の青褐、乳白、茶、黑色、 貼付文書		
383	縦文	深鉢 口縫	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	程	程	2.5mm以下の青褐色の粒	貼付文書	
384	縦文	深鉢 口縫	SA 18					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	にぶい程	1mmの黄褐色の粒			
385	縦文	深鉢 口縫	SA 18					透点文	ナデ	程	程	3mm以下の黄褐色、灰白、灰褐色、 黑色、透明白光沢		
386	縦文	深鉢 底部	SA 18					沈縞文	—	にぶい程	—	1mm以下の灰、茶褐色の粒	穿孔 スス付書	
387	縦文	深鉢 底部	SA 18		(10.2)			貝殻条痕	ナデ	程	灰褐色	にぶい程	2.5mm以下の灰、乳白色の粒	
388	縦文	深鉢 口縫	SA 19					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	1mm以下の乳白色、透明白光沢		
389	縦文	深鉢 口縫	SA 19					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	灰褐色 程	にぶい程	1mm以下の灰褐色、灰褐色、 透明白光沢	突起	
390	縦文	深鉢 底部	SA 19		(11.6)			貝殻条痕	ナデ	浅黄褐色 程	にぶい程	1mm以下の透明光沢		
392	縦文	深鉢 底部	SA 8					貝殻條痕直底文 沈縞文	貝殻条痕	程	程	1mm以下の灰褐色、灰褐色、 黑色、透明白光沢	織物伝板	
393	縦文	深鉢 口縫	SA 8					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	4mm以下の灰、灰白色の粒	スス付書	
394	縦文	深鉢 底部	SA 8					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	程	程	0.5mm以下の浅褐色、透明白光沢	スス付書	
395	縦文	深鉢 底部	SA 8		(31.8)			貝殻條痕直底文	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	2mm以下の灰、乳白色の粒		
396	縦文	深鉢 底部	SA 9					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	明赤褐	明赤褐	2mm以下の茶褐色の粒		
397	縦文	深鉢 上部	SA 9					貝殻條痕直底文 透点文	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	0.5mm以下の透明光沢		
398	縦文	深鉢 口縫	SA 9					貝殻條痕直底文	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	0.5mm以下の透明光沢		
399	縦文	深鉢 口縫	SA 9					貝殻條痕直底文	貝殻条痕、ナデ	灰褐色 程	にぶい程	1mm以下の乳白色の粒		
400	縦文	深鉢 底部	SA 9					ナデ	貝殻条痕	にぶい程	にぶい程	2mm以下の茶色の粒	スス付書	

第10表 出土土器観察表 (3)

番号	種別	基 地 立	法 量(cm)			手法・質感 文様ほか		色 調		地 土 の 特 徴	備 考
			上 径	底 径	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面		
401	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文	貝紋条痕	にぶい赤褐	にぶい黄褐色	2mm以下の褐色、透明光沢	スス付着
402	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい褐	にぶい黄	3mm以下の褐、黒、灰色の粒	
403	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文 窓比印文	貝紋条痕	にぶい赤褐	にぶい赤褐	2mm以下の褐色、透明光沢	スス付着
404	縄文	深鉢 口縁		SA9		門繩文	貝紋条痕・ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	2mm以下の褐、白、透明光沢	
405	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい赤褐	にぶい赤褐	3mm以下の褐色、黒色光沢	
406	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文 巴紋文	貝紋条痕・ナデ	根	根	3mm以下の灰、褐色の粒	
407	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい赤褐	根	2mm以下の灰、黒、茶褐色、 透明光沢	黒度 空孔
408	縄文	深鉢 口縁		SA9		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	根	にぶい根	3mm以下の茶、黒、白色、 透明光沢	
409	縄文	深鉢 口縁		SA9		沈繩文 貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	明示開	根	3mm以下の褐色、透明光沢	実験3ヶ所
410	縄文	深鉢 口縁		SA9		沈繩文	粗いナデ	にぶい赤褐	根	0.5mm以下の透明光沢	火照
411	縄文	深鉢 口縁		SA9		ナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐	にぶい根	4mm以下の赤褐、乳白、黒色、 透明光沢	
412	縄文	深鉢 口縁		SA9	(8.6)	貝紋条痕・ナデ	貝紋条痕	にぶい根	根	2mm以下の乳白、褐、灰色の粒	褐色斑点
413	縄文	深鉢 口縁		SA9	(8.7)	貝紋条痕・ナデ	貝紋条痕	浅黄	にぶい根	4mm以下の赤褐、褐色、黑色透明 光沢	
414	縄文	深鉢 口縁		SA9	5.5	貝紋条痕・ナデ	貝紋条痕・ナデ	根	根	0.5mm以下の黄色の粒	
417	縄文	口縁~瓶底		SA10	(18.0)	貝紋模様付灰文 沈繩文凹点文	貝紋条痕	黒褐	にぶい褐	0.5mm以下の白色、透明光沢	
418	縄文	深鉢 口縁		SA10		沈繩文	貝紋条痕	にぶい根	にぶい根	1mm以下の透明光沢	
419	縄文	深鉢 口縁		SA10		貝紋模様付灰文	貝紋条痕	暗褐	根	2mm以下の乳白色、透明、半透明 光沢	
420	縄文	深鉢 口縁		SA10		沈繩文	貝紋条痕・ナデ	根	根	1.5mm以下の灰白色、透明光沢	
421	縄文	深鉢 口縁		SA10		貝紋模様付灰文	ナデ	根	根	1mm階、灰色の粒	
422	縄文	深鉢 口縁		SA10		烟弦線文	貝紋条痕	灰褐	にぶい根	1mm以下の褐色、透明光沢	スス付着
423	縄文	深鉢 口縁		SA10		ナデ	貝紋条痕・ナデ	にぶい根	にぶい根	3mm以下の灰、 白色の粒	スス付着
424	縄文	山縫~胸部		SA10	(12.8)	貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	暗褐	暗褐	透明光沢	
425	縄文	深鉢 口縁		SA10		ナデ	ナデ	灰褐	にぶい根	1mmの白、黒色の粒	
426	縄文	深鉢 突起		SA10		沈繩文	ナデ	にぶい根	根	0.5mm以下の淡黄色、黒色透明光沢	瘤状突起
433	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	灰褐	にぶい根	2mm以下の白、黒、乳白色の粒	
434	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	明示開	根	2mm以下の灰白色、半透明、透明、 褐色光沢	
435	縄文	口縁~胸部		SA11		貝紋模様付灰文 沈繩文	貝紋条痕・ナデ	明示開	根	0.5mm以下の茶、黒、透明、 黑色光沢	
436	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	暗褐	根	4mm以下の赤褐色、黒色、 透明光沢	スス付着
437	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	明示開	明示開	3mm以上の茶、灰褐、乳白、 黑色、透明光沢	
438	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい根	にぶい根	2mm以下の白、乳白色の粒	
439	縄文	山縫~胸部		SA11	(22.0)	貝紋模様付灰文	貝紋条痕	暗褐	暗褐	2mm以下の灰褐、黒褐色の粒	
440	縄文	深鉢 口縁		SA11		沈点文、沈繩文	貝紋条痕	根	にぶい根	1mm以下の灰、赤褐色、黑色、 透明光沢	
441	縄文	深鉢 口縁		SA11	(19.6)	貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	暗褐	暗褐	2mm以下の黄、褐色、 黑色、透明光沢	
442	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい根	にぶい根	3mm以下の黄、褐、赤褐色、 透明光沢	
443	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	にぶい根	にぶい根	にぶい根	
444	縄文	深鉢 口縁		SA11		貝紋条痕	貝紋条痕	にぶい根	にぶい根	0.5mm以下の淡黄色、透明光沢	
445	縄文	深鉢 口縁		SA11	8.7	貝紋条痕・ナデ	ナデ	にぶい根	にぶい根	2mm以下の白、透明光沢	
446	縄文	山縫~胸部		SA12	(17.25)	貝紋模様付灰文	貝紋条痕・ナデ	暗褐	暗褐	2mm以下の黄、褐色、 黑色、透明光沢	スス付着
447	縄文	深鉢 口縁		SA14		貝紋模様付灰文	貝紋条痕	にぶい根	にぶい根	1.5mm以下の茶、黒、茶色、 透明光沢	
453	縄文	深鉢 口縁		SA13	28.9	沈繩文、貝紋条痕	貝紋条痕・ナデ	にぶい根	根	4mm以下の灰色の粒	スス付着
454	縄文	深鉢 口縁		SA13	(31.4)	沈繩文、刻文突文	貝紋条痕	にぶい根	にぶい根	5mm以下の灰、茶色、褐、 褐色光沢	
455	縄文	深鉢 口縁		SA13		爪形文	貝紋条痕	根	根	3mm以下の茶、黒、灰色の粒	赤形
456	縄文	深鉢 口縁		SA13		門繩文、沈点文	貝紋条痕・ナデ	暗褐	暗褐	5mm以下の灰、灰白色の粒	
457	縄文	深鉢 口縁		SA13	(21.6)	貝紋模様付灰文	貝紋条痕	明示	明示	1mm以下の乳白色、透明光沢	

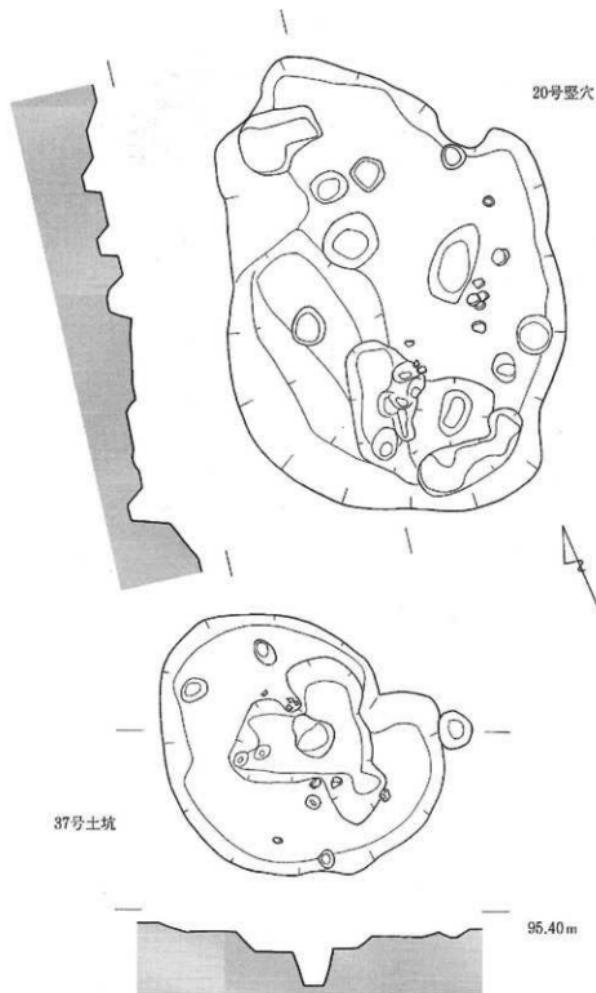
第11表 出土土器観察表 (4)

遺物 番号	種別	器 形 態	出 土地 点	法 蓋 (cm)			手法・測定・文様等			色 調		地 下 の 特 徴	備 考
				口 径	底 径	器 高	外 面	内 面	外 面	内 面			
458	縄文	深鉢 口縁	SA13				爪形文	貝殻条痕	褐灰	浅黄	1mm以下の浅黄色、透明光沢粒		
459	縄文	深鉢 口縁	SA13				貝殻膜縫合痕文 凹線文	貝殻条痕・ナデ	灰褐色	にぶい粒	1mm以下の乳白色、透明光沢粒		
460	縄文	深鉢 口縁	SA13				凹線文、爪形文	貝殻条痕	灰褐色	にぶい粒	0.5mm以下の浅黄色、透明光沢粒		
461	縄文	深鉢 口縁	SA13				貝殻膜縫合痕文 爪形文	貝殻条痕・ナデ	赤褐色	赤褐色	1mm以下の浅白色、透明光沢粒		
462	縄文	口縁～肩部	SA13 (13.9)				貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	黑褐色 にぶい粒	明赤褐色 灰褐色	4mm以下の赤褐色、白芯、透明光沢粒		
463	縄文	口縁～肩部	SA13				爪形文	貝殻条痕	橙	1mm以下の乳白色、透明光沢粒			
464	縄文	口縁～肩部	SA13 (29.3)				貝殻条痕	貝殻条痕	褐灰	暗紅褐色	0.5mm以下の浅黄色、透明光沢粒		
465	縄文	口縁～肩部	SA13 (11.9)				ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	2mm以下の褐色		スヌ付着
466	縄文	深鉢 口縁～底部	SA13 (18.8)	8.1	24.25		貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	灰褐色	灰褐色	6mm以下の暗赤褐色、灰白、黒褐色		
467	縄文	深鉢 口縁～底部	SA13 (18.3)				貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい粒	にぶい粒	4mm以下の暗褐色、透明、黒色		
468	縄文	口縁～底部付近	SA13 (18.0)				貝殻膜縫合痕文	ナデ	灰褐色	灰褐色	にぶい粒		
469	縄文	深鉢 口縁	SA13				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕	灰褐色	灰褐色	3mm以下の灰褐色の粒		
470	縄文	深鉢 口縁～肩部	SA13 (17.4)				貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	透明光沢粒		
471	縄文	深鉢 口縁	SA13				貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい粒	にぶい粒	黒色、透明光沢粒		
472	縄文	深鉢 肩部～底部	SA13	9.9			貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	にぶい粒	にぶい粒	にぶい粒		スヌ付着
473	縄文	深鉢 肩部	SA13				ミガキ、凹線文、 編文	ナデ	にぶい粒	にぶい粒	1mm以下の赤褐色、明赤褐色、 黒色、透明光沢粒		
474	縄文	深鉢 肩部	SA13				沈線文	沈線文	褐	明褐色	1mm以下の暗淡、透明光沢粒		
475	縄文	深鉢 底部	SA13				ナデ	ナデ	橙	褐褐色	3mm以下の暗褐色、光沢粒		
476	縄文	深鉢 底部	SA13				貝殻条痕	ナデ	灰褐色	灰褐色	3mm以下の白の白、赤褐色、透明光沢粒		黒褐色
477	縄文	七郎片縁	SA13				貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	—	にぶい粒	1mm以下の褐色、透明光沢粒		スヌ付着
478	縄文	深鉢 口縁	SA15				貝殻膜縫合痕文、 門型文、凹凸文	貝殻条痕・ナデ	褐	橙	1mm以下の暗灰、褐色、透明光沢粒		
479	縄文	深鉢 口縁	SA15				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕	明赤褐色 にぶい粒	黑褐色	1mm以下の暗褐色の粒		スヌ付着
480	縄文	深鉢 底部	SA15				貝殻条痕	ナデ	にぶい粒	橙	3.5mm以下の褐色の粒		
485	縄文	深鉢 口縁	SA16 (37.8)				貝殻膜縫合痕文、 沈線文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	1mm以下の白色、透明光沢粒		穿孔
486	縄文	深鉢 口縁	SA16				凹線文、四点文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	2mmの淡黄、灰褐色、透明光沢粒		
487	縄文	深鉢 口縁	SA16				貝殻膜縫合痕文、 凹線文	貝殻条痕・ナデ	明赤褐色	暗赤褐色	2mm以下の暗灰、黒褐色、透明光沢粒		
488	縄文	深鉢 口縁	SA16				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕	にぶい粒	にぶい粒	2mm以下の暗褐色、黒褐色、透明光沢粒		
489	縄文	深鉢 口縁	SA16				貝殻膜縫合痕文	ナデ	明褐色	暗褐色	1mm以下の褐色の粒		
490	縄文	深鉢 口縁	SA16				凹線文	粗いナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	1mmの灰、白色の粒		
491	縄文	深鉢 口縁	SA16				凹線文	貝殻条痕	橙	褐褐色	0.5mm以下の灰褐色、褐色、透明、 黒褐色		
492	縄文	深鉢 肩部	SA16				沈線文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	2mm以下の乳白、黑色半透明光沢粒		
493	縄文	深鉢 肩部	SA16				沈線文、縦文	ナデ	にぶい粒	にぶい粒	2mm以下の乳白、黑色の粒		
494	縄文	深鉢 底部	SA16	10.8			貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	橙	橙	2mm以下の乳白、黑色の粒		
495	縄文	深鉢 底部	SA16	(10.6)			ナデ	ナデ	にぶい粒	明褐色	4mm以下の黒、乳白色の粒		
496	縄文	凹盤	SA16				運点文、沈線文	ナデ	にぶい粒	にぶい粒	1mm以下の黒、灰白色、透明光沢粒		
497	縄文	土器片縁	SA16				貝殻条痕	ナデ	にぶい粒	灰褐色	1mm以下の灰、灰白色、透明光沢粒		
499	縄文	深鉢 口縁	SA17				(口唇) 沈線文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	1mm以下の灰、灰褐色、黒、 透明、半透明光沢粒		
500	縄文	深鉢 口縁	SA17				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	橙	1mm以下の褐色の粒		
501	縄文	深鉢 口縁	SA17				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	明褐色	1mm以下の褐色の粒		
502	縄文	深鉢 口縁	SA17				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	暗褐色	1mm以下の白の白、灰褐色、透明、 半透明光沢粒		
503	縄文	深鉢 口縁	SA17 (22.6)				貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	にぶい粒	5mm以下の褐色の粒		
504	縄文	深鉢 底部	SA17	(9.0)			貝殻条痕	ナデ	明褐色	明褐色	3mm以下の淡黃、灰色、透明光沢粒		白色付着
505	縄文	台付尾 口縁	SA17 (12.4)	7.0	(11.5)		貝殻膜縫合痕文	貝殻条痕・ナデ	にぶい粒	明褐色	1mm以下の灰褐色光沢粒		
506	縄文	脚台 脚部	SA17	(11.0)			沈線文	ナデ	にぶい粒	にぶい粒	1mmの淡黄色、透明光沢粒		

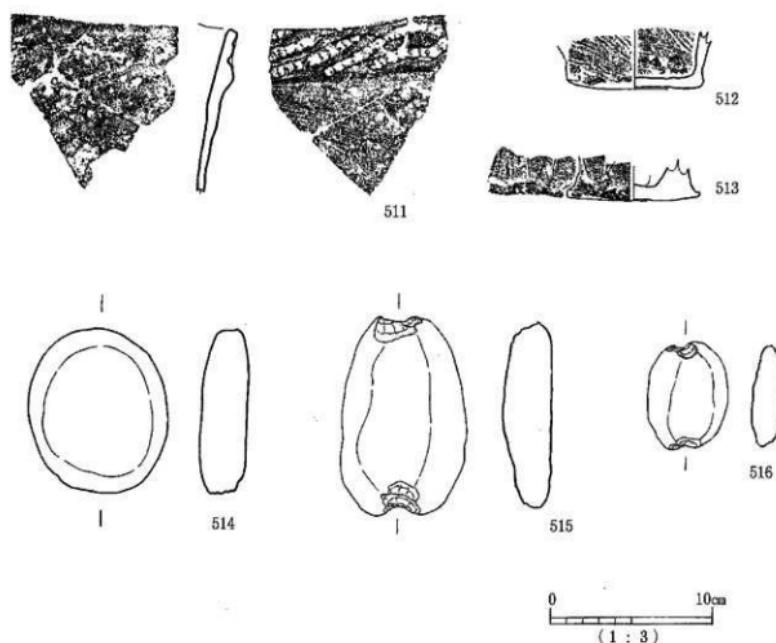
第12表 石器計測表 (2)

遺物 番号	器種	出土 地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
313	石錐	SA 1	7.45	6.70	1.00	77.5	頁 岩	
314	磨石	SA 1	6.90	8.40	3.65	311.6	砂 岩	
315	石皿	SA 1	25.2	22.40	10.90	4600.0	凝灰岩	
316	石錐	SA 1	6.30	5.80	1.90	99.1	砂 岩	
329	磨石	SA 4	(13.65)	11.40	4.80	1052.3	*	
330	磨石	SA 4	14.20	8.00	4.50	782.0	*	
331	磨石	SA 4	9.50	7.25	2.40	225.6	*	
332	磨石	SA 4	(7.00)	9.45	5.45	61.7	尾鈴酸性岩	
349	刮片	SA 5	3.60	2.50	0.50	3.9	頁 岩	
356	石斧	SA 6	14.90	8.50	4.20	801.7	*	
357	磨石	SA 6	7.75	6.70	4.80	345.9	砂 岩	
358	磨石	SA 6	8.50	7.35	7.30	637.2	*	
359	磨石	SA 6	9.40	8.90	6.70	788.9	*	
360	磨石	SA 6	8.20	7.45	7.00	629.8	礫 岩	
361	磨石	SA 6	8.40	7.55	6.70	607.2	砂 岩	
373	石斧	SA 7	6.18	2.10	1.15	27.5	頁 岩 石ノミ	
374	磨石	SA 7	6.78	6.15	2.85	174.2	砂 岩	
381	不明	SA 19	(4.35)	(6.10)	(1.80)	50.3	*	

遺物 番号	器種	出土 地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
415	石斧	SA 9	(9.80)	7.20	2.90	369.7	頁 岩	
416	石錐	SA 9	7.55	6.90	2.45	180.1	砂 岩	
427	石斧	SA 10	10.50	6.30	3.10	294.2	頁 岩	
428	その他	SA 10	6.73	2.45	1.18	31.80	*	
429	砾石	SA 10	11.48	8.30	3.05	623.5	砂 岩	
430	磨石	SA 10	8.75	8.08	5.15	499.6	*	
431	石錐	SA 10	7.40	6.63	1.40	101.2	*	
432	石錐	SA 10	7.33	6.50	2.65	16.15	*	
448	磨石	SA 14	(9.48)	(6.85)	(3.85)	255.8	*	
449	磨石?	SA 14	(10.58)	(9.60)	(2.55)	347.2	礫 岩	
450	磨石	SA 14	8.55	7.73	(5.35)	460.1	砾 岩	
451	磨石	SA 14	7.90	7.45	5.00	510.8	泥 岩	
452	磨石	SA 14	(7.90)	7.78	5.50	485.1	砂 岩	
481	磨石	SA 15	(6.55)	(8.30)	(5.00)	283.2	*	
482	磨石	SA 15	9.30	8.60	6.10	638.0	*	
483	磨石	SA 15	6.56	6.20	4.40	244.0	*	
484	磨石	SA 15	6.65	6.80	3.50	222.4	*	
496	石錐	SA 16	6.80	6.70	2.60	143.8	*	



第89図 20号竪穴・37号土坑 (1/60)



第90図 20号竪穴出土遺物 (1/60)

20号竪穴・37号土坑（第89・90図）

20号竪穴は、39-17区北東端に位置する。楕円形を呈し、床面上には多数のピットが認められる。特に南側は凹部が目立つ。長径は6.0m、短径は4.1m。覆土はIc層基調のオリーブ褐色土である。

出土遺物は比較的少ない。511は口縁部断面が三角形を呈する、市来式に属するものである。底部片の513は、下端部が強く外方に張り出す。また図示した石器の他、中央やや東よりの位置に数個の円礫が見られた。

20号竪穴の南西に37号土坑がある。3.4×3.1mの楕円形を呈し、床面はほぼ平坦となる。床面中央部にやや不整形な土坑があり、その中央にさらに一段深いピットがある。やや小振りではあるが、竪穴と見るべきであろう。覆土は20号竪穴とほぼ同質である。

固化可能な遺物は皆無であった。